HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」2019～2020年度活動報告書
Author(s)	人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室
Citation	1-100
Issue Date	2021-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/80956
Type	report
File Information	aab4c219293869b879644ebff2473a0e.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2019～2020年度

活動報告書

KNIT

ご あ い さ つ

北海道大学
理事・副学長
山口　淳二

北海道大学
ダイバーシティ
研究環境推進室室長
矢野　理香

北海道大学では2019年度、連携機関である室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社と共に、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」(2019～2024年度)に採択され、2019年10月より本格的な活動を開始しました。本事業では「様々な背景を持つ研究者が"研究を継続し、自立に向けて努力し、それぞれに『イノベーションコア人材』として飛躍する"ことを可能にするダイバーシティ研究環境の実現」を目指しています。

これまでに、事業推進の基盤となる「北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議」を設置し、意識改革やワークライフバランスに配慮した研究環境の整備、女性研究者の研究力向上とリーダー育成、上位職登用に向けた取組、多様なキャリアパス構築支援と次世代育成等に協働で取り組んでまいりました。特に、連携機関に所属する研究者による研究交流発表会や女性研究者をリーダーとする共同研究助成においては、機関や分野をまたぐ新たな着想による共同研究がスタートする等、連携の効果が着実に広がっています。

また、本事業では、連携機関のみならず北海道に拠点を置く研究機関・企業・自治体などの協力機関を得ながらネットワークを形成し、ダイバーシティ推進による多様な人材の活躍と地域活性化を目指して取組を展開しており、これまでに12機関に協力機関として参画いただき、活動の輪を広げることができました。

本事業では、事業の愛称を「KNIT(ニット)」と名付けました。多様な人や取組が、様々な形で編み物の糸のように支えあい、地域全体を包むネットワークとして広がっていくことを目指す、本事業の姿を表現しています。

本事業は、連携機関、協力機関をはじめ多くの関係の皆様のご理解とご協力により実施しております。皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、今後も一層のご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

もくじ

ごあいさつ

Ⅰ 事業概要と実施体制 1

Ⅱ 取組の実施内容 5

Ⅱ-1 2019年度の取組

Ⅱ-1-1 実施内容一覧 6
Ⅱ-1-2 ダイバーシティ研究環境整備のための取組 8
Ⅱ-1-3 研究力向上・リーダー育成のための取組 29
Ⅱ-1-4 上位職への積極登用に向けた取組 35
Ⅱ-1-5 女性研究者の裾野拡大に向けた取組・その他 42

Ⅱ-2 2020年度の取組

Ⅱ-2-1 実施内容一覧 48
Ⅱ-2-2 ダイバーシティ研究環境整備のための取組 51
Ⅱ-2-3 研究力向上・リーダー育成のための取組 75
Ⅱ-2-4 上位職への積極登用に向けた取組 89
Ⅱ-2-5 女性研究者の裾野拡大に向けた取組・その他 95

※報告内容に含まれるセミナー講師等の所属情報および名称は、開催当時の内容です。

I 事業概要と実施体制

事　業　概　要

事業の名称

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

事業の概要

本事業では、北海道内の大学と企業が連携し、多様な研究人材の活躍による地域活性化に向けて、研究環境の更なる改善と意識改革、キャリアアップと自立に向けた支援、女性研究リーダー、女性上位職・管理職のさらなる増加など、多くの取組を展開するものであり、連携機関の共通の課題を可視化し、研究と組織変革をリードする「イノベーションコア人材（研究リーダー人材＋大学マネジメント人材）」の育成に向けて取り組む。

実　施　体　制

連携の体制

北海道内の６つの連携機関によって「北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）」推進会議を設置（事務局：北海道大学）した。KNIT 推進会議において取組の方針や方向性を決定し、具体的な内容については業務担当者会議にて決定する２段階の体制を構築した。オンライン会議を積極的に利用し、業務担当者会議において実務者レベルでの情報交換を緊密に行うことで知見やノウハウを共有し、KNIT 全体の取組の加速につなげた。また、北海道地域全体に取組を波及させるために協力機関の仕組みを整え、ネットワークの拡充と取組の波及に努めた。(2020 年 12 月 1 日現在の「協力機関」数は 12 機関)

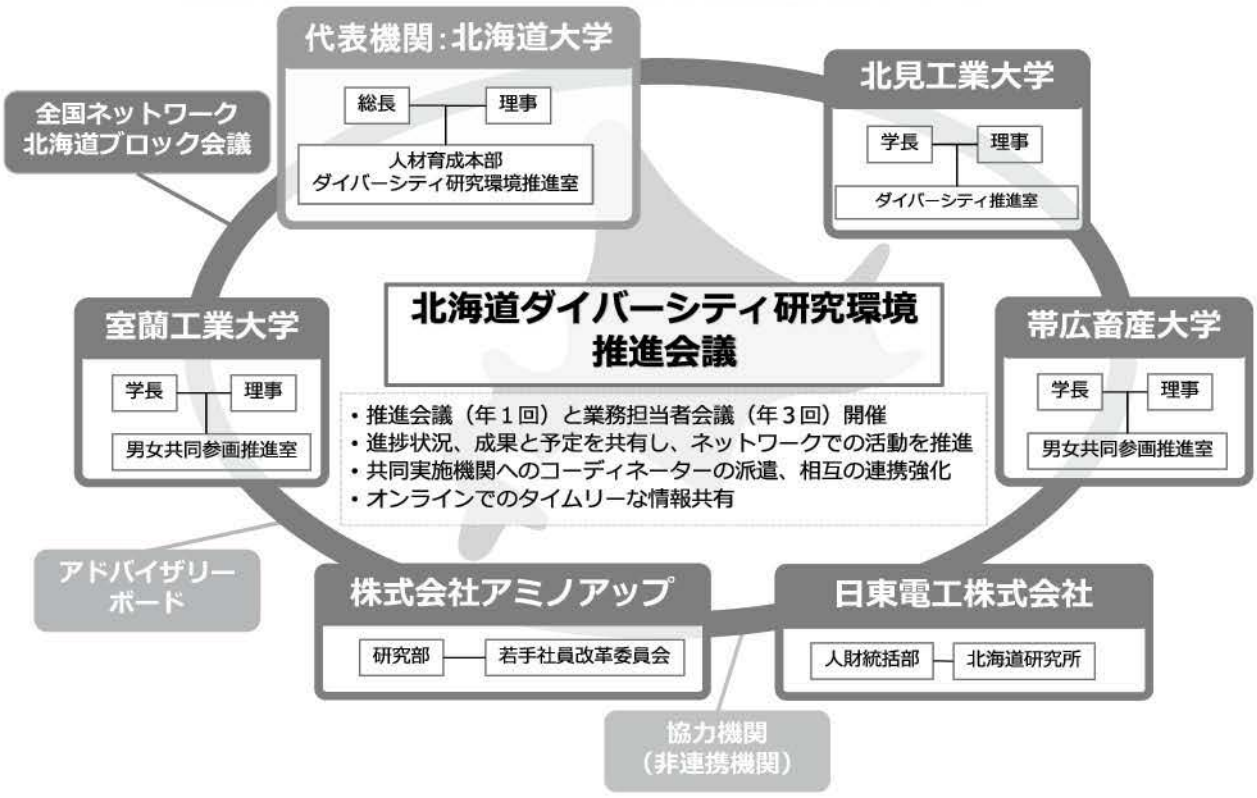
さらに、本事業の目標達成に向けたアドバイスや取組へのフィードバックを得るために、日本の女性研究者活躍推進の取組を牽引してきた有識者や産業界メンバー等を委員とする「アドバイザリーボード」を設置した。

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）

〈連携機関〉
北海道大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社

〈協力機関〉
株式会社スペースタイム、株式会社化合物安全性研究所、北海道システム・サイエンス株式会社、雪印種苗株式会社、株式会社山本忠信商店、公益財団法人とかち財団、公益財団法人　北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）、株式会社ユニアル、国立大学法人小樽商科大学、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会市民参画課　札幌市男女共同参画センター、株式会社エヌビィー健康研究所、遠友ファーマ株式会社
(2020 年 12 月 1 日現在)

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク



Ⅱ 取組の実施内容

2019 [年度]

Ⅱ-1-1　2019 年度実施内容一覧

実施月日	実施内容
7月23日	【室蘭工業大学】女子学生を対象とした「キャリア形成のためのランチタイムセミナー第12回」開催
7月26日	【室蘭工業大学】第22回化学工学北海道アカシアセミナー「北海道産業を牽引する女子のチカラ！？」後援
8月 2日	【北見工業大学】学長と女性研究者の懇談会を実施
8月14日	【帯広畜産大学】研究支援員制度の構築・募集開始　応募・採択4件
8月27日	【北海道大学・帯広畜産大学】代表機関（北海道大学）が共同実施機関（帯広畜産大学）を訪問 事業実施状況・今後の計画について打ち合わせ
9月13日	【北海道大学・北見工業大学】代表機関（北海道大学）が共同実施機関（北見工業大学）を訪問 事業実施状況・今後の計画、研究交流発表会について打ち合わせ
9月18日	【北海道大学・日東電工株式会社】代表機関（北海道大学）が共同実施機関（日東電工株式会社）を訪問 事業実施状況・今後の計画について打ち合わせ
9月19日	【北見工業大学】北見工業大学ダイバーシティ推進室を設置
9月19日	【室蘭工業大学】女性限定公募（助教1名）開始
10月 7日	【北海道大学・室蘭工業大学】代表機関（北海道大学）が共同実施機関（室蘭工業大学）を訪問 事業実施状況・今後の計画について打ち合わせ
10月 9日	【北見工業大学】令和元年度　第1回ダイバーシティ推進室会議開催 今後の事業実施計画について審議
10月16日	【北海道大学・株式会社アミノアップ】代表機関（北海道大学）が共同実施機関（株式会社アミノアップ）を訪問 事業実施状況・今後の計画について打ち合わせ
10月18日	【室蘭工業大学】ダイバーシティ通信第10号（2019年10月）発行
10月29日	令和元年度　第1回北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議開催
11月 8日	【北見工業大学】大学院進学に向けた女子学生懇談会開催
11月13日	【北見工業大学】女性限定公募（講師1名）開始
11月19日	【北海道大学】監事と教員の意見交換会「ダイバーシティの視点から大学の未来を考える」（シニアキャリア編）開催
11月20日	【室蘭工業大学】「教職員のためのトップセミナー2019」開催 インターネットを利用して北海道大学へ同時中継を実施
12月 3日	【北海道大学】北海道大学函館キャンパス所属教員への事業説明およびヒアリング
12月 5日	【北海道大学】東京工業大学におけるダイバーシティ推進と研究力向上に関する実地調査
12月 5日	【帯広畜産大学】メンター制度の構築・募集開始
12月 9日	【北海道大学】「ダイバーシティ研究環境推進に向けた部局等への取組支援プログラム」による「日本の法学教育におけるジェンダーと法」（主催：法学研究科附属高等法政教育研究センター）開催
12月13日	【北海道大学】監事と教員の意見交換会「ダイバーシティの視点から大学の未来を考える」（ミドルキャリア編）開催
12月17日	【北海道大学・北見工業大学】代表機関（北海道大学）が共同実施機関（北見工業大学）を訪問 事業実施状況・今後の計画、研究交流発表会について打ち合わせ

実施月日	実施内容
12月17日	【北見工業大学】ダイバーシティ推進に関する講演会開催
12月20日	【室蘭工業大学・北見工業大学】独立行政法人国立女性教育会館主催「2019年度大学等における男女共同参画推進セミナー」への参加
12月20日	【北海道大学・株式会社アミノアップ・日東電工株式会社】学生対象「『博士が欲しい』企業で働く研究者によるダイバーシティ座談会」実施　インターネットを利用して北見工業大学へ同時中継を実施
1月16日～	【北見工業大学】女性技術者・研究者育成に関する女子学生アンケート実施
1月18日、19日	【北海道大学】大学入試センター試験時の未就学児一時保育実施　5名の教員が利用
1月21日	令和元年度　北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク「第1回業務担当者会議」開催（オンライン会議）
1月21日、22日	【北海道大学】アカデミックキャリア・リーダーシップ「Be a professional ～ A series of Leadership Development Seminars for Female Researchers」開催
2月　5日	【北海道大学】「女性研究者による研究会等開催支援プログラム」による「International Symposium on Chemical Hazards to Wildlife」開催
2月　7日	【北海道大学】北海道SDGs推進ネットワーク主催「SDGs×北海道 交流セミナー 2020」にて本事業のポスター展示
2月　7日	【室蘭工業大学】女子学生を対象とした「キャリア形成のためのランチタイムセミナー第13回」開催
2月　9日	【北海道大学】「ダイバーシティ研究環境推進に向けた部局等への取組支援プログラム」による「育児当事者である研究者のダイバーシティの語りと可視化を通じた認識枠組みの共創」（主催：大学院メディア・コミュニケーション研究院）開催
2月10日	【北見工業大学】令和元年度第2回ダイバーシティ推進室会議議題となっている次年度事業実施計画について審議
2月10日	【帯広畜産大学】男女共同参画推進セミナーを開催
2月20、21日	【北海道大学】大学院水産科学研究院の女性准教授が農学研究院男性教授をメンターとしたシャドウイング研修SP実施
2月22日	【室蘭工業大学】奈良工業高等専門学校主催「第2回女性エンジニアの養成を考えるシンポジウム」への参加
3月　1日	北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）事業ウェブサイト公開
3月　3日	令和元年度　第2回北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議開催（オンライン会議）
3月　3日、4日	KNIT研究交流発表会「超異分野meetup」を開催 出展された研究ポスター151件（北海道大学126件、室蘭工業大学7件、帯広畜産大学4件、北見工業大学4件、株式会社アミノアップ1件、日東電工株式会社1件、その他8件）
3月14日	【北海道大学】「女性研究者による研究会等開催支援プログラム」による「スポーツ医学セミナー～北海道における女性アスリート支援に向けて～Web動画配信」実施
3月20日	【室蘭工業大学】ダイバーシティ通信第11号（2020年3月）発行
3月25日	令和元年度　北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク「第2回業務担当者会議」開催（オンライン会議）
3月25日	【帯広畜産大学】役員と女性研究者（男女共同参画推進室長）の意見交換を実施
3月25日	【室蘭工業大学】令和2年度ライフイベント期の研究者支援の募集・採択4件

Ⅱ-1-2　ダイバーシティ研究環境整備のための取組

連携機関全体の取組

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議の設置・実施

代表機関である北海道大学人材育成本部女性研究者支援室（現　ダイバーシティ研究環境推進室）に事業事務局を設置した。また、事業を遂行するにあたり、取組の基盤となる北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議（KNIT 推進会議）を設置した。推進会議では、定例の会議を実施し、実施方針や取組内容を審議・決定し、各機関の担当課室において検討･遂行される。加えて、業務担当者会議を実施し、進捗状況と成果、予定を共有し、ネットワークでの活動を推進する。また、広大な北海道の地域特性を考慮し、業務担当者間でタイムリーに相談し検討できるオンライン環境を整備し、円滑に取組を進める。さらに、事務局を担う北海道大学は、共同実施機関にコーディネーターを派遣し、状況把握や情報提供を積極的に行い、相互の連携を強化する。

2019 年度は、2019 年 10 月 29 日および 2020 年 3 月 3 日に KNIT 推進会議を開催し、運営方針の決定や課題意識の共有を行った。3 月 3 日の会議については新型コロナウイルスの影響から Web 会議となった。また、業務担当者会議はメール会議の他、2020 年 1 月 21 日と 3 月 25 日に Web 会議にて行い、研究交流発表会や 2020 年度に実施する共同研究助成等、事業推進のための具体的な議論を行った。各会議を通して、女性研究者比率向上及びダイバーシティ推進のための課題や具体策、施策効果等を共有して研究環境の向上に取り組んだ。

また、代表機関が全ての共同実施機関を訪問し、情報交換を通じて知見やノウハウを共有し、ネットワーク推進会議での取組を加速させた。

さらに、事業に賛同しシンポジウム・セミナー・研究会等の各種イベントの情報や、女性研究者支援のシステム等に関わる情報共有に参加する「協力機関」の仕組みを設置し、2020 年 12 月 1 日現在、12 機関が登録している。

●北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議要項

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議要項

（趣旨）
第１条　この要項は、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の実施に当たり、北海道におけるダイバーシティ研究環境の推進、浸透、情報共有を図ることを目的として設置する北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議（以下「会議」という。）の組織及び運営について定めるものとする。
（審議事項）
第２条　会議は、次に掲げる事項について審議する。
（１）事業の管理、運営に関する事項
（２）事業の計画、進捗管理及び事業見直しに関する事項
（３）その他事業の推進に関する事項
（組織）
第３条　会議は、次に掲げる委員をもって組織する。
（１）代表機関である国立大学法人北海道大学の担当理事又は副学長　１名
（２）共同実施機関である国立大学法人の担当理事又は副学長　各１名
（３）共同実施機関である民間企業の本事業総括責任者又は実施責任者　各１名
（４）代表機関及び共同実施機関である国立大学法人の業務実施担当教員　各１名
（５）その他会議が必要と認めた者　若干名
2　第１項第１号から第３号までの委員の任期は３年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（議長）
第４条　会議に議長を置き、前条第１項第１号の委員をもって充てる。
2　議長は、会議を招集し主宰する。
3　議長に事故があるときは、あらかじめ議長の指名した委員がその職務を代行する。
（議事）
第５条　会議は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。
2　会議の議事は、出席委員の過半数をもって決するものとする。
3　第３条第１項第５号の委員は、本事業の予算に係る審議に加わることはできない。
（代理出席）
第６条　第３条第１項第１号から第４号までの委員が会議に出席できない場合は、代理の者を出席させることができる。
（委員以外の者の出席）
第７条　会議が必要と認めたときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。
（アドバイサリーボード）
第８条　会議は、事業運営への助言や示唆を得るため、アドバイサリーボードを設置する。
2　アドバイサリーボードは、男女共同参画や道内産業に関して高い見識を有する外部有識者４名以内の委員をもって組織し、会議の意見を聴取した上で議長が委嘱する。
（庶務）
第９条　会議の庶務は、国立大学法人北海道大学人材育成本部女性研究者支援室において処理する。
（雑則）
第10条　この要項に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は別に定める。
附　則
この要項は、令和元年10月11日から施行する。

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）リーフレット作成

情報発信の取組の一環として、事業紹介リーフレットを作成した。

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）事業ウェブサイト（KNITweb）作成

情報発信の取組として、北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）事業の周知やロールモデルの紹介、および個別の取組の発信を目的とした事業ウェブサイトを作成し、2020 年 3 月 1 日に公開した。

KNIT ニュースレター創刊

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）の活動を広く周知するため、KNIT ニュースレターを創刊した。創刊号である VOL.1 では、創刊のご挨拶、超異分野 meetup と題して実施した研究交流発表会や KNIT 推進会議の様子を掲載した。

北海道大学の取組

兼務教員※会議

2019 年 11 月 28 日人材育成本部会議室において 2019 年度第 1 回兼務教員会議を開催し、兼務教員 9 名と女性研究者支援室から 4 名、計 13 名が参加した。

冒頭に人材育成本部長の伴戸先生よりご挨拶頂いた後、女性研究者支援室室長の矢野先生より、議題であるダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（牽引型）について説明があり、兼務教員の方々への理解と協力を要請した。

その後の意見交換の時間でも、活発な質疑応答が行われた。

※兼務教員：人材育成本部の取組について、兼務教員として参画する他学部に所属している教員。

2019 年度後期「研究活動とライフイベントの両立のための補助人材支援」

この支援は、北海道大学に所属する研究者が、出産・育児等のライフイベントと研究活動を両立し円滑に業務を遂行できるよう、当事者の業務や、当事者および周囲の教員の業務補助を行う人材に係わる支援である。

●**支援期間**　2019 年 10 月 1 日～ 2020 年 3 月 31 日
●**対 象 者**　北海道大学に所属する教員及び博士研究員
●**支援者数**　22 名

支援内容内訳
復帰支援プラン　2 名
産休育休プラン　3 名
育児プラン　15 名
介護看病プラン　2 名

●2019年度後期「研究活動とライフイベントの両立のための補助人材支援」募集要項

2019年度後期

「研究活動とライフイベントの両立のための補助人材支援」募集要項

1. 前期からの主な変更点

・補助金支援プラン※の追加
・対象者要件の例外事項追加（試行）
・業務補助者派遣の期数制限の変更（6期→4期）

※補助金支援プランでの支援は、科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の補助金にて行います。

2. 概要

本支援は、北海道大学に所属する研究者が、出産・育児等のライフイベントと研究活動を両立し、円滑に業務を遂行できるよう、当事者あるいは当事者および周囲の教員の補助を行う人材に係る支援です。

なお、2019年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に本学が採択されたことに伴い、一定条件のもと当該補助金にて補助人材を雇用できます（補助金支援プラン）（2022年3月まで）。

3. 支援内容および対象者

上記目的のため「研究補助者の雇用経費助成」および「業務補助者派遣」を実施します。本学の教員（特任教員含む）及び博士研究員※等のうち、次のいずれかに該当する者を各プランの支援対象者（以下「対象者」という）とします。

※「博士研究員」…「国立大学法人北海道大学博士研究員要項」に基づき採用された者を指す。対象者が博士研究員等である場合やJSPS等に所属する研究員で本学を拠点に研究活動を行っている場合は、個々の事案により支援対象となるかどうかを判断する。

【1】研究補助者の雇用経費助成

A. 復帰支援プラン（上限60万円） 補助金支援プラン
※本プランによる支援期間は通算支援期間に含めません。
・現在育児中で、2019年10月1日時点で出産後1年が経過していない女性

B. 産休育休プラン（上限60万円）
支援期間内に、産前・産後休暇または育児休業により1か月以上不在にする予定の女性

C. 育児プラン（上限55万円） 補助金支援プラン
※本プランへは通算期間制限（6期）に達した人も申請可能です。
・小学3年生以下の子の育児にあたっている女性
・日常的に単身で小学3年生以下の育児にあたっている者
・小学3年生以下の子の育児にあたっていて、パートナーがフルタイムで勤務しており、世帯内には本人とパートナー以外に育児を担う者がいない男性
・【試行】上記に当てはまらず、小学1年生以下の育児にあたっており、個別の事情により育児と研究活動との両立が困難と認められる者（審査にあたってはヒアリングを実施します）

D. 育児プラン（40万円）
・小学1年生以下の子の育児にあたっている女性
・日常的に単身で小学3年生以下の育児にあたっている者
・小学1年生以下の子の育児にあたっていて、パートナーがフルタイムで勤務しており、世帯内には本人とパートナー以外に育児を担う者がいない男性
・支援期間内に3か月以上育児休業を取得する予定の男性
・【試行】上記に当てはまらず、小学1年生以下の育児にあたっており、個別の事情により育児と研究活動との両立が困難と認められる者（審査にあたってはヒアリングを実施します）

E. 介護看病プラン（上限35万円）
・支援期間内に介護休業を取得する、または日常的に家族の介護・看病にあたっており時間的制約が大きい者
＊自身の定期的な通院等、治療のための制約が大きい場合でも本プランが適用になる場合があります。ご相談下さい。

【2】業務補助者派遣

D. 育児プランの各対象者のうち、産前・産後休暇や育児休業等による不在期間がない者

4. 通算支援期間の制限

雇用経費助成のうち、プランB, D, Eにおいて、支援対象要件に含まれる個別の未就学児または要介護者について、過去に通算6期（3年間）の支援を受けた者は申請できません。

プランAの支援期間は通算支援期間に含めません（補助金支援プラン）。プランCについては通算期間制限（6期）に達した人も申請可能です（補助金支援プラン）。未就学児または要介護者が複数の場合、支援期間の通算はそれぞれ行います。業務補助者派遣については、過去に受けた「業務補助者の派遣」支援において通算4期（2年間）の支援を受けた者は申請できません。通算は過去に遡って行います。

5. 補助金支援プランの条件

次の条件を全て満たす場合のみ「補助金プラン」による申請を行うことができます。
・雇用開始時に「採用発令」となること
・本助成経費のみ使用して雇用すること
・当該申請に係る半年間のうち25週以上継続して支援員を雇用すること

6. 各支援の詳細

【1】研究補助者の雇用経費助成

① 支援内容
対象者等を補助する人材を雇用する際の人件費を一部補助します。本支援で研究補助者を雇用できる期間は、2019年10月1日～2020年3月31日のうち必要期間・必要時間とします。申請者の研究計画・研究補助者の雇用計画等に応じてプランを選択してください。雇用できる補助者は技術補助員、事務補助員とします（学術研究員の雇用を希望する場合はご相談ください）。

② 研究補助者が行うことができる業務
・対象者本人の研究および事務の補助
・出産・育児等により対象者の業務専念時間が短縮した場合、対象者の業務や研究の補助に加え、その影響を受ける周囲の教員※の事務補助
※「周囲の教員」…対象者が所属する研究室、講座、分野の教員

③ 補助者の採用
・補助者の選定は原則として対象者が行い、採用手続きは、所属部局にて行います。
・本助成では、補助者の超過勤務人件費及び出張費は支出できません。
・学生及び大学院生を補助者として雇用する場合は、対象者と部局事務の責任のもと、学業及び本人の研究活動に支障のないよう十分に配慮し、本支援業務と明確に切り分けてください。
・派遣会社の利用も可能です。
・人件費が助成額上限を超えた場合は他の財源から充当してください。
・助成額上限(人件費)には、補助者雇用に係る人件費として保険料・通勤手当等が含まれます。

④ 支援額についての注意
・対象者が本学を退職する等、支援要件を満たさなくなった場合は、「支援決定額×（支援要件を満たす月数÷6）」を最終的な支援金額とします。
・産後休暇中は就業禁止となっているため、補助者への業務指示は業務監督者が行ってください。
・補助者が本支援により雇用されている時間内に「研究補助者が行うことができる業務」以外を行っていることが確認された場合は支援を中止するとともに、対象者が所属する部局からの申請受付を以後1年間停止します。
・上限額はあくまで上限額です。真に必要な雇用時間数を見積もった上で適切な金額を申請してください。本支援には多くの申請があります。本支援事業継続のためにも適正利用にご協力お願いいたします。

⑤ 勤務日報及び報告書の提出
補助者は別に定める様式により毎月の勤務日報を作成し、対象者及び勤務時間管理担当者が押印の上、支援期間終了後15日以内に提出してください。

また、対象者は、支援期間終了後15日以内に、別に定める報告書により実施内容、本支援により得られた効果及びそれに伴い得られた成果等について、女性研究者支援室に提出してください。

【2】業務補助者派遣

対象者のもとに事務補助員を女性研究者支援室より週1日かつ週3時間を上限として派遣し、出産・育児等のライフイベント中の研究者や管理・運営等に従事する教員の業務の補助を行います。

① 補助者の採用
補助者は女性研究者支援室で採用し、基本的なトレーニングを行います。

② 補助者が行う業務
事務作業、研究補助業務のうち事務補助員の職務範囲のもの（データ整理等のデスクワーク）

③ その他
業務補助者の派遣は、現時点では札幌キャンパスのみ実施します。

7. 申請手続

申請書（様式 1）を各部局担当で取りまとめの上、2019年8月22日（木）17時（厳守）までに女性研究者支援室に提出してください。

※パートナーが同一機関内に勤務している場合には、パートナーと合わせて1申請とします。双方で本支援を分割して利用したい場合にはご相談ください。

8. 審査・採択

（1）採択に係る審査は女性研究者支援室が行い、申請内容の各項目（子どもの年齢・人数、パートナーとの同居の有無、介護の状況等）を総合的に判断し、採否ならびに採択の額を決定します。

（2）採否については、8月下旬頃、申請者ならびに所属部局事務担当者へ通知します。

（3）対象者の状況を鑑みた上で、両立プランの変更を提案する場合があります。

9. その他

（1）本支援に関わる書類ならびに各種書式（募集要項、申請書様式、勤務日報、報告書）は、女性研究者支援室のホームページよりダウンロードできます。

URL：https://freshu.ist.hokudai.ac.jp/work-life/kenkyuhojo/

（2）後日、希望者の状況や支援内容についてヒアリングを行う場合があります。

（3）支援を受けている期間中、女性研究者支援室主催のイベント（セミナー、交流会、講演会、シンポジウム等）へ積極的に参加してください。

（4）本支援は予算状況により募集期毎に支援の金額および内容が変更となります。

（5）補助金支援プランでの支援は、科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の補助金にて行いますので、実績報告や額の確定調査の際に別途ご対応いただくことがあります。

ダイバーシティ研究環境推進に向けた部局等への取組支援プログラム

本プログラムは、本学構成員（教職員・学生等）を対象とした、学内で開催されるダイバーシティ研究環境推進あるいは男女共同参画推進に寄与するセミナー等の実施について支援するものである。2019 年度は 3 件を採択し(1 件は新型コロナウィルスの影響により中止)、2 件の支援を行った。

〈2019 年度支援実績〉

●名　　称　①　FD 日米の法学教育と女性研究者支援
　　②　日本の法学教育におけるジェンダーと法―予備的検討とコメント
●開催日時　①　2019 年 12 月 8 日　13：00 ～ 15：00
　　②　2019 年 12 月 9 日　18：30 ～ 20：30
●対 象 者　一般・研究者・学生
●場　　所　北海道大学　人文・社会科学総合研究棟　W409 号室
●参加者数　65 名
●講　　師　Mark Levin 氏（ハワイ大学　ロー・スクール教授）
●実施主体名　北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター
●共　　催　北海道大学大学院文学研究院応用倫理・応用哲学研究教育センター
　　北海道大学人材育成本部女性研究者支援室
　　北海道大学法理論研究会

支援報告書より抜粋

このプログラムでは、本学内の４研究教育組織（人材育成本部女性研究者支援室、法学研究科附属高等法政教育研究センター、同研究科法理論研究会、文学研究院応用倫理・応用哲学研究教育センター）が初めて共同企画開催したことが大きな成果であった。FD では、本学における男女共同参画推進について、対話と情報共有そして課題解決に向けて意見交換することで協力関係を確立できた。翌日のセミナーでは、FD で共有された知見を参加者、特に学生たちに提供することができ、日本の法学教育におけるジェンダー問題だけでなく、学術界におけるジェンダー平等推進の重要性を再確認できた。とりわけ、女子学生たちにとってロールモデルの育成並び可視化は必須であり、講師のマーク・レビン氏（ハワイ大学マノア校法科大学院教授）も強調していた。

●名　　称　育児当事者である研究者のダイバーシティの語りと可視化を通じた認識枠組みの共創
●開催日時　2020 年 2 月 9 日 10：00 ～ 14：30
●対 象 者　本学の教職員・研究者
●場　　所　北海道大学フード＆メディカルイノベーション国際拠点
●参加者数　21 名
●実施主体名　人文系研究者のためのダイバーシティ環境研究会（大学院メディア・コミュニケーション研究院）

支援報告書より抜粋

このプログラムはダイバーシティを構成する諸要因の中でも特に育児を中心の問題とし、育児と研究活動の両立とその困難をテーマとしている。

まず、ダイバーシティ推進をめぐる全国の大学および北海道大学の取り組みと現状について長堀紀子氏（北海道大学女性研究者支援室特任准教授）からレクチャーと質疑があったのち、育児当事者である研究者によるパネル・ディスカッションを行った（議

論の内容はグラフィック・レコーディングを通じてリアルタイムで可視化し共有)。その後、育児当事者が日々有する感情についての振り返りと可視化を目的とするワークショップを実施した。

育児というダイバーシティ要因について、制度的取り組み・当事者の状況・当事者の感情という三つの側面から情報共有と可視化・振り返りを行い、とても意義があった。また、育児と研究の両立という課題を共有しつつも、各自の状況（配偶者の同居・別居といった家庭状況や出身国等の文化的背景）に応じて困難はきわめて多様であり、それに応じた取り組みが求められる点についての認識を共有できた点も重要な成果であった。

●ダイバーシティ研究環境推進に向けた部局等への取組支援プログラム募集要項

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」
ダイバーシティ研究環境推進に向けた部局等への取組支援プログラム 募集要項

本学は 2019 年度科学技術人材育成費補助事業（文部科学省）「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択され、全学的なダイバーシティ研究環境の推進とともに、それらを北海道全域へ普及・啓発する先導的な役割を担っています。

そこで、本学構成員が研究者のダイバーシティ推進について更なる理解を深めることを目的とし、下記の支援を実施いたします。

【概要】
本プログラムは、本学構成員（教職員・学生等）を対象とした、学内で開催されるダイバーシティ研究環境推進あるいは男女共同参画推進に寄与するセミナー等の実施について支援します。

【支援内容】
取組に必要な経費のうち、1 件あたり 30 万円を上限として支援します。

【セミナー等について】
以下の取組が対象となります。
取組種別：研修会、セミナー、勉強会、シンポジウム等

セミナー等の対象（参加者）：本学の教職員、学生、研究員
- 単一の部局等構成員を対象とした取組も可
- 複数の部局にまたがる取組、全学に公開する取組を推奨

実施主体：部局、学科、課室等、または研究会などのグループ

【支援要件】
取組について、以下の条件を全て満たす必要があります。
- 女性研究者支援室を共催とする
- 広報物を作成する場合、「2019年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業の文言を入れる
- 令和2 年 2 月 29 日までに開催する
- 取組終了後 30 日以内に指定書式の実施報告書（収支報告含む）及び作成した広報物を提出する

【支援対象となる経費】
次の経費に限る
国内旅費　講師の国内旅費
外国人招聘旅費　講師の招聘旅費
謝金　講師への謝金
印刷費　取組の広報のためのポスター、チラシの印刷費
委託費　セミナー等を外部委託する際の委託費
消耗品費　取組実施のための必要性を合理的に説明できる消耗品費

【その他の支援】
参加申し込みフォーム設置
シンポジウム等開催支援セットの貸出
大判プリンター出力
必要であれば当日の運営補助スタッフ（2 名まで）

【申請方法】
所定の申請書を女性研究者支援室（メールアドレス）宛に提出
最終申請期限　令和2 年 1 月 15 日
セミナーチラシを添付（またはでき次第提出）

【支援件数】
3 件（ただし、採択金額が予算上限に達し次第募集を終了します）

【審査方法】
申請部局より提出された書類に基づき、女性研究者支援室にて審査を行い、支援金額を決定します。申請書の受理連絡後、2 週間以内に採択可否を連絡します。

ダイバーシティ（牽引型）事業の一環として、事業連携機関*へのリアルタイム配信（配信に係る作業は女性研究者支援室スタッフが行う）に協力可能な取組を優先します。

*連携機関：ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の連携機関。令和元年度時点では室蘭工業大学、北見工業大学、帯広畜産大学、日東電工株式会社、株式会社アミノアップ

センター試験時の一時保育支援

育児中の教職員がセンター試験業務において休日出勤を行う場合の保育負担軽減を目的に、学内での一時保育を実施した。

●実施日時　2020 年 1 月 18 日～ 19 日　7：00 ～ 19：00
●対 象 者　センター試験当日業務に携わる北海道大学所属の教員･職員が養育する未就学児（生後 6 か月以上）
●保育場所　北海道大学中央キャンパス総合研究棟 1 号館会議室
●保 育 数　5 名（2 ～ 4 歳児）

活動内容・報告

前年度、大学入試センター試験業務に従事した教員から、日曜日の託児先に困っているという相談を受け、一時保育を実施した。保育士 2 名により、2 歳から 4 歳までの計 5 名の保育を行った。

利用者からは、夫婦で入試業務の担当になっていたので助かった、遅い時間まで対応していただけて嬉しかった、等の反応があった。

●センター試験時の一時保育支援（試行）利用要項

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
センター試験時の一時保育支援（試行）
利用要項

人材育成本部女性研究者支援室

本学は本年度に、文部科学省科学人材育成費補助金「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択され、ライフイベントと研究または業務の両立のための研究環境整備をさらに進めることとなりました。

目的

育児中の教職員がセンター試験業務において休日出勤を行う場合の保育負担軽減を通じ、育児の有無に関わらず教職員が能力を発揮し活躍できる環境を整備する。

概要

センター試験日に一時保育所を学内に開設し、無料で託児を行う

利用対象

・センター試験当日業務に携わる本学の教員・職員が養育する未就学児（生後 6 か月以上）

利用料金

無料（ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）事業経費または大学経にて費担）

保育時間

7 時 00 分～19 時 00 分（予定）のうち希望する時間

保育場所

中央キャンパス総合研究棟 1 号館　会議室　または　遠友学舎
（函館キャンパスについては応相談）

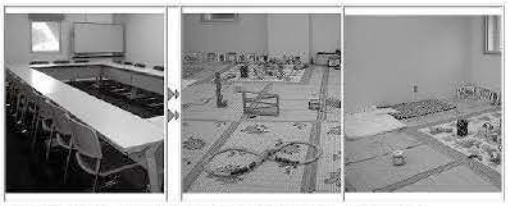
申込方法

人材育成本部女性研究者支援室 freshu@synfoster.hokudai.ac.jp
宛てに、別紙申込書を送付してください。

申込締切

12 月 25 日（水）　13 時

保育について



・保育は、託児サービス専門業者より派遣されたシッターが行います。
・病児（疑）・病後児の保育はできません。当日預ける前の検温をお願いします。
・保育にあたり、当日下記をご持参ください
　＊ 食事・飲み物・おやつ等
　　必要に応じてお弁当をお預かりし、お食事の介助をいたします。
　　哺乳瓶・ミルク（回数分小分けにして）をお持ちください。
　＊ 着替え一式（オムツ、洋服など）
　　お着替えは 1~2 組ご用意いただき、トイレトレーニング中のお子様は下着を多めにご持参ください。
・お迎えの際、身分証明書（運転免許証・母子手帳・健康保険証等）を提示頂く場合があります。
・お子様のお荷物は，記名の上，ひとまとめにしてご持参下さい。
・アレルギー等がある場合は申込書に記載してください。
・当日朝は保護者の方が託児場所にお子さまをお連れください

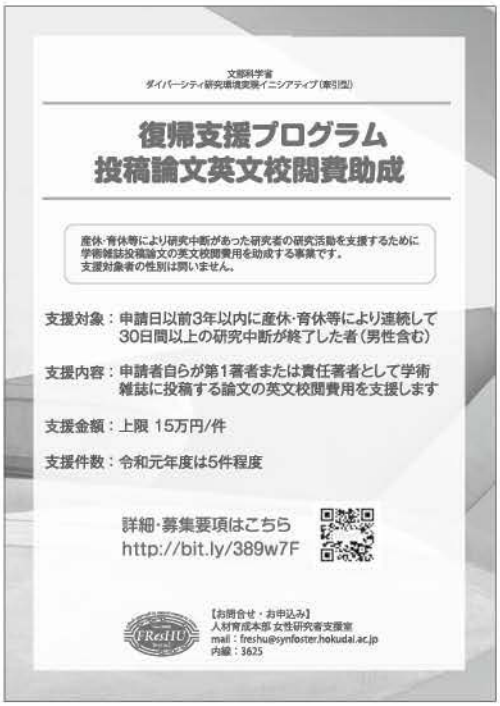
本取り組みの継続性について

この一時保育支援は 2021 年度まで継続して実施し、その利用実績等から次年度以降の制度設計を行います。

復帰支援プログラム：投稿論文の英文校閲費助成

本支援では、産休・育休等により研究中断があった研究者の研究活動をサポートするために、学術雑誌投稿論文の英文校閲費用を助成する。なお、支援対象者の性別は問わない。

2019 年度は大学院歯学研究院・医員に対する支援を 1 件行い、投稿雑誌『CARBON（IF 7.466)』に掲載された。



●復帰支援プログラム：投稿論文の英文校閲費助成募集要項

文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

令和元年度　復帰支援プログラム：投稿論文の英文校閲費助成　募集要項

【趣旨】
本支援は、2019 年度に採択された文部科学省「ダイバーシティ研究実現イニシアティブ（牽引型）」の一環として実施するものであり、補助金または大学経費により、産休・育休等により研究中断があった研究者の研究活動を支援するために、学術雑誌投稿論文の英文校閲費用を助成する事業です。なお、支援対象者の性別は問いません。

【支援対象となる投稿論文】
・自身が第一著者(first author)または責任著者(corresponding author)として発表する著作物であること
・令和元年 12 月 1 日～令和 2 年 2 月 29 日までに英文校閲を行い納品が完了すること
・投稿する雑誌が以下に該当すること
　1）査読が行われる英文の学術雑誌であること
　2）投稿規定や編集委員の情報が公開されていること
　3）論文、もしくは論文要旨を、Web 等を通じて世界の研究者が閲覧できること

【支援件数】
　5 件程度

【支援金額】
英文校閲に要する費用の範囲内で、原則として予算上限 15 万円程度/件まで
・応募状況によっては、年度途中で応募を終了することがあります。
・他経費との合算での支払いはできません。

【申請資格】※以下すべてを満たすこと。
・北海道大学に所属する研究者（特任教員、研究員含む）
・申請日以前 3 年以内に、産休・育休・介護休による 30 日間以上の連続した研究中断が終了した者
・研究活動を職務に含んでいる者
・投稿誌での論文の採択が決定されるまでに本学に在籍する予定であること
・論文は原則としてオリジナル学術論文であること（レビュー、本、会議発表のみを予定している論文は対象外）

【申請方法】
以下の書類を人材育成本部女性研究者支援室（ freshu@synfoster.hokudai.ac.jp ）宛て提出願います。申請は随時受け付けます。
① 申請書（別紙様式）
② 校閲経費の見積書（写）※1 社分のみの提出で差し支えありません。

【助成決定・結果通知について】
申請内容に基づき選考を行い、支援の可否を決定します。
申請書受理から約 1 週間後に、女性研究者支援室から結果を通知します。

【決定後の手続き】
英文校閲の発注は申請者にて行い、発注に関するメールのやり取り等は女性研究者支援室に転送してください。女性研究者支援室ではそれら取引証憑類と申請時に提出いただいた「校閲経費の見積書（写）」を基に支払い手続きを行います。
① 校閲経費の見積書（原本）
② 校閲経費の納品書（原本：納品検収センターの検印のあるもの）
③ 校閲経費の請求書
④ 英文校閲を受けた原稿（写）
※本支援を受けた論文は必ず申請書に記載した雑誌に投稿し、掲載された場合は別刷またはそれに相当するものを、掲載されなかった場合はその旨の通知文等を女性研究者支援室宛てに提出願います。

【備考】
・本支援を受けた方は、本事業において実施する他の研修やシンポジウム等に積極的にご参加ください。
・本支援を受けた場合、事業実績報告書に掲載するために研究業績（論文数や外部資金獲得件数等）を 2024 年度分まで年 1 回提出いただきます。

【注意事項】
・共著論文の場合は全共著者の了解を得てから申請してください。
・投稿予定学術誌が変更になる場合は、あらかじめ相談してください。
・申請後、事情により支援が不要となった場合は直ちに連絡してください。
・支援決定後、本学から異動する場合、その時点で支援終了とします。
・支援は 1 人 2 件以内/年度（ただし、2 件目の申請は 1 件目の掲載が受理されてから受け付けます）。

【問い合わせ先】
北海道大学人材育成本部女性研究者支援室
e-mail：freshu@synfoster.hokudai.ac.jp　内線：3625

ダイバーシティ研究環境推進のためのシンポジウム等参加支援

本支援は、本学役員・教職員が全国各機関のダイバーシティ研究環境についての先進事例や知見を吸収し、それらを学内あるいは北海道内に広く波及させることを目的として、ダイバーシティ研究環境推進に関するシンポジウム等に参加する際の旅費を補助するものである。

2019 年度は 2 件を採択し（1 件は新型コロナウィルスの影響により中止）、1 件の支援を行った。

●支援対象者　　薬学研究院　教授

●参加シンポジウム等の概要

日　時　2020 年 1 月 12 日

場　所　九州工業大学戸畑キャンパス

名　称　日本女性科学者の会　2019 年度例会・新春シンポジウム

参加報告書より抜粋

シンポジウムでは、国内大学における男女共同参画の取組の具体的事例についての講演があった。戦略的な取組体制の構築・ライフイベント支援制度の男性を含めた促進・女性の管理職増加の取組などの重要性についての話があり、大学でのダイバーシティ推進や研究環境改善に有用であると感じられた。

●ダイバーシティ研究環境推進のためのシンポジウム等参加支援募集要項

ダイバーシティ研究環境推進のためのシンポジウム等参加支援 募集要項

概要

本学役員・教職員がダイバーシティ研究環境推進に関するシンポジウム等に参加する際の旅費を補助します。

目的

本学は令和元年度「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」採択に伴い、本学のみならず北海道全体のダイバーシティ研究環境推進の中心となって事業を推進することとなりました。そこで、本学役員・教職員が率先して全国各機関のダイバーシティ研究環境についての先進事例や知見を吸収し、それらを学内あるいは北海道内に広く波及させることを目的として本支援を実施します。

支援対象者

本学の役員、教職員

支援内容

シンポジウム等に参加する際の旅費

支援上限

１５万円／回

支援件数

3件程度

支援対象となる「シンポジウム等」の範囲

- 「全国ダイバーシティネットワーク」ウェブサイト(https://opened.network)に掲載されているシンポジウム、ワークショップ、セミナー等のうち、２０２０年３月２８日までに開催されるもの
- その他女性研究者支援室が認めたもの

支援を受けた場合の義務

本支援を受けた場合、報告書（指定様式）を提出していただきます。報告書の内容は、学内ならびに「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」共同実施機関（室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、日東電工株式会社、株式会社アミノアップ）にて共有します。

旅費支給の範囲

基本的には、本学の旅費規則・規程に基づき、旅費が支給されますが、当該補助金が定める取扱いで支出不可とされているもの(キャンセル料や他の使途が特定された経費との合算使用)について、支給できません。
また、当該出張の前後に他用務が付随する場合、他用務が前に付随の場合は「シンポジウム等開催地から本学までの日当・宿泊費・交通費」、後に付随する場合は「本学からシンポジウム等開催地までの日当・宿泊・交通費」を支給対象とします。

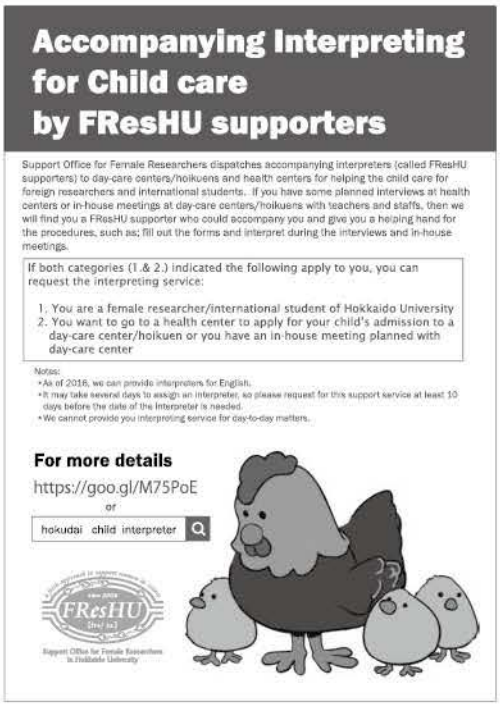
FResHU サポーターによる保育のための同行通訳支援

本支援は、外国人研究者および留学生の育児支援のために、保育園や札幌市の保健センターに同行通訳者の派遣を行うものである。入園の手続きのために保健センターでの面談、または保育園での保護者面談などで、日本語での会話に不安があり、通訳サポートを必要とする人に、FResHU サポーターが同行し、面談での通訳をする。

●対 象 者　　北海道大学に所属する女性の研究者／留学生

活動内容・報告

2019 年度は 8 名の要支援者に対し、13 件の同行通訳を行った。同行先は保健センターや保育園等。



両立支援取組フライヤー発行

「次世代育成支援のパッケージ化」の取組の一つである両立支援についてのパンフレット作成に向けて、他機関が発行するパンフレットを収集して調査を行うとともに、本学教員等にヒアリングを行うなどして内容を検討したところ、研究者が本当に知りたい両立に関する情報は当初想定よりも多いことが明らかとなった。このため、より有用で費用対効果の高いパンフレットとするためにはさらなる検討が必要であると判断し、令和 2 年度に作成することとした。今年度は既存の各種支援をとりまとめたフライヤーを 3 月下旬に作成し、学内での配布ならびにウェブサイトにて公開した。

「SDGs ×北海道　交流セミナー 2020」出展

北海道主催の「SDGs ×北海道　交流セミナー 2020」へポスター参加を行った。イベントへポスター参加した北海道 SDGs 推進ネットワーク会員と交流を深めた。

●名　　称　「SDGs ×北海道　交流セミナー 2020」
●日　　時　2020 年 2 月 7 日　13：30 ～ 17：00
●場　　所　北海道大学学術交流会館 1 階小講堂・ホール
●主　　催　北海道

室蘭工業大学の取組

ライフイベント期の研究者への研究支援員配置

出産・育児・介護等のライフイベント期の女性研究者に対し、研究活動の補助を行う支援員を配置することにより、ライフイベント期にある研究者が研究活動を継続することができる環境を整備し、女性研究者の研究力向上を図っている。

2019 年度は、育児や介護を行っている女性教員 4 名に対して支援を行った結果、4 名全員が科学研究費助成事業の採択を受ける等の成果が上がった。

●平成 31 年度「ライフイベント期（妊娠・育児・介護等）の研究者支援」募集要項

平成３１年度「ライフイベント期（妊娠・育児・介護等）の研究者支援」募集要項

1．目的
本学における教員及び博士研究員がライフイベント期（妊娠・育児・介護等）と研究活動を両立することができるよう、支援員の雇用に係る経費の助成を行う。

2．応募資格
本学の教員及び博士研究員のうち、妊娠・育児（小学校6年生以下）又は介護等にあたっている者。要介護等ではないパートナーと同居している場合は、原則としてパートナーの勤務時間が週35時間以上であること。

3．助成内容
対象者に対し、支援員を雇用する経費を助成します。雇用できる期間は、平成31年４月中旬から平成32年3月31日までの間の必要期間・必要時間とします。また、雇用できる支援員は学術研究員、技術補佐員又は事務補佐員としますが、必要であれば臨時補助員や派遣会社の利用も可能です。詳しくは男女共同参画推進室までご相談ください。

4．申請手続
申請書「ライフイベント期（妊娠・育児・介護等）の研究者支援」に記載し、男女共同参画推進室に提出してください。

5．採択
多数の応募があった場合には、対象者の職位や必要状況等を加味した上で、男女共同参画推進室で総合的に審査の上、採否を決定します。

6．支援員の採用
支援員の選定にあたっては男女共同参画推進室から情報提供できる場合もありますが，原則として申請者が行うこととします。

7．報告書の提出
本支援を受けた研究者には，報告会の参加と報告書の提出をお願いすることがあります。

8．問い合わせ先
室蘭工業大学男女共同参画推進室（総務広報課労務管理係：内線5018）
E-mail：ufr@mm.muroran-it.ac.jp

ニュースレター「ダイバーシティ通信」発行

本学の取り組みについてニュースレターを発行し、北海道地域の大学や高等学校を中心として情報発信を行うとともに、本学が開催する講演会について連携機関等に周知を行うことにより相互参加を図っている。2019 年度は第 10 号、第 11 号を発行した。

ダイバーシティ通信第 10 号（2019 年 10 月発行）

ダイバーシティ通信

■ 室長就任挨拶 ■

■ 教職員のためのトップセミナー2018 ■

■ キャリア形成のためのランチタイムセミナー第11回 ■

全国ダイバーシティネットワーク
北海道ブロック会議シンポジウム

文科省採択事業
全国ダイバーシティネットワークについて

（付属図書館共催）英語論文 2 Daysセミナー2019

学内向けお知らせ

ダイバーシティ通信 第11号（2019年10月）

ダイバーシティ通信第 11 号（2020 年 3 月発行）

ダイバーシティ通信

■ 教職員のためのトップセミナー2019 ■

■ 科学技術人材育成費補助事業（文部科学省）
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）に採択！ ■

■ キャリア形成のためのランチタイムセミナー第12回 ■

■ キャリア形成のためのランチタイムセミナー第13回 ■

ホームページ案内

ダイバーシティ通信 第11号（2020年3月）

帯広畜産大学の取組

セミナー開催

●名　　称　令和元年度男女共同参画講演会
●日　　時　2020 年 2 月 10 日　15：00 ～ 16：15
●対 象 者　帯広畜産大学教職員（北海道大学・室蘭工業大学にも配信）
●場　　所　帯広畜産大学総合研究棟 1 号館 E2501・E2502 会議室
●参加者数　31 名
●講　　師　安河内恵子氏（九州工業大学　副学長）
●実施主体名　帯広畜産大学男女共同参画推進室

活動内容・報告

2019 年度の男女共同参画講演会は、2016 年の推進室設置以降、先進的に取り組み実績を上げている九州工業大学の安河内恵子副学長を招き、「九州工業大学におけるダイバーシティの推進」と題し、同大で行われている在宅勤務、支援研究員制度を活用した Kyutech Project の取り組みについてご講演頂いた。九州工業大学ではダイバーシティを推進するため、「組織」と「支援」の 2 つから成る「九工大方式」という独自の支援を行っており、「組織」では男女共同参画推進会議の設置や、学長のリーダーシップによる女性教員の採用・昇任の推進、「支援」では在宅勤務制度と支援研究員配置支援事業の複合的支援により、数値目標の達成や論文の執筆数、科研費採択率増加に効果が現れている。本学は研究支援員制度に着手し始めたところであり今後の展開に向けて非常に参考になった。また、本講演をきっかけに在宅勤務制度の導入に向け整備を進めることとなった。

研究支援員制度

本支援は、妊娠・育児中の教員を対象に公募を行い、研究の計画的遂行のため、研究支援員による一時的な業務支援を実施し、ワークライフバランスの向上に寄与する支援制度である。

●対 象 者　帯広畜産大学のライフイベント期にある教員（女性教員優先）

実施内容・報告

2019 年度は男性教員 2 名、女性教員 2 名、延べ 872 時間の支援を実施した。

●令和元年度研究支援員募集要項

令和元年度研究支援員募集要項

本学では、女性教員（特にライフイベント期にある教員）が安心して勤務し続けられる環境を整備する一環として、男女共同参画推進支援制度を創設しました。
「研究支援員制度」は男女共同参画推進支援制度の一つであり、妊娠や育児等のライフイベント期にある男性及び女性の教員を対象として、研究の計画的遂行のため、研究支援員による一時的な業務支援を実施し、教員のワークライフバランスの向上に寄与するものです。
「研究支援員制度」の利用を希望される方は、下記要項に従って手続きを行ってください。

記

1 申請資格
（1）妊娠中の者又は配偶者が妊娠中の教員
（2）小学校６年生までの子を養育している教員
※妊娠中又は未就学児を養育している教員を優先します。

2 研究支援員の業務内容
教員の研究活動推進や研究時間確保に必要な実験補助、研究データの解析、統計処理、文献調査、発表資料作成等の補助業務に限ります。

3 研究支援員対象者
学部学生・大学院生・一般

4 研究支援員の雇用条件
雇用期間：採用日から令和２年３月３１日まで
勤務時間：１日７時間 45 分以内、週 20 時間未満かつ期間内合計 360 時間以内
身　　分：事務補佐員又は技術補佐員
給　　与：国立大学法人帯広畜産大学非常勤職員就業規則（平成 16 年規則第４号）による

5 申請期間
令和元年８月２８日まで

6 申請方法
以下の書類を総務課人事・労務係宛に提出して下さい。

【提出書類】
研究支援員制度利用申請書（様式第１号）
子の年齢がわかる証明書（妊娠中の方は母子手帳のコピー、子を養育中の方は保険証のコピー等。）

7 その他
採択された場合、制度利用終了時に利用実績報告書（様式第２号）を提出していただきます。

8 問い合わせ先
総務課人事・労務係　生田
ＴＥＬ：０１５５－４９－５２２１
Ｍａｉｌ：zinji@obihiro.ac.jp

以上

●帯広畜産大学研究支援員制度実施要項

帯広畜産大学研究支援員制度実施要項

（趣旨）
第１条　この要項は，出産・育児等のライフイベント期の国立大学法人帯広畜産大学職員就業規則（平成 16 年規則第３号）の適用を受ける教員に対し，研究の計画的遂行のため，研究支援員による一時的な業務支援を実施し，ワークライフバランスの向上に寄与する「研究支援員制度（以下「本制度」という。）」に関し，必要な事項を定めるものとする。

（支援対象者）
第２条　本制度による支援対象者は，教員のうち次の各号のいずれかに該当する者とする。
（１）　妊娠中の者又は配偶者が妊娠中の者
（２）　小学校６年生までの子を養育している者

（利用期間）
第３条　本制度の利用期間は，４月１日から翌年３月 31 日までの期間において６か月以内とし，同一の事由又は新たな事由の発生による再利用を妨げないものとする。なお，通算利用期間の上限は定めない。

（利用時間）
第５条　本制度の利用時間は，１日７時間 45 分以内，週 20 時間未満とし，利用期間内での利用時間の合計の上限は 360 時間とする。

（支援業務内容）
第６条　支援する業務内容は，本制度を利用する教員の研究活動推進や研究時間確保に必要な実験補助，研究データの解析，統計処理，文献調査，発表資料作成等の補助業務に限るものとする。

（申請）
第７条　本制度による支援を希望する教員は，別に定める募集要項に従い，所定の期日までに利用申請書を男女共同参画推進室に提出しなければならない。

（利用者の決定）
第８条　本制度を利用することができる教員は，前条の申請があった者のうちから，男女共同参画推進室長が決定する。
２　選考結果は申請者に通知する。
３　前項の選考に関し必要な事項は別に定める。

（研究支援員）
第９条　研究支援員とは，本制度の利用者である教員の研究活動を支援することを目的として雇用する者のことをいう。
２　研究支援員は，事務補佐員又は技術補佐員をもって充てる。
３　利用者に対して配置する研究支援員は，利用者が選考し，決定する。
４　１名の利用者に対して複数の研究支援員を配置することができる。

（報告）
第 10 条　利用者は，利用期間終了時に，実績報告書を男女共同参画推進室に提出しなければならない。

（事務）
第 11 条　この要項に関する事務は，総務課において処理する。

（雑則）
第 12 条　この要項に定めるもののほか，本制度の実施に関し必要な事項は，男女共同参画推進室が別に定める。

附　則
１　この要項は，令和元年８月１４日から施行する。
２　第３条中「４月１日から翌年３月 31 日までの期間において６か月以内とし」とあるのは令和元年度に限り，「４月１日から翌年３月 31 日までの期間において８か月以内とし」とする。

北見工業大学の取組

ダイバーシティ推進室設置

北見工業大学における人的資源の多様性を高めることで、本学の組織の活性化や教育・研究力の向上に資することを目的とし、学長のもとに、2019 年 9 月 19 日、ダイバーシティ推進室を設置した。

設置された本推進室は、ダイバーシティ推進に係る方策の企画・立案や、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)連携機関を始めとした学外の関係団体との情報交換等を行っている。学内ニーズの把握と学外グッドプラクティスを収集し、支援内容を分析・検討し、学内の研究・教育環境の改善に努めている。

なお、本推進室は、室長・副室長・室員の計 7 名（男性 3 名、女性 4 名）によって構成されている。(任期は 2021 年 3 月 31 日まで)

ダイバーシティ推進に関する講演会

ダイバーシティ推進室が設置されたことを機に、学内の意識改革を図ることを目的とし、ダイバーシティ推進や男女共同参画推進に係る FD 講演会を実施した。

●日　　時　2019 年 12 月 17 日　14：00 ～ 15：30
●対 象 者　北見工業大学所属教職員、等
●場　　所　北見工業大学～多目的講義室
●参加者数　67 名
●講　　師　渡辺美代子氏
　　(国立研究開発法人科学技術振興機構　副理事)
●実施主体名　北見工業大学ダイバーシティ推進室

活動内容・報告

「ダイバーシティが拓く新たな科学技術」と題して、ダイバーシティ推進への理解を深め、大学における人的資源の多様性を組織に活かす意識を醸成することを目的とした講演会を実施した。講演では、SDG index や Global Gender Gap Index 等での世界的な指標における日本の評価の低さがデータとして示された。日本におけるジェンダー不平等は歴史的な背景や産業界における過去の成功体験にも起因しているとの指摘があった。また男女共同参画は女性のためだけのものではなく、今後人口減少社会を支えるための日本モデル構築のためにも女性が活躍しやすい仕組みを作ることは重要であるとの提言があった。そのためには、男性は男性を選ぶというデータもあることから、決定権を持つ立場での女性比率向上の重要性も示された。

当日は、学外からも、連携機関である北海道大学と北見市役所男女共同参画担当者から 3 名の参加があった。

日東電工株式会社の取組

日東電工株式会社の取組

Nitto グループは、これまでの歴史で培ってきた高分子合成・加工技術をベースとした基幹技術や企業文化に加え、そこから生まれる多様な事業領域や強い知的財産権、さらに幅広い業界にわたって製品を提供している顧客基盤といった強みがある。

そして、独自のビジネスモデルである三新活動とニッチトップ戦略で事業領域を拡大し、持続的な成長を実現し、長期にわたって企業価値を向上させ続けてきた。

今後も、Nitto グループが持続的に成長していくためには「社会課題解決と企業価値向上の両立」という ESG（環境・社会・ガバナンス）の観点での企業経営が必要であると考えている。つまり、「イノベーションによる価値共創」を第一の使命とした上で、製品の安全性や労働環境および人権への配慮、地域社会への貢献、環境保全といった課題を重要視し、責任あるものづくりを徹底していくことが重要である。

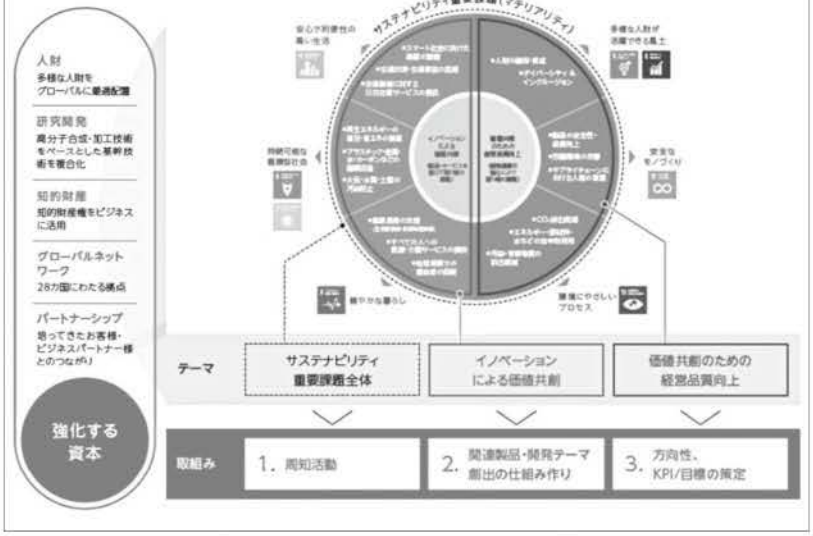
これらを実現するためには、多様な人財の活躍が不可欠であり、いかに優秀な人財を惹きつけ、従業員の能力を最大限に引き出させるかがこれまで以上に重要な経営課題である。

Nitto グループでは、社会課題解決と企業価値向上の両立に向けて、優先的に取り組むべき課題「サステナビリティ重要課題」を 2019 年に特定した。「サステナビリティ重要課題」には「イノベーションの創出」と「経営基盤の強化」の 2 つのアプローチによる取り組みを盛り込んでいる。D & I は、「経営基盤の強化」の中にある 8 つのサステナビリティ重要課題の 1 つであり、多様な人材が活躍できる風土を目指している。

図1: Nittoグループの経営理念

誠実な姿勢と多様性への理解と尊重
・誠実さと謙虚さを行動の原点とし、ステークホルダーとの「尊敬と信頼」の構築に努めます。
・世界の従業員の多様性を認識し、相手を許容し、尊重します。

図2: D&Iと価値創造アプローチ



Nitto グループでは、「法令遵守」の視点からスタートした D & I の取り組みを「多様性の理解と尊重」へ更に視点を転換し、「グローバルでの成長戦略」へ位置づけている。言い換えるならば、「障がい者雇用」「女性活躍推進」「外国籍社員の活躍」「ワークライフバランス」から「障がい者の積極的な雇用、定着」「女性管理職登用」「外国人採用」「働き方改革」「国際間異動制度」「高齢者活躍推進」といった D & I を事業の成長戦略そのものに、ダイレクトにつながる取り組みとして、グローバルに展開している。

従業員エンゲージメントサーベイ「Seeds」

●日　　時　　2019 年 5 月
●対 象 者　　国内主要 Nitto グループの従業員
●活動内容・報告

従業員一人ひとりが活き活きと働ける組織づくりに向けて、エンゲージメントサーベイ「Seeds（Survey for employee engagement, diversity and satisfaction)」を 2019 年 5 月に実施した。グループ会社を含む日本国内従業員 8,955 名を対象とし、95.2%の従業員が回答。調査結果から、Nitto グループは安全文化が強い一方、今後のエンゲージメント向上には「経営陣と従業員のコミュニケーション」「生産性向上」が重要であることが分かった。調査結果をもとに、エンゲージメント向上に向けたアクションプランを策定した。

働き方改革（在宅勤務）

●日　　時　　2019 年度
●活動内容・報告

会社と従業員が共に成長するために、「ワークライフバランスを支援する福祉制度」を目指し、労使一体となって、人事諸制度と福利制度の在り方を検討し続けている。長時間労働の抑制に向け、労使で随時確認・フォローを実施しており、36 協定も年々厳しくするなど、長時間労働の撲滅を目指している。働き方改革の観点では、育児介護に限定した「在宅勤務制度」の対象者範囲を更に拡大し、新たな制度への展開を見据え、トライアルを実施した。

Ⅱ-1-3　研究力向上・リーダー育成のための取組

連携機関全体の取組

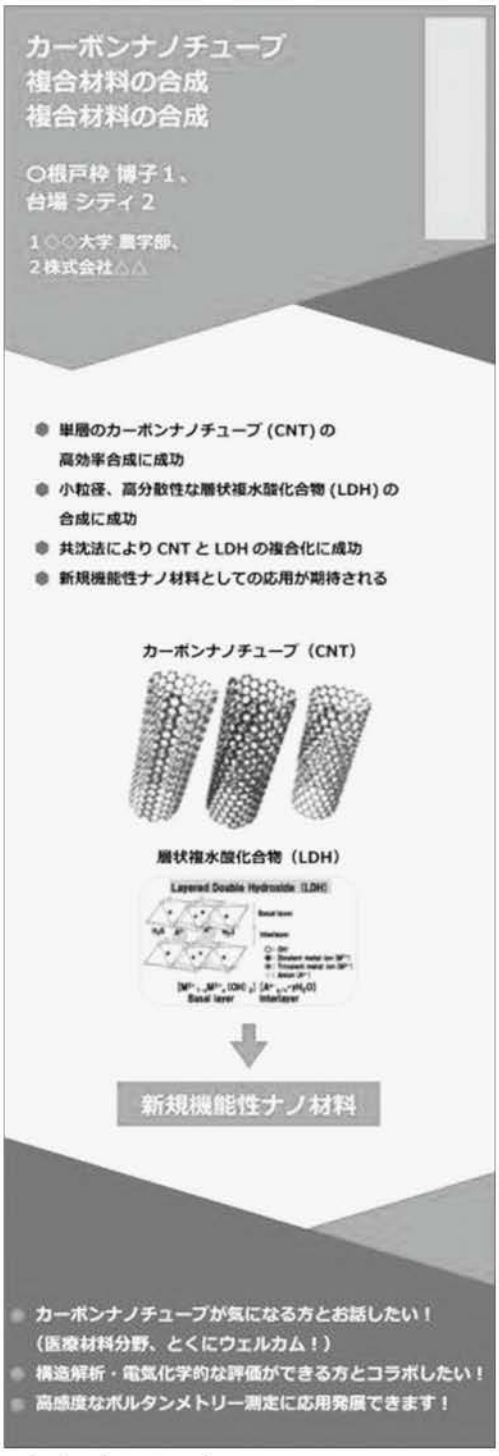
KNIT 研究交流発表会「超異分野 meetup」開催

●名　　称　KNIT 研究交流発表会「超異分野 meetup」
●日　　時　2020 年 3 月 3 日～4 日
●対 象 者　KNIT 連携機関の他、大学、研究機関、企業等に所属する研究者・技術者・大学院生、テーマに関心のある方
●場　　所　北海道大学　学術交流会館
●参加者数　60 名
●主　　催　北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）
●共　　催　北海道大学（人材育成本部女性研究者支援室、人材育成本部 L-Station、大学力強化推進本部 URA ステーション）、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、日東電工株式会社、株式会社アミノアップ
●後援・協力　公益財団法人　北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）

活動内容・報告

KNIT 研究交流発表会は、異分野の研究者との交流を促進し、多様な視点や専門が融合するコミュニティや共同研究の発芽を目的として開催するイベントである。より多くの研究者に参加いただくために、研究紹介を簡潔に用意できるよう「研究ノボリ」型テンプレート※を用意した。ポスター展示会場である北海道大学学術交流会館のロビーには、出展されたポスター 151 件の「研究ノボリ」で埋め尽くされた。折しも、新型コロナウイルスによる行動制限が開始した時期の開催となり、感染拡大防止の観点から会場に集まることができる研究者は限られたが、参加者からは、「研究ノボリというミニマムなフォーマットが参加の敷居を下げてくれた」という声もあり、異分野の研究に興味のある来場者が集まった。

また、研究者同士の直接の会話が難しい中でも交流ができるよう、コメントを残したいポスターには付箋にコメントを書いて残すことや、連絡先を交換したい意思表示を残す工夫、参加者による 60 秒プレゼン動画を会場で流すことを行った。この結果、会場一同に会すことが叶わずとも、参加者間の活発な交流を実現することができた。



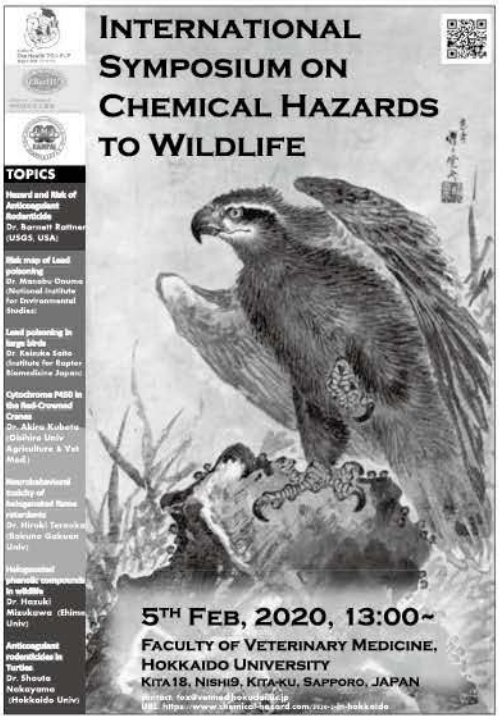
※「研究ノポリ」型テンプレート

北海道大学の取組

女性研究者による研究会等開催支援

本支援では、本学の女性研究者が研究会等の開催を通じてリーダースキルを強化すること、また共同研究創出機会の増加を目的とし、本学の女性研究者が中心となって企画するシンポジウムや研究会等の実施にかかる経費等を支援する。2019 年度は 2 件の支援を行った。

●名　　称　International Symposium on Chemical Hazards to Wildlife
●開催日時　2020 年 2 月 5 日　13：00 ～ 17：25
●場　　所　北海道大学獣医学研究院第二講義室
●参加者数　60 名
●講 演 者　（講演順）
Dr. Barnett Rattner (USGS, USA), Dr. Keisuke Saito (Institute for Raptor Biomedicine Japan), Dr. Manabu Onuma (National Institute for Environmental Studies), Dr. Akira Kubota (Obihiro Univ Agriculture & Vet Med.), Dr. Hiroki Teraoka (Rakuno Gakuen Univ), Dr. Hazuki Mizukawa (Ehime University), Dr. Shouta Nakayama (Hokkaido Univ)
●実施責任者　大学院獣医学研究院　教授



支援報告書より抜粋

本シンポジウムは野生動物に対する化学物質の毒性や被害に関して、この分野を専門とする 7 名の研究者による講演と若手研究者や学生によるポスターセッションを行った。研究テーマとして、殺鼠剤や鉛、有機ハロゲン化合物、海洋プラスチックなどが哺乳類、鳥類、爬虫類、魚類などの野生動物に引き起こしている被害と、そのメカニズムなどについて紹介された。

米国からは USGS（米国地質研究所）より生態毒性学（特に野生動物毒性学）で著名な研究者を招聘し、基調講演での発表を依頼した。また、国内からは北海道大学、酪農学園大学、帯広畜産大学、愛媛大学、熊本県立大学、日本獣医生命科学大学などからの教員、若手研究者や学生が参加した。行政では国立環境研究所、民間研究所からは猛禽類医学研究所の研究者が発表を行った。さらに、民間企業では他に日本たばこや農薬メーカーの研究者も参加し、様々な議論が行われた。

野生動物における毒性学的研究という、チャレンジングなテーマのシンポジウム企画であったが、様々な分野・所属から、学生や研究者が参画しており、熱心な議論が行われた。

●名　　称　スポーツ医学セミナー～北海道における女性アスリート支援に向けて
●開催日時　2020 年 3 月 14 日　00：00 ～ 23：59 までの間に配信
●場　　所　Web 動画配信
●参加者数　76 名
●講 演 者　（講演順）

村上洋子 先生（国立スポーツ科学センター スポーツメディカルセンター、女性アスリートの育成・支援プロジェクト 支援プランナー）、蜂谷愛 先生（NTC 競技別強化拠点施設札幌市ジャンプ競技場情報医科学機能栄養部門 マネジメントスタッフ）、小林範子 先生（北海道大学病院婦人科 講師）、後藤佳子 氏（北海道大学病院スポーツ医学診療センター）、三宮恵利子 氏（スピードスケート 長野五輪・ソルトレークシティ五輪代表）、野口まゆみ 氏（バスケットボール 日本代表・北京五輪予選代表）

●実施責任者　北海道大学病院　スポーツ医学診療センター　助教

支援報告書より抜粋

北海道の女性アスリートの健康問題に対する支援活動を目的として、これをテーマとしたセミナーを開催した。女性アスリート支援活動には医師ばかりではなく栄養士、指導者など様々な専門分野の方の協力が必要だが、セミナーを企画する中で知見を得てより重要と考える専門家を選出した。各分野で専門性を持って活躍している研究者と交流を持ち、現状の課題を共有できたことは、支援活動を進めていく中で重要な成果だと考える。今後、このような機会を契機に、課題解決につながる研究を行うとともに、多職種の専門家と交流を持ちながら、社会貢献につなげていきたいと思う。

●女性研究者による研究会等開催支援募集要項

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

女性研究者による研究会等開催支援　募集要項

本学は 2019 年度科学技術人材育成費補助事業（文部科学省）「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択され、全学的なダイバーシティ研究環境の推進とともに、研究リーダーや大学マネジメントを担う女性研究者の増加を目指しています。

そこで、本学の女性研究者が研究会等の開催を通じてリーダースキルを強化すること、また共同研究創出機会の増加を目的とし、下記の支援を実施いたします。なお、本支援は 2021 年度まで継続する見込みです。

【概要】

本支援は、本学の女性研究者が中心となって企画するシンポジウムや研究会等の実施に必要な経費の一部と、イベント運営に関するツールを支援します。

【主な支援内容】

研究会等の開催に必要な経費のうち、1 企画あたり 50 万円を上限として支援します。

【支援要件】

取組について、以下の条件を全て満たす必要があります。

- 本学に所属する女性研究者（特任教員・研究員を含む）が主宰する学術的企画である
- シンポジウム、フォーラム、ワークショップ、研究会のいずれかに類する
- 講師、企画者以外に 10 名以上の参加が見込まれる
- 2020 年 3 月 15 日（日）までに開催する

【支援対象となる経費】

次の経費に限り、本学規定に沿って支出します

国 内 旅 費：　講師・演者の国内旅費
外国人招聘旅費：　海外からの講師・演者の旅費
謝　　金：　講師等への謝金
印　刷　費：　取組の広報のためのポスター、チラシの印刷費
委　託　費：　会場設営や広報物デザインを外部委託する際の委託費
消 耗 品 費：　取組実施のための必要性を合理的に説明できる消耗品費

【その他の支援】

- 参加申し込みフォーム設置
- シンポジウム等開催支援セットの貸出
- 大判プリンター出力
- 旅行手配業務
- 必要であれば当日の運営補助スタッフ（2 名まで）
- 研究会の動画配信支援
- その他、企画に関する相談

【支援を受けた場合の義務】

- 広報物を作成する場合、2019 年度「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業の文言を入れること
- 女性研究者支援室を共催とすること
- 取組終了後 30 日以内に指定書式の実施報告書（収支報告含む）及び作成した広報物を提出すること

【申請方法】

所定の申請書を女性研究者支援室宛に電子メールにて提出
最終申請期限　2020 年 1 月 27 日（月）

【支援件数】

2 件程度

【審査方法】

申請部局より提出された書類に基づき、女性研究者支援室にて審査を行い、支援金額を決定します。申請書の受理連絡後、2 週間以内に採択可否を連絡します。

【経費執行方法】

原則、女性研究者支援室から直接、経費を執行します。
各部局等への予算振替を希望する場合はあらかじめご相談ください。

お問合せ先：
北海道大学人材育成本部　女性研究者支援室
電話：011-706-3625
メール：freshu@synfoster.hokudai.ac.jp

キャリア開発セミナー（教員向けセミナー、大学院生向けセミナー）

●名　　称　Be a professional ～ A series of Leadership Development Seminars for Female Researchers
●日　　付　2020 年 1 月 21 日～ 22 日
●対 象 者　本学の教員・大学院生
●場　　所　北海道大学人材育成本部会議室
●参加者数　39 名
●講　　師　イリーナ・フィロノワ博士（沖縄科学技術大学院大学（OIST））

活動内容・報告

2 日にわたったセミナーでは、初日に “Faculty Positions: a primer to academic job search” と題したセミナーに続き、“Promoting and supporting women in academia” をテーマにディスカッションを行った。2 日目は “Overcoming self-doubt for women in research” についての理解を深めた後、“Building confidence” をテーマにディスカッションした。

参加者アンケートでは、100％の方から「参考になった」との感想があった。また「情報を知る・知らせることの重要性がわかりました。」「個別の事例や経験や意見を交換出来てとても勉強になりました。」「何となく感じていた事が具体的に言語化・体系化されてわかりやすかった。」「自信を持って行動していくことの重要性がわかりました。」などの声があり、大変有意義なセミナーとなった。

Ⅱ-1-4　上位職への積極登用に向けた取組

北海道大学の取組

2019年度　監事と語る会

2020年8月末まで本学監事を務められた竹谷千里氏と協働し、教職員の方々と直接意見交換を行う「監事と語る会」を開催した。

2017年と2018年に実施した意識アンケートの結果をもとに、男女共同参画やダイバーシティ研究環境の視点から意見交換を実施した。職務、性別、職位などの異なる様々な構成員に協力をいただいた。意見交換では、女性研究者が直面する課題の共有や、男女関わらず多様な人材がキャリア形成で対峙する課題にどのように取り組んでいくか等について話し合った。

〈開催履歴〉

※各1時間半程度にて実施

第1回　「教授、准教授を中心とした女性教員の回」
開催日時：2019年11月19日
参 加 者：本学女性教員

第2回　「助教、講師を中心とした女性教員の回」
開催日時：2019年12月13日
参 加 者：本学女性教員

上位職を目指す女性研究者のためのメンタリング・シャドウイング研修支援事業 SP

本事業は、キャリアアップを目指す女性研究者が、研究活動や業務のマネジメントについて学ぶために上位職の教員（以下「メンター」という）とのメンタリング※1やジョブシャドウイング※2を行う自主的な研修を支援するものである。

この研修を通じて上位職や組織運営を行う管理職の実態を知り、新たな視野・知見・意欲を獲得し、女性上位職研究者及び女性管理職の拡大につなげることを目的としている。2019 年度は 2 件を採択し（1 件は辞退）、1 件の支援を行った。

※1　メンタリング

教育研究活動やキャリア形成についてメンターから直接指導を受けること

※2　シャドウイング

メンターの日々の仕事に同行し、様々なレベルでのコミュニケーションや意思決定を間近に見ることで、上位職研究者としての仕事のスキルや行動規範を学ぶもの

●支援対象者　大学院水産科学研究院　准教授
●メンター　大学院農学研究院　教授
●実施期間　2020 年 2 月 20 日～2 月 21 日

●上位職を目指す女性研究者のためのメンタリング・シャドウイング研修支援事業 SP 募集要項

ダイバーシティ研究環境推進イニシアティブ（牽引型）
2019 年度 上位職を目指す女性研究者のための
メンタリング・シャドウイング研修支援事業 SP　募集要項

概要

本事業は、キャリアアップを目指す女性研究者が、研究活動や業務のマネジメントについて学ぶために上位職の教員（以下「メンター」という）とのメンタリングやジョブシャドウイングを行う自主的な研修を支援するものです。

この研修を通じて上位職や組織運営を行う管理職の実態を知り、新たな視野・知見・意欲を獲得し、女性上位職研究者及び女性管理職の拡大につなげることを目的としています。

メンタリングとは

メンタリングとは教育研究活動やキャリア形成についてメンターから直接指導を受けることです。

シャドウイングとは

シャドウイングとはメンターの日々の仕事に同行し、様々なレベルでのコミュニケーションや意思決定を間近に見ることで、上位職研究者としての仕事のスキルや行動規範を学ぶものです。

期待される研修の効果

この研修により、以下のような知見の獲得や効果が期待されます。

- 学生への指導、他の構成員やスタッフとのコミュニケーション能力
- 大学運営や管理的業務に関する知識
- 共同研究の立ち上げ、推進、発展の実際
- 研究プロジェクトの運営方法
- 時間管理や優先順位の付け方等、上位職者のセルフマネジメント
- 計画作成・研修実施・成果報告のプロセスによる自己啓発力の向上
- キャリア形成に関するアドバイス
- 講義の構成

また、メンターを通じたネットワーク拡大も期待されます。

シャドウイング実践機会の例

- メンターが参加する会議、ミーティング
- ラボマネジメント全般
- メンターと学生との研究ディスカッション、論文紹介指導
- 共同研究打ち合わせ
- 博士論文発表練習会
- 授業・ゼミなどの運営
- 研究室に滞在し、様々な場面でのセルフマネジメントやコミュニケーションを観察
- 時間管理、優先順位の付け方等のスキル
- 事務対応、研究室スタッフとのコミュニケーション方法
- 1 対 1 での直接指導（メンタリングセッション）

研修計画における条件ならびに対象者

研修は

1. 研修計画の作成
2. 計画に沿い、メンターによるシャドウイング研修あるいはメンタリング研修を実施
3. 研修効果について報告書作成

という 3 段階で構成され、これらを通しで実施することで高い研修効果が期待できます。

A. 希望するメンターが学内の研究者の場合

対象：本学に所属する女性のポスドク等の研究員、助教、講師、准教授（特任教員でこれらの職層の者も含む）
内容：1 時間以上のシャドウイングもしくは 1 時間以上の直接指導を、合計 2 時間以上行います。研修終了後に、女性研究者支援室宛に研修報告書（様式あり）を提出します。

B. 希望するメンターが学外の研究者の場合

対象：本学に所属する女性の助教・講師・准教授（特任教員でこれらの職層の者も含む）
内容：滞在期間中に、シャドウイングと直接指導（メンタリング）を合計 8 時間以上実施します。
制限：研修先は国内に限ります。

※直接指導：研修者とメンターが研修内容に沿ったテーマで議論を行うこと

支援内容

A. 学内メンターの場合

- メンターリストの提供、及びリスト外のメンター候補者への趣旨説明

B. 学外メンターの場合

- メンターへの謝金（上限 5 万円）
- 研修者の現地までの旅費（上限 15 万円まで）

メンター

研究者は、希望する研修内容にふさわしいメンターにあらかじめ内諾を得た上で、本事業への申請をしてください。必要に応じて、女性研究者支援室からメンター候補者に対して研修の趣旨・意義などを説明し、希望するメンターの下で研修できるよう支援することも可能です。また、メンターの性別は問いません。

研修可能期間

2019 年 10 月 15 日～2020 年 2 月 29 日

申請方法

申請書に必要事項を記入し、希望する研修開始日の 6 週間前（最終期限：2019 年 12 月 10 日）までにメールで女性研究者支援室（freshu@synfoster.hokudai.ac.jp）まで送付してください。なお、研修開始日が 10 月中である場合は希望する研修開始日の 3 週間前までに送付いただければ受理します。
＊採択金額が予算額の上限に達した場合には、その時点で募集を終了します。

事前相談

9 月 17 日～9 月 20 日の 10 時～16 時は「メンタリング・シャドウイング研修相談ウィーク」となっており、制度の詳細やメンター探し、申請内容等について、事前予約不要でご相談いただけます。期間中はお気軽に女性研究者支援室に直接お越しください。
また、上記期間以外でもメール、電話または事前予約の上での対面相談はいつでも受け付けています。

審査

女性研究者支援室にて提出いただいた申請書により選考をします。選考の過程で追加の書類提出や面接を求めることがあります。

主な審査の観点

上位職への興味、意欲
研修目的の明確さ

成果報告

研修者は研修終了後 1 か月以内に、研修の成果を所定の書式で報告していただきます。また、学内の女性研究者に広く成果を波及するために、女性研究者交流会を兼ねた報告会にて研修の内容を報告していただく予定です。

その他

学外のメンターによる研修の研修者には、研修実施に際して秘密保持に係る誓約書へ記名押印いただきます。
また、本事業は、科学技術人材育成費補助金「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の一環として実施しているため、必要に応じて書類の提出等を依頼することがあります。

室蘭工業大学の取組

教職員のためのトップセミナー 2019

教職員のダイバーシティに対する意識向上をめざしたトップセミナーを毎年開催している。2019 年度の開催状況は以下の通りである。

●日　　時　2019 年 11 月 20 日　14：00 ～ 15：30
●対 象 者　室蘭工業大学教職員
●場　　所　室蘭工業大学本部棟 3 階大会議室（Web 同時配信実施）
●参加者数　31 名
●講　　師　大隅　典子　氏（東北大学副学長）
●実施主体名　室蘭工業大学男女共同参画推進室

活動内容・報告

東北大学副学長（広報・共同参画担当）である医学系研究科教授の大隅　典子先生をお招きし、「男女共同参画を実のあるものにするために―いちばん安上がりなポリシーとは？―」と題してご講演いただいた。

日本の女性の労働状況について、女性の家事負担割合等のワークライフバランスの観点から諸外国との比較データを用いた考察の後、これまでの東北大学における男女共同参画の取り組みについてご紹介いただき、後半ではダイバーシティの実現に向けた意識改革の重要性、特に性差がもたらす無意識のバイアス（偏見）への認識について、具体例を用いて解説いただいた。参加者からは積極的な意見が示され、関心の高さが伺えた。尚、当日は初めての試みとして北海道大学女性研究者支援室へのweb 配信を実施し、連携機関との情報共有を図った。

北見工業大学の取組

役員と女性教員の懇談会

女性教員の大学運営やマネジメントの視点の獲得を目指し、本学では初めての学長・理事と女性教員の懇談会を実施した。

●日　　時　2019年8月2日　13：00～14：00
●対 象 者　北見工業所属女性教員
●場　　所　北見工業大学～第3会議室
●参加者数　8名

活動内容・報告

8月2日に本学では初めての学長・理事と女性教員による懇談会を実施し、ダイバーシティ推進や今後の女子学生の進学率増加に繋がる取組等について意見交換を行った。初めに総務担当理事から本学のダイバーシティ推進に関する取組について、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の参画機関としての主な活動計画の説明がなされた。その後、自由な意見交換を行った。その中では、地域の女子高校生に向けての理系選択のアピールや、女子学生の大学院進学率の上昇を目指した取り組みを進める必要があるとの意見等があった。また女性教員として本学の研究環境に不満はないが、全国最低の女性教員比率を改善すべきであるとの発言もあった。

役員との懇談会は次年度以降も継続して実施を検討しており、様々なテーマでの意見交換を予定している。

株式会社アミノアップの取組

女性研究員と会社トップ（社長）との個別面談

当社では半年に 1 度、社長と女性研究員による個別面談が実施されている。面談ではキャリア形成やその実現について話し合い自律的な成長を促す機会となっている。また、女性研究員の活躍をサポートするための相談窓口として役割も果たしている。

●名　　称　2019 年度　上期　社長面談
●日　　時　2019 年 11 月 25 日、11 月 27 日
●対 象 者　株式会社アミノアップ　研究部在籍の女性研究員
●場　　所　株式会社アミノアップ～ 1 階応接室
●参加者数　5 名

活動内容・報告

2019 年度 1 回目となる個人面談は 2 日間の日程で実施された。1 名当たりの面談時間は 20 分で行われた。面談では 2019 年 4 月に産後・育児休業から復帰した女性研究員より復帰後の職場環境や育児支援体制について意見交換を行った。時差出勤制度の利用により仕事と育児の両立が可能となっていることが伺えた。また研究力向上の機会についても話し合われ、学会発表や論文投稿を行う機会があり研究力向上を実感していることが明らかとなった。

日東電工株式会社の取組

Nitto Global Business Academy（NGBA）

●日　　時　　2019 年度

●活動内容・報告

将来の経営幹部育成を目的とした「Nitto Global Business Academy（NGBA）」は、新規事業創出や経営課題解決の側面から Nitto グループを牽引し、Nitto Person のアイデンティティを形作る人財輩出の場として、より実践に資するプログラムを実施している。前身の日東 University も含めると、役員の 70％以上が本プログラムを経験しており、経営幹部の育成に貢献している。今後も国内外問わず優秀な人財を募り、グローバル経営人財を育成していく。

Ⅱ-1-5　女性研究者の裾野拡大に向けた取組・その他

北海道大学の取組

大学進学相談会参加

女子生徒の理系進学選択を促進するために、高等学校等で主催する進学相談会へ参加した。

〈参加履歴〉

2019 年　7 月 12 日　北海道苫小牧東高等学校　1・2・3 年生
学校法人京都育成館北海道栄高等学校　1・2・3 年生
北海道苫小牧南高等学校　1・2・3 年生、北海道白老東高等学校　1・2・3 年生
2019 年 10 月　1 日　学校法人希望学園札幌第一高等学校　1 年生、2 年生
2019 年 10 月 15 日　私立創成高等学校　1・2 年生 SAG コース、北海道札幌国際情報高等学校　1 年生
2019 年 10 月 16 日　札幌大谷高等学校　1 年生、2 年生、中学 3 年生（英数選抜コース）
2019 年 10 月 17 日　藤女子中学校・高等学校　3 年生、4 年生

室蘭工業大学の取組

キャリア形成のためのランチタイムセミナー

女性研究者の裾野拡大をめざし、学生を主な対象にランチタイムセミナーを毎年開催している。2019 年度の開催状況は以下の通りである。

●名　　称　キャリア形成のためのランチタイムセミナー　第 12 回
●日　　時　2019 年 7 月 23 日　12：10 ～ 12：45
●対 象 者　室蘭工業大学学生・大学院生
●場　　所　室蘭工業大学教育・研究 1 号館　A317 室
●参加者数　33 名
●講　　師　産業技術大学院大学産業技術研究科　助教
　　黄　緒平（コウ　ショヘイ）氏
●実施主体名　室蘭工業大学男女共同参画推進室

活動内容・報告

中国出身で日本への留学経験があり、現在日本で研究者として活躍している黄　緒平氏に、研究紹介のほか、育児と研究職を両立するために心掛けていること等、小さなお子さんを持つ母親の視点からご自身の経験に基づいてお話をいただいた。留学生を含む情報工学系研究室所属の大学院生が多く参加し、先輩の活躍に感銘を受けた様子がうかがえた。

●名　　称　キャリア形成のためのランチタイムセミナー　第 13 回
●日　　時　2020 年 2 月 7 日　12：10 ～ 12：45
●対 象 者　室蘭工業大学学生・大学院生
●場　　所　室蘭工業大学教育・研究 1 号館　A317 室
●参加者数　15 名
●講　　師　北開工営株式会社　管理本部　グループリーダー　古舘佑子　氏
●実施主体名　室蘭工業大学男女共同参画推進室

活動内容・報告

本学卒業生であり、現在北開工営株式会社管理本部グループリーダーの古舘佑子氏に、これまでの技術者としての経歴や出産・育休取得後、管理本部に配属されてからの働き方、子育てと仕事の両立や今後の目標についてお話いただいた。後半では会社に必要とされる存在になることで得られるメリットやそのために資格取得や経験を積むことの大切さなどについても語っていただいた。

参加者からは「企業説明などでは聞けない休みの取りやすさ、育休の使いやすさが聞けたのでとてもタメになりました。」「新婚で一時期専業主婦の経験もありましたが、家庭と仕事の両立もできるのだと実感が湧きました。」等の感想が寄せられた。

北見工業大学の取組

オープンキャンパス女子学生ブース

女性研究者裾野拡大の第一歩となる女子高校生の理系進学の促進を目的に、本学で初めての企画として、工業大学への進学に対する不安解消及び学生生活について理解を得るための、本学在籍の学部女子学生と高校生との懇談の場を設けた。

●日　　時　2019年7月27日　13：30～15：30
●対 象 者　北見工業大学オープンキャンパス参加者
●場　　所　北見工業大学～アトリウム
●参加者数　10名（高校生7名、保護者3名）

活動内容・報告

高校生や同席した保護者からの質問に、二人の在学生が回答する形式で実施した。高校生の質問内容から、女子学生数が少ないことに関する漠然とした不安があることが伝わってきた。例えば、女子が少ないので、大学生活で友達ができないのではないか？　女子であるために大学生活で困ることがないか？　就職で不利にならないか？　等であった。対応に当たった本学在学生の的確な回答により、本学での女子の学生生活の実態が理解でき安心した様子であった。本イベントは、高校生の工業大学への進学に対する不安解消に十分役立つことがわかり、今後も継続する方針である。

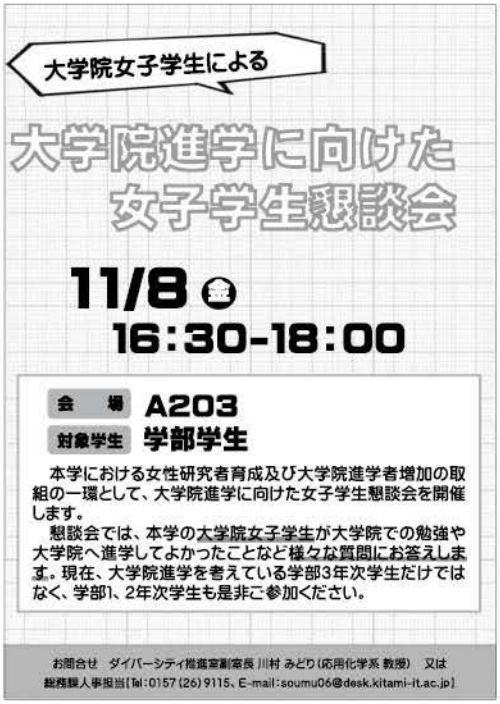
大学院進学に向けた女子学生懇談会

女性研究者裾野拡大には、大学院への進学者を増加させることが必要不可欠である。分野によっては身近に女子大学院生がいない環境の学部生もいるため、進学に対する不安解消及び大学院生活について周知するため、学部女子学生と大学院女子学生との懇談会を実施した。

●日　　時　2019年11月8日　16：30～18：00
●対 象 者　北見工業大学所属学生
●場　　所　北見工業大学～A203講義室
●参加者数　学生8名及び教職員5名
●実施主体名　北見工業大学ダイバーシティ推進室

活動内容・報告

本懇談会は、女子学生の大学院進学者数を増加させる目的で、初めて企画されたものである。まず、博士前期課程２年に在籍している学生が、自身の研究生活や就職活動での経験等を話した。就職活動に要した費用や、インターンシップや会社説明会への参加など、学生によって色々と異なる点もあったが、それぞれの経験に基づいて具体的に紹介があった。研究室選択についても重視した点や事前の見学の重要性の指摘があり、学部学生に参考になったと思われる。大学院での生活の中で、忙しい実験・講義に加えてアルバイトも両立させるために時間管理を工夫する必要があったという話に学部学生も感心した様子であった。



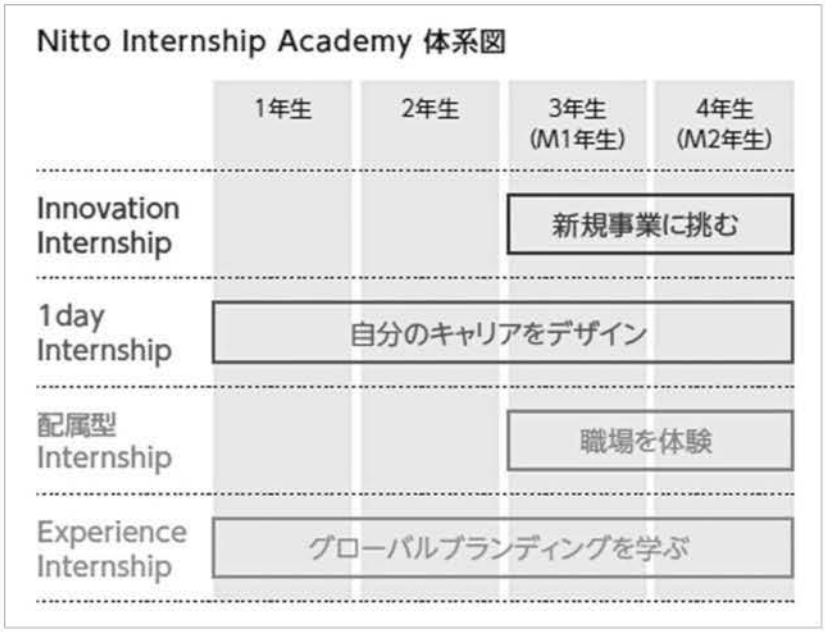
日東電工株式会社の取組

インターンシップ

●日　　時　　2019 年度

●活動内容・報告

グローバル人財の採用を目指す中で、学生が様々な体験を通じて成長できる場を提供することを目的としたインターンシップ「Nitto Internship Academy」を開設した。Nitto グループの強みであるイノベーションや戦略を理解したうえで、Nitto 従業員とチームを組み新規事業を提案したり職場を体験するといった 4 種類のプログラムを用意している。2019 年度はすべての学生・学年を対象にした結果、1,400 名が参加。「Experience Internship」では、ロンドンで開催された「Nitto ATP ファイナルズ」に学生が同行し、Nitto グループの魅力を発信するなど世界に向けた企業のブランディングを体験した。この機会を通して、グローバル人財の採用にもつながっており、学生からの理解度や社外からの認知度も高まっている。



2020 [年度]

Ⅱ-2-1　2020 年度実施内容一覧

実 施 月 日	実 施 内 容
4月　1日	【室蘭工業大学】令和 2 年度ライフイベント期にある研究者への支援開始
4月　上旬	2020 年度 KNIT 共同研究助成募集開始（5 月中旬締切）
5月　7日	【北海道大学】「上位職を目指す女性研究者のためのメンタリング・シャドウイング研修支援事業 SP」、「女性研究者による研究会等開催支援」公募開始
5月 21 日～ 26 日	令和 2 年度　第 1 回北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議（メール会議）開催
5月 22 日	令和 2 年度　北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議「第 1 回業務担当者会議」開催（メール会議）
5月 25 日、27 日、28 日	【株式会社アミノアップ】女性研究員と会社トップ（社長）との個別面談
5月中旬～下旬	2020 年度 KNIT 共同研究助成審査
6月　5日	令和 2 年度　北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議「第 2 回業務担当者会議」開催（メール会議）
6月 12 日～ 19 日	令和 2 年度　第 2 回北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議（メール会議）開催
6月 23 日	【株式会社アミノアップ・北見工業大学】令和 2 年度　北見工業大学「次世代研究者のための講演会」打合せ（Web ビデオ会議）
7月　2日	KNIT a Network! 第 1 回ロールモデル座談会開催
7月　9日	令和 2 年度　北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議「第 3 回業務担当者会議」開催（オンライン会議）
7月 16 日	KNIT a Network! 第 2 回ロールモデル座談会開催
7月 20 日	【株式会社アミノアップ・北見工業大学】令和 2 年度　北見工業大学「次世代研究者のための講演会」打合せ（Web ビデオ会議）
7月 27 日	【北見工業大学】ダイバーシティ推進パンフレットを作成し、他機関等への周知を実施
7月 30 日	KNIT a Network! 第 3 回ロールモデル座談会開催
8月～ 9月	【帯広畜産大学】後期分の研究支援員制度の公募開始　8 名の教員への支援を決定
8月　3日	【株式会社アミノアップ・北見工業大学】令和 2 年度　北見工業大学「次世代研究者のための講演会」女性研究員が講演（オンライン講演会）
8月　6日	KNIT a Network! 第 4 回ロールモデル座談会開催
8月 21 日	令和 2 年度　北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議「第 4 回業務担当者会議」開催（オンライン会議）
8月 25 日	【北海道大学】令和 2 年度後期「研究活動とライフイベントの両立のための補助人材支援」の公募開始　23 名の教員への支援を決定
8月 27 日	KNIT a Network! 第 5 回ロールモデル座談会開催
8月 28 日	北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク　第 1 回アドバイザリーボード開催
8月 28 日	【北見工業大学】ダイバーシティに関する FD 講演会開催
9月　4日	女性研究者研究力向上セミナー「ストーリー作りから始めるコミュニケーションデザイン」オンライン開催

実 施 月 日	実 施 内 容
9月7日～18日	【北見工業大学】Web オープンキャンパス　オンライン相談会において女子高校生相談ブースの設置
9月　8日	【北見工業大学】令和2年度　第1回ダイバーシティ推進室会議開催
9月10日	KNIT a Network! 第6回ロールモデル座談会開催
9月15日	女性研究者対象セミナー「PI を目指す女性研究者のための『Leadership Development Training Program（全5回)』第1回」開催
9月22日	【北海道大学】「女性研究者による研究会等開催支援プログラム」による「シンポジウム：フィールド言語学とフィールド言語学者のダイバーシティ」
9月24日	令和2年度　北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議「第5回業務担当者会議」開催（オンライン会議）
9月24日	【北見工業大学】令和2年度大学等における男女共同参画推進セミナー参加
9月24日	KNIT a Network! 第7回ロールモデル座談会開催
9月29日	【北見工業大学】ダイバーシティ事業推進に係る役員と女性教員等の懇談会開催
10月13日	女性研究者対象セミナー「PI を目指す女性研究者のための『Leadership Development Training Program（全5回)』第2回」開催
10月16日、17日	【室蘭工業大学・北見工業大学】共同実施機関（室蘭工業大学）が共同実施機関（北見工業大学）を訪問 工科系単科大学における男女共同参画の方策等について意見交換を実施
10月21日、11月13日	【北海道大学】「ダイバーシティ研究環境推進に向けた部局等による取組支援プログラム」による「ダイバーシティシンポジウム：仕事観が変わるかも？～産・学・フリー～」（主催：工学研究院材料科学部門）開催
10月22日	【室蘭工業大学】英語セミナー「アクセプトへの第一歩！英語論文執筆の A to Z：英文校正のプロが具体的な注意点を解説」開催
10月22日	KNIT a Network! 第8回ロールモデル座談会 Jr. 開催
10月24日	【北海道大学】「女性研究者による研究会等開催支援プログラム」による「法獣医学研究会シンポジウム：動物虐待をめぐる現状と課題」開催
10月28日	令和2年度　北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議「第6回業務担当者会議」開催（オンライン会議）
11月　2日	【室蘭工業大学】「教職員のためのトップセミナー 2020」開催 インターネットを利用して北海道大学など4大学へ同時中継を実施
11月　4日	【北見工業大学】令和2年度　第2回ダイバーシティ推進室会議開催
11月4日～6日	【北海道大学】上位職を目指す女性研究者のためのメンタリング・シャドウイング研修支援事業 SP 1名実施
11月　5日	【北見工業大学】大学院進学に向けた女子学生懇談会開催
11月　5日	KNIT a Network! 第9回ロールモデル座談会開催
11月　9日	多様性を強みとして生かすための知識＆スキル習得セミナー①「アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）との付き合い方を学ぼう」開催
11月　9日	【室蘭工業大学】ダイバーシティ通信第12号発行

実 施 月 日	実 施 内 容
11 月 17 日	女性研究者対象セミナー「PI を目指す女性研究者のための『Leadership Development Training Program（全 5 回）』第 3 回」開催
11 月 19 日	KNIT a Network! 第 10 回ロールモデル座談会開催
11 月 25 日	令和 2 年度　北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議「第 7 回業務担当者会議」開催（オンライン会議）
11 月 25 日、30 日、 12 月　1 日	【株式会社アミノアップ】女性研究員と会社トップ（社長）との個別面談
11 月 30 日～ 12 月 4 日	オンライン研究交流イベント「異分野 meetup week 2020」開催 期間中に共同研究促進のためのセミナーや研究者によるオンラインイベントを 9 回実施
12 月　1 日	令和 2 年度　第 3 回北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議（オンライン会議）開催
12 月　1 日	オンラインシンポジウム「多様性から編み出すイノベーション」開催
12 月　2 日	【帯広畜産大学】令和 2 年度　第 1 回男女共同参画推進セミナー開催
12 月　2 日	【室蘭工業大学】女子学生や若手研究者を対象とした「キャリア形成のためのランチタイムセミナー拡大版」開催（オンライン開催）
12 月　3 日	KNIT 協力機関会議（オンライン会議）開催
12 月　3 日	KNIT a Network! 第 11 回ロールモデル座談会開催
12 月 10 日、11 日	【北海道大学】「女性研究者による研究会等開催支援プログラム」による「Energy Strategies for sustainable societies, materials discovery and design」開催
12 月 14 日	令和 2 年度　北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議「第 8 回業務担当者会議」開催（オンライン会議）
12 月 21 日	多様性を強みとして生かすための知識＆スキル習得セミナー②「ダイバーシティ時代のチームマネジメント～多様性のあるチームを率いるために～」開催
12 月 23 日	2021 年度 KNIT 共同研究助成募集開始（2 月 1 日締切）
1 月 13 日	令和 2 年度　北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議「第 9 回業務担当者会議」開催（オンライン会議）
1 月 16 日、17 日	【北海道大学】大学入学共通テスト時の一時保育支援実施　3 名の教職員が利用
1 月 19 日	女性研究者対象セミナー「PI を目指す女性研究者のための『Leadership Development Training Program（全 5 回）』第 4 回」開催
1 月 28 日、29 日	【北海道大学】「女性研究者による研究会等開催支援プログラム」による「土壌微生物×物質循環：ワークショップ」開催
2 月　9 日	女性研究者対象セミナー「PI を目指す女性研究者のための『Leadership Development Training Program（全 5 回）』第 5 回」開催
	【帯広畜産大学】研究支援員制度の公募開始　8 名の教員に対して研究支援員を配置
	【日東電工株式会社】育児を目的とした特別休暇制度（最大 5 日間）の新設 在宅勤務の制度化に向けたトライアルの実施

Ⅱ-2-2　ダイバーシティ研究環境整備のための取組

連携機関全体の取組

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議の実施

2020 年度は、メール会議を 2 回、オンライン会議を 2 回（予定含む）実施し、KNIT 共同研究助成や異分野交流イベント等、主に連携機関全体で取り組む内容について議論を行った。

【第 1 回】

●日　　時　2020 年 5 月 21 日～ 26 日（メール会議）

●審議事項

・KNIT 共同研究助成に係わる審査委員会の設置について

・2020 年度 KNIT 共同研究助成の審査に係わるスケジュール、審査基準、秘密保持誓約書の内容について

・北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク連携協定書の締結について

●審議結果

「北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク審査委員会」の設置を承認するとともに、「KNIT 共同研究助成審査基準」「秘密保持誓約書」「KNIT 共同研究助成審査フローとスケジュール」に基づき KNIT 共同研究助成の審査を実施することとした。

また、連携機関が協力して実施する事業（共同研究助成事業等）を円滑に推進することを目的として、北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク連携協定を締結することとした。

【第 2 回】

●日　　時　2020 年 6 月 12 日～ 19 日（メール会議）

●審議事項　「2020 年度 KNIT 共同研究助成」の審査結果について

●審議結果

「北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク審査委員会」から提案された、2020 年度 KNIT 共同研究助成採択テーマ（案）に対して、提案どおり承認することとした。

【第 3 回】

●日　　時　2020 年 12 月 1 日　11：00 ～ 12：00（オンライン会議）

●審議事項　2021 年度 KNIT 共同研究助成について：①公募について　②審査について

●報告事項　異分野 meetup week 2020 開催について

活動報告

各会議を通して、共同研究助成等の事業について、連携機関間と確認、合意しながら事業を進めていった。また、女性研究者比率向上及びダイバーシティ推進のための課題や具体策、施策効果等を共有して研究環境の向上に取り組んだ。

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークシンポジウムの実施

女性研究者を含む多様な研究者が能力を発揮できる研究環境の整備、多様なリーダー育成と登用、組織の意識改革等の取組への理解浸透を図りネットワークを構築する活動の一環として開催した。

●名　　称　『多様性から編み出すイノベーション』
●日　　時　2020 年 12 月 1 日　14：00 ～ 16：30
●対 象 者　全国のダイバーシティ事業に関わる機関、教職員
●開催方法　オンライン（Zoom）
　　※北海道大学百年記念会館より配信
●申込・参加費　事前申し込み要、無料
●参加者数　約 90 名
●講　　師　総合科学技術・イノベーション会議　議員
　　富士通株式会社　理事　梶原ゆみ子　氏
　　東京都公立大学法人　理事
　　筑波大学　名誉教授　吉武博通　氏

活動内容・報告

梶原ゆみ子氏より「何のためのＤ＆Ｉ？誰のためのＤ＆Ｉ？」と題して、日本の女性参画の現状や企業の視点からのＤ＆Ｉについて、また、諸外国に比べた日本の現状、CSTI の政策、富士通株式会社での取り組みについてお話をいただいた。

吉武博通氏からは、『ダイバーシティの視点から大学と社会のこれからを考える』と題して、大学組織での構造や認識等根本問題から働き方改革について、大学での現状、取組や課題、働き方改革が大学にもたらす効果まで、多岐に渡るお話をいただいた。

オンライン開催となり、北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク共同実施機関や協力機関だけでなく全国のダイバーシティ事業に携わる機関、教職員や民間企業から参加をいただいた。「なぜ大学で（産学で）ダイバーシティを推進する必要があるのか？」「組織にとって＋研究者にとってどういう意味があるのか？」という話題について、社会的背景とともに、理解を深めることができた。

参加者事後アンケートでは、“多様な人が働きやすい環境づくりが進んでいるかどうか”との質問に対し、“進んでいると思う”“進んでいると思わない”の回答がほぼ同数という結果だった。

アドバイザリーボード

北海道ダイバーシティ研究環境ネットワーク（KNIT）では、事業の目標達成に向けて、日本の女性研究者活躍推進の取組を牽引してきた有識者等よりアドバイスや取組に対するフィードバックをいただくために「アドバイザリーボード」を設置している。2020 年度は 8 月 28 日に第 1 回アドバイザリーボードをオンラインにて開催した。

●名　　称　第 1 回アドバイザリーボード
●日　　時　2020 年 8 月 28 日　13：00 ～ 16：00
●場　　所　北海道大学事務局会議室 A　オンライン：Zoom
●アドバイザー　東北大学副学長、男女共同参画推進センター長　大隅典子　氏
　　情報・システム研究機構長　藤井良一　氏
　　北海道環境生活部　くらし安全局長　近藤裕司　氏

活動内容・報告

KNIT 連携機関全体および各連携機関による取組紹介に対して、アドバイザーによるコメントや助言、質疑応答が活発に行われた。また、各アドバイザーからは、それぞれの専門やご経験を踏まえてのご講演をいただき、KNIT 連携機関に所属する研究者にも公開された。

全体の質疑応答では、大学の取組で実際に直面している課題についても議論され、各機関ならびに全体におけるダイバーシティ推進に向けた、大変参考となる見識を共有いただいた。

〈各アドバイス概要〉

・東北大学副学長　大隅典子先生：「なぜ女性研究者は少ないのか？」
　研究者に特有の問題点の提起や多様なロールモデルやキャリアパスの重要性、また東北大学の共同参画の取組とダイバーシティの推進などについてお話いただいた。
・情報・システム研究機構長　藤井良一先生：「女性研究者の参画・活動促進への組織的取組について　―評価の活用による能動的加速―」
　男女共同参画・特に女性教員増加の必要性、男女の研究力に差はあるのか、トップの戦略のコミットメントなどについてお話いただいた。
・北海道環境生活部くらし安全局長　近藤裕司氏：「北海道における女性活躍に向けた取組」
　女性を取り巻く状況、男女がともに活躍できる環境づくりについてお話いただいた。

業務担当者会議実施

業務担当者会議は、各連携機関と連携して事業企画・実施するための情報共有や検討するためのコミュニケーションを目的として 2020 年度も引き続き開催している。1 か月～ 2 か月に 1 回程度の頻度で、密な情報交換を連携機関全体で行うことで北海道の各地域に拠点を構える連携機関のダイバーシティに関する状況や取り組みを互いに知り、KNIT 全体の研究環境の向上に取り組んでいる。

2020 年度は別表の通り、9 回の業務担当者会議を実施した（メール開催およびオンライン開催、2021 年 1 月現在）。

〈開催記録〉

実 施 日	議 題
5 月 22 日	・2020 年度 異分野交流イベント企画案について
6 月 5 日	・6 月 12 日－17 日 推進ネットワーク会議（メール会議）審議用資料の確認
7 月 9 日	・2020 年度 異分野交流イベントの開催案について ・アドバイザリーボード議事案について ・KNIT シンポジウム開催の日程調整
8 月 21 日	・2020 年度 異分野交流イベントの開催企画詳細（“異分野 meetup week2020” 開催決定） ・2021 年度 KNIT 共同研究助成（原案）について
9 月 24 日	・異分野 meetup week2020 の開催企画進捗共有 ・2021 年度 KNIT 共同研究助成（異分野 meetup week2020 との接続）について
10 月 28 日	・異分野 meetup week2020 進捗状況について ・2020 年 KNIT 共同研究助成・報告書フォーマットについて ・2021 年度 KNIT 共同研究助成（募集要項の共有・スケジュール等の確認）について
11 月 25 日	・異分野 meetup week2020 進捗状況について ・2021 年度 KNIT 共同研究助成（12 月 1 日 推進ネットワーク会議での審査および確認）について
12 月 14 日	・異分野 meetup week2020 振り返り ・2021 年度 KNIT 共同研究助成（公募関係書類の確認）について
1 月 13 日	・2019-2020 年度 KNIT 活動報告書の作成について ・2021 年度 KNIT 共同研究助成（今後のスケジュール確認）について

KNIT a Network ！ロールモデル座談会

2020 年夏より、研究に携わっている方々を紹介する KNIT a Network ！ロールモデル座談会をスタートした。2020 年には 11 回開催し、計 15 名の方にゲストとしてご協力いただいた。KNIT a Network ！では、研究や大学運営に携わる皆様の多様な人生を参考にして、自分の挑戦の可能性や自分の人生の選択の幅を更に広げることにつながるようなコンテンツとなることを目標に、多様な人生の共有を目的として配信している。

このような目標・目的から、ゲストとして登場いただく方は研究者だけでなく、博士課程で今経験を積んでいる学生や、研究を発展・深化するために並走している産学連携スタッフや URA として働いている皆様にも登場いただき、どのような経緯で今に至ったのか、今の仕事や研究についてお話を伺った。今まで直面してきたいろいろな岐路と選択のご経験は多様でありつつも、悩み考えたことの本質はゲストも視聴者の方も共感することがあったように感じている。そして再び前を向く時の解決方法や出した答えは多様であり、自分が設定した到達地点にたどり

着くために挑戦したことや折々で出会った方のことなど、一つの正解があるのではなく自分が進んできた道が結果として“正解”と言えるのかもしれないということを教えていただいた。

●開催頻度　月２回（隔週木曜日）
●対 象 者　一般公開（主に KNIT 連携機関に所属の方）
●開催方法　オンライン配信（zoom）
●申込・参加費　事前申し込み要、無料

〈開催履歴〉（ゲストの所属および肩書は、配信当時現在のもの）

第１回　「想定外を楽しもう！」（開催日：2020 年７月２日）
ゲ ス ト：北海道大学人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室特任教授、遠友ファーマ株式会社　Founder, CEO 長堀紀子氏
参加人数：約 20 名

長堀先生の人生で起きた３つの“想定外”（①大学の研究者から行政へ、②行政から再び大学へ、③バイオベンチャー起業へ）について、人との出会い、チャンスを逃がさないため常に先のことを考えていること、ご家族のエピソードを伺った。

第２回　「アリス in Origami ランド　―繁富（栗林）香織先生の物語．北海道から Oxford まで、学びと研究のベストライフを求めて―」（開催日：2020 年７月 16 日）
ゲ ス ト：北海道大学高等教育推進機構　新渡戸カレッジ特任准教授　繁富（栗林）香織氏
参加人数：約 30 名

繁富（栗林）先生の出会いと気づきの積み重ねが、先生をオックスフォード大学への留学や研究テーマに繋がっていることを折々のエピソードと一緒にお話しいただいた。

第 3 回 「研究者と室長と」（開催日：2020 年 7 月 30 日）
ゲ ス ト：北海道大学大学院保健科学研究院保健科学部門　基礎看護学分野　教授、人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室　室長　矢野理香氏
参加人数：約 30 名

先生が研究者として取り組んでいる、看護技術の可視化と、看護師の職務環境に関するテーマに取り組む気持ちや、様々な人とのつながりを作ってきたことがきっかけで「室長」だけでなく北大野球部部長になったというエピソードをお話いただいた。

第 4 回 「監事ってなんですか？」（開催日：2020 年 8 月 6 日）
ゲ ス ト：北海道大学監事　竹谷千里氏
参加人数：約 30 名

北海道庁での職務に関するエピソードや、“監事”というお仕事内容についてなど様々なご経験をお話いただいた。どんな道を選んでも、悩んだ末にその道を選んだのであれば、決断をした時の自分を信じること、と心強いエールもいただいた。

第５回　「研究と子育てと私」（開催日：2020年8月27日）
ゲ ス ト：室蘭工業大学大学院工学科　准教授、文部科学省　卓越研究員　太田香氏
参 加 者：約60名

室蘭工業大学に着任後、２回の産休・育休を取得された太田先生。「仕事と子育ての両立は人に助けてもらわないと無理！」と、ご両親、義両親、保育園のサポートや、ライフイベント中の補助員雇用助成や同業者である夫のサポート、国内外の女性研究者同士のオンラインコミュニケーションといった様々な関わりの様子をお話いただいた。

第６回　「北大産学連携マネージャー２人仕事の花道～北大の産学連携の取り組み、その他いろいろ～」（開催日：2020年9月10日）
ゲ ス ト：北海道大学産学・地域協働推進機構イノベーション創出部門　産学協働マネージャー　城野理佳子氏、産学協働マネージャー　千脇美香氏
参加人数：約20名

お２人は研究成果を社会へ送り出すサポートを行う産学・地域協働推進機構に所属されている。研究者として知っておきたい知的財産に関する北海道大学の制度について分かりやすくご説明いただき、やりがいなどもお話いただいた。

第 7 回　「研究者生活、「山登り」も「川下り」も取り入れて進もう！」（開催日：2020 年 9 月 24 日）

ゲ ス ト：北見工業大学　学長補佐（ダイバーシティ担当）、ダイバーシティ推進室　副室長、応用化学系　教授　川村みどり氏

参 加 者：約 40 名

北見工業大学で採用された後にご結婚・ご出産というライフイベントを迎え、北見で子育てをしてよかったことや、同年代で子育て中の男性教員の方々に悩みを相談したり、そのアドバイスが励みになったことをお話いただいた。キャリア形成を「山登り」と「川下り」に準えてお話いただき、目標を決めてまい進する「山登り」型もあるけど「川下り」でも、偶発的な発見や出会いもあるのではないか。この出会いは、自分の考えがあるとなお気が付きやすい、とお話をいただいた。

第 8 回　「―ドクター進学よろず話―」（開催日：2020 年 10 月 22 日）

ゲ ス ト：北海道大学大学院農学院　博士課程 3 年　菊池麻子氏、北海道大学大学院生命科学院　博士課程 3 年　澤井恵氏、聞き手：北海道大学大学院農学院　修士課程 2 年　栗原利奈氏

参加人数：約 20 名

博士号取得に向けて研究生活を送る現役学生をゲストにロールモデル座談会 Jr. として開催した。薬剤師実習が終わり、マイクロピペットを持った時、“ 私はこれだ！ ”と直感し進学を選んだ澤井さん。取組む研究にはもっと先があり、続けていきたい！と思った菊池さん。学費や生活費の悩みについての解決方法や、博士進学をして良かったこと、お 2 人の進路についても修士学生である栗原さんからのインタビュー形式でお届けした。

第 9 回　「URA ってなにやっているの？～研究力強化の縁の下の力持ち、URA の取組紹介～」（開催日：2020 年 11 月 5 日）
ゲ ス ト：北海道大学 URA ステーション　リサーチ・アドミニストレータ　小木雅世氏、リサーチ・アドミニストレータ　和田肖子氏
参加人数：約 20 名

大学の中で「決まっていないこと」「まだないこと」を企画する、プロデューサーのようなお仕事をされているお 2 人。2 人とも研究者としての面を持っていることから、研究者の方の気持ちが分かるからこそ、研究に生きる形で資金を取得し、うまく循環させたいと常々思っています、と語っていただいた。

第 10 回　「妊娠・出産・育児の理想と現実～息子のおかげで見えたもの～」（開催日：2020 年 11 月 19 日）
ゲ ス ト：帯広畜産大学　畜産フィールド科学センター　准教授、男女共同参画推進室　室長　川島千帆氏
参加人数：約 30 名

研究柄、牛の妊娠・出産が身近であることからご自身の妊娠・出産のロールモデルは牛だったという先生。実際は牛の世界だったら淘汰されていたであろう（川島先生談）様々な想定外が起こったそう。お子様のおかげで得たものは大きく、子育ての経験から新たな研究を始めるきっかけになったり、これからの子育て世代が働きやすい環境に改善していく側に立って変えていきたい、とお話いただいた。

第 11 回　「アーティストが北大で働く、ということ」（開催日：2020 年 12 月 3 日）
ゲ ス ト：北海道大学　高等教育推進機構　CoSTEP　特任助教
　　朴炫貞（パク　ヒョンジョン）氏
参加人数：約 20 名

11 ／ 30 ～ 12 ／ 4 に開催された異分野 meetup week2020 期間中の開催として、meetup week SPECIAL!! と題し、北海道大学札幌研究林にある温室（アノオンシツ※）から配信した。朴先生は " 造形 " で博士号を取得され、作品も作り研究もする。作品を創ることを専門とする学科のない大学でアーティストとして所属する「曖昧な人」という現在のアイデンティティが気に入っており、そこから見えてくる視点で問いを投げることは作品のメッセージにもなっているしダイバーシティにも繋がるのではないか、とお話いただいた。
※ " アノオンシツ " は朴先生のプロジェクト名。

意識改革セミナー（教職員向けセミナー、大学院生向けセミナー）

●名　　称　「多様性を強みとして生かすための知識＆スキル習得セミナー①　アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）との付き合い方を学ぼう」
●日　　付　2020 年 11 月 9 日
●対 象 者　KNIT 連携機関に所属する教職員（PD 含む）
●開催方法　オンライン（Zoom）
●参加者数　40 名
●講　　師　一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所
　　代表理事　守屋智敬　氏

活動内容・報告

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）では、組織におけるダイバーシティ推進の為、「多様性を強みとして生かすための知識＆スキル習得セミナー」と題したセミナーを 2 回に渡りオンラインにて開催した。

第 1 回目は「アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）との付き合い方を学ぼう」と題し、ダイバーシティを推進する上での障壁として様々な企業や組織で注目されている「アンコンシャス・バイアス」について、講師の守屋氏から学んでいった。

少人数のグループに分かれ、自分の体験や問題意識などについて話し合う時間も数回あり、特に「決めつけや押しつけはどんな時、どんな相手に対して出やすいか」というテーマでは、時間を

延長するほど議論が白熱したグループもあった。

参加者アンケートからは、「アンコンシャス・バイアスが自分にある」と意識するだけでも今後の行動に変化があるのではないかと思う、学生の研究指導対応で活用できそうなヒントがあった、少人数グループでの話し合いを普段から設けると自分自身のアンコンシャス・バイアスに気付けるのではないかと思った、等の意見が見られた。

●名　　称　「多様性を強みとして生かすための知識＆スキル習得セミナー②　ダイバーシティ時代のチームマネジメント～多様性のあるチームを率いるために～」
●日　　付　2020 年 12 月 21 日
●対 象 者　KNIT 連携機関に所属する教職員（PD 含む）
●開催方法　オンライン（Zoom）
●参加者数　12 名
●講　　師　株式会社クオリア代表取締役　荒金雅子　氏

活動内容・報告

本セミナーは「多様性を強みとして生かすための知識＆スキル習得セミナー」の第２回目として開催した。

第２回目となる本セミナーでは、ダイバーシティ推進からＤ＆Ｉ経営へと移行しつつある最新動向について理解を深めると共に、多様性を活かして成果をあげるリーダーに求められる姿勢や、コミュニケーションスキル等について学んだ。

Ｄ＆Ｉ経営の最新動向としては、諸外国から取り残される日本の現状を打破するために何が必要なのか、ダイバーシティの観点からレクチャーしていただいた。

また「チームとして成果を出すために必要なこと」として、チームをマネジメントする立場から多様なメンバーを支援するポイントや、アンコンシャス・バイアスを排除するチーム作りについて学んだ後、グループワークを通して参加者の意見を共有した。

参加者からは、何となく感じていたことの名称と定義を理解したことで、より意識できるようになった、肯定する事・小さな成功体験を感じさせることの重要性に気付いた、等の感想が聞かれた。

北海道大学の取組

兼務教員※会議

2020 年度は 2 回の兼務教員会議を開催した。

第 1 回は 2020 年 7 月 10 日、Zoom によるオンラインにて開催し、兼務教員 11 名とダイバーシティ研究環境推進室から 4 名、計 15 名が参加した。

冒頭、ダイバーシティ研究環境推進室の矢野室長より推進室の活動概要について説明した後、北海道大学のダイバーシティ宣言を企画している事について報告があり、宣言内容について兼務教員の先生方から様々な意見を伺った。

第 2 回は 2020 年 10 月 13 日と 10 月 15 日の 2 日間に渡り、Zoom によるオンラインにて数名ずつに分かれて開催した。

矢野室長より Ree-D の活動の進捗状況について報告した後、2020 年度異分野 meetup week2020 開催概要についての説明があった。その後兼務教員の先生方に異分野交流を必要としている分野や切り口についてヒアリングし、ポスター出展や広報面等での協力要請を行った。

※兼務教員：人材育成本部の取組について、兼務教員として参画する他学部に所属している教員。

2020 年度「研究活動とライフイベントの両立のための補助人材支援」

この支援は、北海道大学に所属する研究者が、出産・育児等のライフイベントと研究活動を両立し円滑に業務を遂行できるよう、当事者の業務や、当事者および周囲の教員の業務補助を行う人材に係わる支援である。

前　　期

●期　　間　2020 年 4 月 1 日～ 2020 年 9 月 30 日

●対 象 者　北海道大学に所属する教員及び博士研究員

●支援者数　25 名

支援内容内訳

産休・育休中の支援　4 名

育児中の支援　19 名

介護中の支援　2 名

後　　期

●期　　間　2020 年 10 月 1 日～ 2021 年 3 月 31 日

●対 象 者　北海道大学に所属する教員及び博士研究員

●支援者数　23 名

支援内容内訳

産休・育休による研究中断が伴う研究者への支援　　4 名

育児中またはその予定がある研究者への支援　　19 名

● 2020 年度前期「研究活動とライフイベントの両立のための補助人材支援」募集要項

2020年度前期

「研究活動とライフイベントの両立のための補助人材支援」募集要項

1. 2019年度後期からの主な変更点

・ 補助金支援プランを拡張支援枠へ呼称変更
・ 拡張支援枠（旧補助金支援プラン）の雇用期間制限を25週から21週に短縮

2. 概要

本支援は、北海道大学に所属する研究者が、出産・育児等のライフイベントと研究活動を両立し、円滑に業務を遂行できるよう、当事者あるいは当事者および周囲の教員の補助を行う人材に係る支援です。

なお、科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に本学が採択されたことに伴い支援内容を期間限定で一部拡張し、より一層のダイバーシティ研究環境推進を目指しています（2022年3月まで）。

3. 支援期間

2020年4月1日～2020年9月30日

4. 支援内容

上記目的のため「研究補助者の雇用経費助成」および「業務補助者派遣」を実施します。

5. 支援対象者

本学の教員（特任教員含む）及び博士研究員*等のうち、次のいずれかに該当する者を各プランの支援対象者（以下「対象者」という）とします。（カッコ内は支援上限額）

※「博士研究員」…「国立大学法人北海道大学博士研究員要項」に基づき採用された者を指す。
対象者が博士研究員等である場合やJSPS 等に所属する研究員で本学を拠点に研究活動を行っている場合は、個々の事案により支援対象となるかどうかを判断する。

産休育休への支援

○支援期間中に産前・産後・育児休暇による研究中断が伴う次のいずれかの研究者
・ 1か月以上研究中断する予定の女性（60万円）
・ 2か月以上研究中断する予定の男性（40万円）（出産養育休暇期間含む）
・ 拡張支援枠：現在育児中で、2020年4月1日時点で出産後1年が経過してない女性（60万円）※追加条件あり（7.「拡張支援の条件」参照）

育児中の支援

○支援期間中に小学1年生以下の子の育児を行う、またはその予定のある次のいずれかの研究者 (40万円もしくは「業務補助者派遣*」)
※上記対象者のうち、産前・産後休暇や育児休業等による不在期間がない研究者は、「業務補助者派遣」を選択することもできます。（週１日かつ週3時間の派遣）
・ 女性
・ 日常的に単身で育児を行っている男性
・ パートナーがフルタイムで勤務し、世帯内に本人とパートナー以外に育児を担うものがいない男性
・ 上記に当てはまらず、育児と研究活動との両立が困難と特別に認められる者

○拡張支援枠：小学3年生以下の子の育児を行っている次のいずれかの研究者（55万円）
※追加条件あり（7.「拡張支援の条件」参照）
・ 女性
・ 日常的に単身で育児を行っている男性
・ パートナーがフルタイムで勤務し、世帯内に本人とパートナー以外に育児を担うものがいない男性
・ 上記に当てはまらず、育児と研究活動との両立が困難と特別に認められる者

介護中の支援

○支援期間中に1か月以上の介護休暇を取得する、または日常的に家族の介護・看病で時間的制約が大きい女性、男性 (35万円)
＊自身の定期的な通院等、治療のための制約が大きい場合でも本プランが適用になる場合があります。ご相談下さい。

6. 通算支援期間の制限

支援のうち雇用経費助成については、支援対象要件に含まれる個別の未就学児または要介護者について、過去に通算6期（3年間）の支援を受けた者は申請できません。例外として、拡張支援枠については通算支援期間に含めず、通算期間制限に達した研究者も申請可能です。未就学児または要介護者が複数の場合、支援期間の通算はそれぞれ行います。

業務補助者派遣については、過去に受けた「業務補助者の派遣」支援において通算４期（２年間）の支援を受けた者は申請できません。通算は過去に遡って行います。

7. 拡張支援の条件

次の条件を全て満たす場合のみ「拡張支援」による申請を行うことができます。
- 雇用開始時に「採用発令」となること
- 本助成経費のみ使用して雇用すること
- 当該申請に係る半年間のうち２１週以上継続して支援員を雇用すること

8. 各支援の詳細

【1】研究補助者の雇用経費助成

支援内容

対象者等を補助する人材を雇用する際の人件費を一部補助します。本支援で研究補助者を雇用できる期間は、2020年4月1日～2020年9月30日のうち必要期間・必要時間とします。申請者の研究計画・研究補助者の雇用計画等に応じてプランを選択してください。雇用できる補助者は技術補助員、事務補助員とします（学術研究員の雇用を希望する場合はご相談ください）。

研究補助者が行うことができる業務
- 対象者本人の研究および事務の補助
- 出産・育児等により対象者の業務専念時間が短縮した場合、対象者の業務や研究の補助に加え、その影響を受ける周囲の教員*の事務補助

※「周囲の教員」…対象者が所属する研究室、講座、分野の教員

補助者の採用
- 補助者の選定は原則として対象者が行い、採用手続きは、所属部局にて行います。
- 本助成では、補助者の超過勤務人件費及び出張費は支出できません。
- 学生及び大学院生を補助者として雇用する場合は、対象者と部局事務の責任のもと、学業及び本人の研究活動に支障のないよう十分に配慮し、本支援業務と明確に切り分けてください。
- 派遣会社の利用も可能です。
- 人件費が助成額上限を超えた場合は他の財源から充当してください。
- 助成額上限(人件費)には、補助者雇用に係る人件費として保険料・通勤手当等が含まれます。

支援額についての注意
- 対象者が本学を退職する等、支援要件を満たさなくなった場合は、「支援決定額×（支援要件を満たす月数÷6）」を最終的な支援金額とします。
- 拡張支援枠での支援の場合、支援対象者が途中で本学を退職する等、支援要件を満たさなくなった場合は、要件を満たす期間内に発生する給与額が最終的な支援金額となります。
- 産後休暇中は就業禁止となっているため、補助者への業務指示は業務監督者が行ってください。
- 補助者が本支援により雇用されている時間内に「研究補助者が行うことができる業務」以外を行っていることが確認された場合は支援を中止するとともに、対象者が所属する部局からの申請受付を以後1年間停止します。
- 上限額はあくまで上限額です。真に必要な雇用時間数を見積もった上で適切な金額を申請してください。本支援には多くの申請があります。本支援事業継続のためにも適正利用にご協力お願いいたします。
- 拡張支援枠での支援の場合、支援対象者が途中で本学を退職する等、 支援要件を満たさなくなった場合は、要件を満たす期間内に発生する給与額が最終的な支援金額となります。

勤務日報及び報告書の提出

補助者は別に定める様式により毎月の勤務日報を作成し、対象者及び勤務時間管理担当者が押印の上、各月ごとに、勤務月の翌月15日までに女性研究者支援室までお送りください。

また、対象者は、支援期間終了後15日以内に、別に定める報告書により実施内容、本支援により得られた効果及びそれに伴い得られた成果等について、女性研究者支援室に報告してください。

【2】業務補助者派遣

対象者のもとに事務補助員を女性研究者支援室より週１日かつ週3時間を上限として派遣し、出産・育児等のライフイベント中の研究者や管理・運営等に従事する教員の業務の補助を行います。

補助者の採用
- 補助者は女性研究者支援室で採用し、基本的なトレーニングを行います。

補助者が行う業務
- 事務作業、研究補助業務のうち事務補助員の職務範囲のもの（データ整理等のデスクワーク）

その他
- 業務補助者の派遣は札幌キャンパスのみ実施します。

9. 申請手続

申請書（様式 1）を各部局担当で取りまとめの上、2020年2月13日（木）17時（厳守）までに女性研究者支援室に提出してください。

※パートナーが同一機関内に勤務している場合には、パートナーと合わせて1申請とします。双方で本支援を分割して利用したい場合にはご相談ください。

10. 審査・採択

（1）採択に係る審査は女性研究者支援室が行い、申請内容を総合的に判断し、採否ならびに採択の額を決定します。

（2）採否については、2月下旬頃、申請者ならびに所属部局事務担当者へ通知します。

（3）対象者の状況を鑑みた上で、両立プランの変更を提案する場合があります。

11. その他

（1）本支援に関わる書類ならびに各種書式（募集要項、申請書様式、勤務日報、報告書）は、女性研究者支援室のホームページよりダウンロードできます。

URL：https://freshu.ist.hokudai.ac.jp/work-life/kenkyuhojo/

（2）後日、希望者の状況や支援内容についてヒアリングを行う場合があります。

（3）支援を受けている期間中、女性研究者支援室主催のイベント（セミナー、交流会、講演会、シンポジウム等）へ積極的に参加してください。

（4）本支援は予算状況により募集期毎に支援の金額および内容が変更となります。

（5）拡張支援枠での支援は、科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の補助金にて行いますので、実績報告や額の確定調査の際に別途ご対応いただくことがあります。

ダイバーシティ研究環境推進に向けた部局等による取組支援プログラム

本プログラムは、本学に所属する教職員が、男女共同参画・ダイバーシティ推進について更なる理解を深める機会を増やすことを目的とし、本学構成員（教職員・学生等）を対象とした、学内で開催されるダイバーシティ研究環境推進あるいは男女共同参画推進に寄与するセミナー等の実施について支援するものである。2020 年度は 1 件の支援を行った。

●名　　称　ダイバーシティシンポジウム「仕事観が変わるかも？～産・学・フリー～」
●日　　時　10 月 21 日　17：00 ～ 19：00
　　11 月 13 日　17：00 ～ 18：00
●対 象 者　北海道大学の教員・大学院生・学生　札幌エリアの高校生（男女問わず）
●場　　所　北海道大学キャンパス内　オンライン：Zoom
●講 演 者　（講演順）
　　北海学園大学 経済学部 講師・博士（地域科学）牛久 静香 氏
　　ジャーナリスト／自動車および環境・戦略イノベーション・スペシャリスト（工学修士）川端 由美 氏
　　味の素㈱アミノサイエンス事業本部化成品部事業開発グループ グループ長・博士（工学）押村 英子 氏
●参加者数　24 名（オンライン参加を含む）
●実施主体名　大学院工学研究院材料科学部門

支援報告書より抜粋

3 名の女性にご講演を頂戴した。質疑応答は活発で、多くの質問が出た。例えば、ずっと働き続けようと思ったのはなぜか、自分が次のステップに進むときに決断の場面で何を考えたか、子育てとの両立について、各所属組織での対応についてなど。

講演会後もいずれも 40 分程度、参加者と講演者の交流がみられ、学生・院生諸君は、各組織での環境改善、共同参画促進についての取り組みについて大きく理解が進んだと思われる。また、アフリカでのフィールドワークの話では、多様な人々との関係の構築などについても学べた。

ハイブリッド方式にしたことにより、多くの人数の参加を得られたと同時に「雑談」ができたのも、今回はよかったと思う。

● 2020 年度ダイバーシティ研究環境推進に向けた部局等による取組支援プログラム募集要項

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2020 年度 ダイバーシティ研究環境推進に向けた部局等による取組支援プログラム 募集要項

本学は科学技術人材育成費補助事業（文部科学省）「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」(2019 年度～2024 年度)に採択され、全学的なダイバーシティ研究環境の推進とともに、それらを北海道全域へ普及・啓発する先導的な役割を担っています。

そこで、本学構成員が研究者のダイバーシティ推進について更なる理解を深めることを目的とし、下記の支援を実施いたします。

【概要】

本プログラムは、本学構成員（教職員・学生等）を対象とした、学内で開催されるダイバーシティ研究環境推進あるいは男女共同参画推進に寄与するセミナー等の実施について支援します。

【支援内容】

- 取組に必要な経費のうち、1 件あたり 30 万円を上限として支援します。
- コロナ感染症の拡大防止のため、ウェブセミナー（Webinar）による開催サポートを行っています。詳細はお問い合わせください。

【支援対象となるセミナー等について】

以下を満たす研修会、セミナー、シンポジウム、ワークショップが支援の対象となります。

- ダイバーシティ研究環境推進、あるいは本学の男女共同参画推進に寄与するセミナー等であること
- 複数の部局にまたがる取組あるいは全学に公開する取組を推奨しますが、単一の部局等構成員を対象とした取組も申請可とします
- セミナー等の対象（参加者）が本学の教職員、学生、研究員であること
- 20 名以上の参加者を見込む
- 実施主体は部局、学科、課室等、または研究会などのグループであること

【支援対象となる経費】

次の経費に限る

費目	
人件費	企画当日の運営を補助する短期支援員の人件費 ただし、短期支援員の募集や雇用手続きを各部局等で行う場合に限り支援対象とする
国内旅費	講師等※の国内旅費
外国人招聘旅費	講師等の海外招聘旅費
謝金	講師等への謝金
印刷費	取組の広報のためのポスター、チラシ、配布資料の印刷費
委託費	セミナー講師、会場設営、広報物デザイン、当日の参加者に対する一時保育サービス、あるいは女性研究者支援室が個別に認めた業務を外部委託する際の委託費
消耗品費	企画を実施する上で必要不可欠であり、参加者（受益者）が負担することが適当ではない消耗品 ただし、いかなる場合も飲食物は支援対象外

※講師等：シンポジウム、研究会の基調講演者あるいはセミナーまたはワークショップの主講師に限る

【その他の支援】

参加申し込みフォーム設置
シンポジウム等開催支援セットの貸出
大判プリンター出力

【申請方法】

所定の申請書をダイバーシティ研究環境推進室（reed@synfoster.hokudai.ac.jp）宛に提出
最終申請期限 2021 年 1 月 15 日

【支援件数】

3 件（ただし、採択金額が予算上限に達し次第募集を終了します）

【実施にあたっての義務】

- ダイバーシティ研究環境推進室を共催とする
- 広報物を作成する場合、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業の文言を入れる
- 2021 年 1 月 31 日までに開催する

【実施報告】

取組終了後 30 日以内に指定書式の実施報告書（収支報告含む）及び作成した広報物を提出してください。また、企画を実施した様子がわかる写真を数枚お送りいただきます。お送りいただく写真には、本事業のウェブサイトに掲載可能なものを少なくとも 1 枚含めてください。

【審査方法】

申請書に基づき、ダイバーシティ研究環境推進室にて審査を行い、支援金額を決定します。申請書の受理連絡後、3週間以内に採択可否を連絡します。

【その他】

ダイバーシティ（牽引型）事業の一環として、事業連携機関*へのリアルタイム配信へのご協力をお願いする場合があります。採択になった場合には別途調整させていただきます。配信に係る作業はダイバーシティ研究環境推進室スタッフが行います。

*連携機関：ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）の連携機関。2020 年度時点では室蘭工業大学、北見工業大学、帯広畜産大学、日東電工株式会社、株式会社アミノアップ

お問合せ先：
北海道大学人材育成本部
ダイバーシティ研究環境推進室
電話：011-706-3625
メール：reed@synfoster.hokudai.ac.jp

大学入学共通テスト時の一時保育支援

本支援は、育児中の教職員が大学入学共通テスト業務において休日出勤を行う場合の保育負担軽減を目的に、学内での一時保育を実施する。

●日　　時　2021 年 1 月 16 日～ 17 日　7：00 ～ 19：00
●対 象 者　センター試験当日業務に携わる北海道大学所属の教員･職員が養育する未就学児（生後 6 か月以上）
●保育場所　北海道大学中央キャンパス総合研究棟 1 号館会議室
●保 育 数　4 名（2 ～ 5 歳児）

活動内容・報告

前年度に引き続き、大学入学共通テスト業務に従事する教職員が養育する未就学児の、一時保育を実施した。保育士 4 名により、2 歳から 5 歳までののべ 4 名の保育を行った。

利用者からは、日曜日に対応していただき助かった、等の反応があった。

●大学入学共通テスト時の一時保育支援（試行）利用要項

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）
大学入学共通テスト時の一時保育支援（試行）
利用要項

人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室

本学は、文部科学省科学人材育成費補助金「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」により、ライフイベントと研究または業務の両立のための研究環境整備を進めております。

目的

育児中の教職員が大学入学共通テスト業務において休日出勤を行う場合の保育負担軽減を通じ、育児の有無に関わらず教職員が能力を発揮し活躍できる環境を整備する。

概要

大学入学共通テスト日に一時保育所を学内に開設し、無料で託児を行う。
第 1 日程　2021 年 1 月 16 日（土）、17 日（日）
第 2 日程　2021 年 1 月 30 日（土）、31 日（日）

利用対象

・大学入学共通テスト当日業務に携わる、本学の教員・職員が養育する未就学児（生後 6 か月以上）

利用料金

無料（ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）事業経費または大学経費にて負担）

保育時間

7 時 00 分～19 時 00 分（予定）のうち希望する時間

保育場所

中央キャンパス総合研究棟 1 号館　会議室、リフレッシュルーム　または　遠友学舎のうちいずれかを使用します。保育場所は保育人数により増減し、また保育場所を選ぶことはできません。
（函館キャンパスについては応相談）

申込方法

人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室　reed@synfoster.hokudai.ac.jp
宛てに、別紙申込書を送付してください。

申込締切

12 月 21 日（月）　13 時

保育について

・保育は、託児サービス専門業者より派遣されたシッターが行います。（日本語のみ対応）
・新型コロナウイルス感染症対策については託児業者により、こまめな手洗い・手指消毒、3 歳児以上のマスク着用、保育人数を通常より減らす、等の標準的な感染症対策を行いますが、感染可能性がゼロではないことを了承の上、ご利用ください。
・病児（疑）・病後児、当日体温 37.5 度以上の子どもの保育はできません。託児前の検温、体調確認をお願いします。
・保育にあたり、当日下記をご持参ください。
　＊ 食事・飲み物・おやつ等
　　必要に応じてお弁当をお預かりし、お食事の介助をいたします。
　　必要な場合は、哺乳瓶・ミルク（回数分小分けにして）をお持ちください。
　＊ 着替え一式（オムツ、洋服など）
　　お着替えは 1~2 組ご用意いただき、 トイレトレーニング中のお子様は下着を多めにご持参ください。
・お迎えの際、身分証明書（運転免許証・母子手帳・健康保険証等）を提示頂く場合があります。
・お子様のお荷物は，記名の上，ひとまとめにしてご持参下さい。

・アレルギー等がある場合は申込書に記載してください。
・当日朝は保護者の方が託児場所にお子さまをお連れください。
・委託業者にて団体加入している補償保険は傷害保険の為、保育中に新型コロナウイルス感染症に罹患した場合も補償の対象になりません。ご了承の上でお申し込みください。

当日、託児をお断りする状況について

当日、保護者あるいはお子さんが以下の状況にある場合は託児ができません。ご了承ください。

・託児前 2 週間以内に新型コロナウイルス感染症と診断された人及びその濃厚接触者と接触した
・当日、お子さんが 37.5 度以上の発熱や呼吸器症状（以下「発熱等」という）がある
・解熱後 24 時間以上経過しておらず、咳などの呼吸器症状、強いだるさ（機嫌の悪さ）が見られる
・当日、保護者、同居のご家族に 37.5 度以上の発熱等がある
・保護者、お子さんが海外より帰国後、2 週間経過していない

本取り組みの継続性について

この一時保育支援は 2021 年度まで継続して実施し、その利用実績等から次年度以降の制度設計を行います。

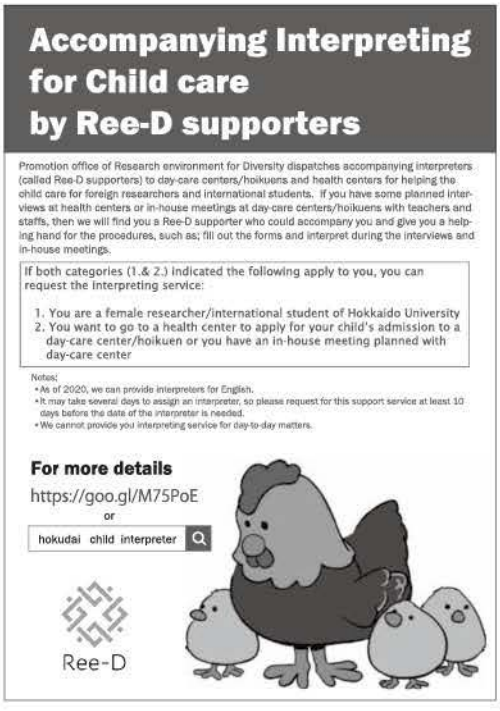
Ree-D サポーターによる保育のための同行通訳支援

本支援は、外国人研究者および留学生の育児支援のために、保育園や札幌市の保健センターに同行通訳者の派遣を行う。入園の手続きのために保健センターでの面談、または保育園での保護者面談などで、日本語での会話に不安があり、通訳サポートを必要とする人に、Ree-D サポーターが同行し、面談での通訳をする。

●対象者　北海道大学に所属する女性の研究者／留学生

活動内容・報告

2020 年度（2021 年 1 月末日現在）は 8 名の要支援者に対し、18 件の同行通訳を行った。同行先は保健センターや保育園等。



両立支援コンテンツの開始

ライフイベント等と研究活動の両立について、ニーズを踏まえて支援策を多様化するとともに、福利厚生に関する各種制度や学内の支援策、次世代育成に係わる情報をとりまとめ、Web コンテンツとして北海道大学人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室（Ree-D）の Web サイト内で継続的な発信を開始した。

復帰支援プログラム：投稿論文の英文校閲費助成

本支援では、産休・育休等により研究中断があった研究者の研究活動をサポートするために、学術雑誌投稿論文の英文校閲費用を助成する。なお、支援対象者の性別は問わない。2020 年度は 4 件の支援を行った。

●支援一覧

- 大学院医学研究院　助教　PLOS medicine に投稿
- 大学院水産科学研究院　学術研究員　Marine Ecology Progress Series に投稿
- 北海道大学病院　内科 1　医員　The Journal of Allergy and Clinical Immunology: In Practice に投稿
- 大学院文学研究院　准教授　Applied Animal Behaviour Science に投稿予定

● 2020 年度復帰支援プログラム：投稿論文の英文校閲費助成募集要項

文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2020 年度　復帰支援プログラム：投稿論文の英文校閲費助成　募集要項

【趣旨】
本支援は、文部科学省「ダイバーシティ研究実現イニシアティブ（牽引型）」（2019 年度～2024 年度）の一環として実施するものであり、補助金または大学経費により、産休・育休等により研究中断があった研究者の研究活動を支援するために、学術雑誌投稿論文の英文校閲費用を助成する事業です。なお、支援対象者の性別は問いません。

【支援対象となる投稿論文】
・自身が第一著者(first author)または責任著者(corresponding author)として発表する著作物であること
・支援決定の日から 2021 年 2 月 15 日までの間に英文校閲の納品検収が行われること
・投稿する雑誌が以下に該当すること
　1）査読が行われる英文の学術雑誌であること
　2）投稿規定や編集委員の情報が公開されていること
　3）論文、もしくは論文要旨を、Web 等を通じて世界の研究者が閲覧できること

【支援金額】
英文校閲に要する費用の範囲内で、上限 15 万円まで
・応募状況によっては、年度途中で応募を終了することがあります。
・他経費との合算での支払いはできません。

【申請資格】※以下すべてを満たすこと。
・北海道大学に所属する研究者（特任教員、本学と雇用関係のある研究員・医員、学振 PD・RPD・SPD を含む）
・申請日以前 3 年以内に、産休・育休・介護休による 30 日間以上の連続した研究中断が終了した者
・研究活動を職務に含んでいる者
・投稿誌での論文の採択が決定されるまでに本学に在籍する予定であること
・論文がオリジナルの学術論文であること（レビュー、本、会議発表のみを予定している論文は対象外）

【申請方法】
以下の書類を人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室（ reed@synfoster.hokudai.ac.jp ）宛てに提出願います。
① 英文校閲経費助成申請書
② 校閲経費の見積書（写し、1 社分のみで可）

【支援件数】
　5 件程度

【助成決定・結果通知について】
申請内容に基づき選考を行い、支援の可否を決定します。
申請書受理から 2 週間以内に、ダイバーシティ研究環境推進室から結果を通知します。

【決定後の手続き】
英文校閲の発注は申請者にて行い、発注に関するメールのやり取り等はダイバーシティ研究環境推進室に転送してください。ダイバーシティ研究環境推進室ではそれら取引証憑類と申請時に提出いただいた「校閲経費の見積書（写）」を基に支払い手続きを行います。
① 校閲経費の見積書（原本）
② 校閲経費の納品書（原本：納品検収センターの検印のあるもの）
③ 校閲経費の請求書
④ 英文校閲を受けた原稿（写）
※本支援を受けた論文は必ず申請書に記載した雑誌に投稿し、掲載された場合は別刷またはそれに相当するものを、掲載されなかった場合はその旨の通知文等をダイバーシティ研究環境推進室宛てに提出願います。

【備考】
・本支援を受けた方は、本事業において実施する他の研修やシンポジウム等に積極的にご参加ください。
・本支援を受けた場合、事業実績報告書に掲載するために研究業績（論文数や外部資金獲得件数等）を 2024 年度分まで年 1 回提出いただきます。

【注意事項】
・共著論文の場合は全共著者の了解を得てから申請してください。
・投稿予定学術誌が変更になる場合は、あらかじめ相談してください。
・申請後、事情により支援が不要となった場合は直ちに連絡してください。
・支援決定後、本学から異動する場合、その時点で支援終了とします。
・支援は 1 人 2 件以内/年度（ただし、2 件目の申請は 1 件目の掲載が受理されてから受け付けます）。

【問い合わせ先】
北海道大学人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室
e-mail：reed@synfoster.hokudai.ac.jp　内線：3625

室蘭工業大学の取組

ライフイベント期の研究者への研究支援員配置

2020 年度は、前年度同様育児や介護を行っている女性教員 4 名に対して支援を行った。

●令和 2 年度「ライフイベント期（妊娠・育児・介護等）の研究者支援」募集要項

令和２年度「ライフイベント期（妊娠・育児・介護等）の研究者支援」募集要項

１．目的
本学における教員及び博士研究員がライフイベント期（妊娠・育児・介護等）と研究活動を両立することができるよう、支援員の雇用に係る経費の助成を行う。

２．応募資格
本学の教員及び博士研究員のうち、妊娠・育児（小学校6年生以下）又は介護等にあたっている者。要介護等ではないパートナーと同居している場合は、原則としてパートナーの勤務時間が週35時間以上であること。

３．助成内容
対象者に対し、支援員を雇用する経費を助成します。雇用できる期間は、令和２年４月上旬から令和３年３月３１日までの間の必要期間・必要時間とします。また、雇用できる支援員は学術研究員、技術補佐員又は事務補佐員としますが、必要であれば臨時補助員や派遣会社の利用も可能です。詳しくは男女共同参画推進室までご相談ください。

４．申請手続
申請書「ライフイベント期（妊娠・育児・介護等）の研究者支援」に記載し、男女共同参画推進室に提出してください。

５．採択
多数の応募があった場合には、対象者の職位や必要状況等を加味した上で、男女共同参画推進室で総合的に審査の上、採否を決定します。

６．支援員の採用
支援員の選定にあたっては男女共同参画推進室から情報提供できる場合もありますが，原則として申請者が行うこととします。

７．報告書の提出
本支援を受けた研究者には，報告会の参加と報告書の提出をお願いすることがあります。

８．問い合わせ先
室蘭工業大学男女共同参画推進室（総務広報課労務管理係：内線5018）
E-mail：ufj@mmm.muroran-it.ac.jp

ニュースレター「ダイバーシティ通信」発行

2020 年度は第 12 号、第 13 号を発行した。本年度から女子高校生に本学の教育・研究をより具体的に知ってもらうことを通じて女性研究者の裾野拡大を図ることを目的として、本学女子学生へのインタビュー記事の掲載を開始した。

・ダイバーシティ通信第 12 号（2020 年 11 月発行）

第12号 2020年11月

ダイバーシティ通信

新企画！ 女子学生インタビュー

理工系というと男子が多いイメージかと思いますが、キラリと輝く女子学生も沢山います！理工系大学に進学した理由や室蘭工業大学で学んでいることなどについてインタビューした内容をご紹介します。「理工系って面白そう！」、「私もやってみたい」と感じる中高生が一人でも増えることを期待しています。

ドラえもんをつくりたい！

小学校2年生の時、アニメのドラえもんにはまりました。「ドラえもんがほしい！」ーそう言うわたしに母が、「それじゃあ自分で作ればいいじゃない。」と言ってくれました。それ以来、それがわたしの夢となりました。ただ、中学生ぐらいになると、さすがに「ドラえもんをつくりたい。」というのは気恥ずかしくなり、いつしか「人の役に立つロボットをつくりたい！」と軌道修正しました。でもロボットをつくるという子どものころの夢はずっと変わりません。

ネコ型ロボットから クモ型ロボットへ、そして

ロボットをつくるには機械の勉強が必要ということで、進学先に室蘭工業大学の機械航空創造系学科を選びました。今は、インフラの点検をするロボットを考え、試作をくりかえしています。管の中を進むことができて、同時に壁を登ることができる、クモのような脚の生えたロボットをつくりたいのです。ネコ型（二足歩行）からクモ型（多足歩行）へと、わたしの夢のロボットは発展してきました。そして先日、試作機の6脚のうち2脚が動いたんです！将来はやっぱりロボットをつくる仕事がしたいです。いつか、みんなに「すごいな！」と思ってもらえるものをつくりたいですね。

女子が少ない…でも楽しい

室蘭工業大学の第一印象は「女子が少ない！」ということでした。でも女子寮に入ったので2週間で環境に慣れました。いろいろな人や情報が集まってきて、楽しいですよ。女子が多い少ないということよりも、やりたいことに取り組める環境があることの方が大事だと思います。

学士修士一貫教育プログラムのよさ

わたしは「6年一貫教育プログラム」（現「学士修士一貫教育プログラム」）で学んでいます。これは進学の時に自分で決めました。わりと自由にさせてもらえるところがよいと実感しています。わたしの場合、3年生の時点で6脚ロボットの構想ができて、そのあとの6か月間、それについて調べたり考えたりする時間を与えてもらえました。また、そのころすでに大学院の先輩たちからいろいろな話をきくことができました。このプログラムは、わたしのように目標がはっきりしている人には、とてもよいしくみだと思います。

機械航空創造系学科
機械システム工学コース4年生
松浦 亜美さん

いつか、みんなに「すごいな！」と思ってもらえるものをつくりたい

土木はスケールが大きく、「これは自分がつくったんだよ。」といえるのが魅力

「縁の下の力持ち」

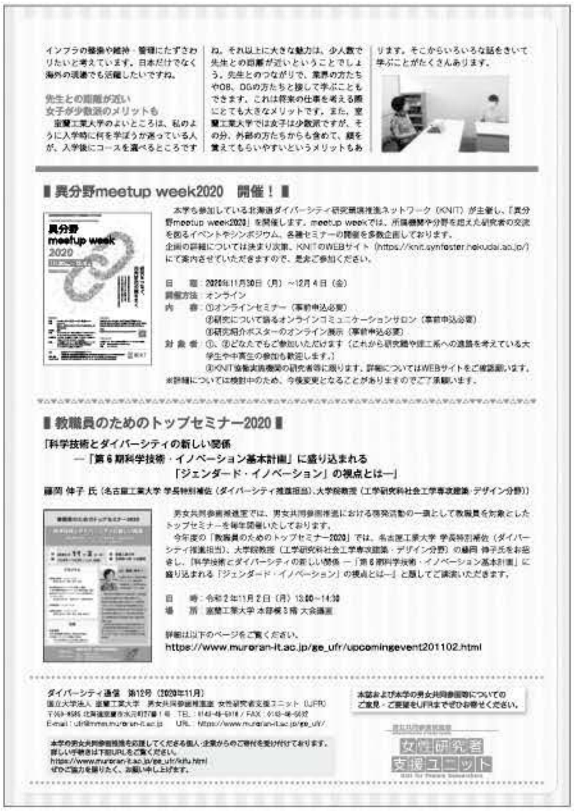
大学に入学したときには、どちらかというと建築学を学びたいと思っていました。高校1年生のとき、いろいろな業界の話をきく機会があって、意匠設計事務所の話を聞いて以来、建築の仕事に憧れていたんです。でも入学して授業を受けていくうちに、土木に惹かれていきました。それまであまりきれいなイメージがなかった土木でしたが、社会の「縁の下の力持ち」的なところに魅力を感じました。また土木を学んだことによって、旅行先でさまざまな構造物を見た際に、まったく違ってみえてくるようになりました。土木は何といってもスケールが大きく、「これは自分がつくったんだよ。」といえる魅力がありますね。

災害対策・インフラ管理で海外にも

今は、コンクリートの梁や落石防護柵などの構造体に重りをぶつけて衝撃を与える実験をして、その結果と事前シミュレーションの異同をコンピュータで調べる研究をしています。あたりまえのことを疑い、あたりまえのことを保証することにつながる研究だと思います。それに、実験にはみんなで分担して作業して、みんなでまとめていくおもしろさもあります。将来は大学院で学んだあと建設コンサルタントの職に就き、自然災害に強い

建築社会基盤系学科
土木工学コース4年生
竹内 観月さん

裏面へ続く



インフラの整備や維持・管理にたずさわりたいと考えています。日本だけでなく海外の現場でも活躍したいですね。

先生との距離が近い
女子が少数派のメリットも

室蘭工業大学のよいところは、私のように入学時に何を学ぼうか迷っている人が、入学後にコースを選べるところですね。それ以上に大きな魅力は、少人数で先生との距離が近いということでしょう。先生とのつながりで、業界の方たちやOB、OGの方たちと接して学ぶこともできます。これは将来の仕事を考える際にとても大きなメリットです。また、室蘭工業大学では女子は少数派ですが、その分、外部の方たちからも含めて、顔を覚えてもらいやすいというメリットもあります。そこからいろいろな話をきいて学ぶことがたくさんあります。

■異分野meetup week2020 開催！■

本学も参加している北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）が主催し、「異分野meetup week2020」を開催します。meetup weekでは、所属機関や分野を超えた研究者の交流を図るイベントやシンポジウム、各種セミナーの開催を多数企画しております。
企画の詳細については決まり次第、KNITのWEBサイト（https://knit.synfoster.hokudai.ac.jp/）にて案内させていただきますので、是非ご参加ください。

日　程：2020年11月30日（月）～12月4日（金）
開催方法：オンライン
内　容：①オンラインセミナー（事前申込必要）
②研究について語るオンラインコミュニケーションサロン（事前申込必要）
③研究紹介ポスターのオンライン展示（事前申込必要）
対象者：①、②どなたでもご参加いただけます（これから研究職や理工系への進路を考えている大学生や中高生の参加も歓迎します。）
③KNIT協働実施機関の研究者等に限ります。詳細についてはWEBサイトをご確認願います。
※詳細については検討中のため、今後変更となることがありますのでご了承願います。

■教職員のためのトップセミナー2020■

「科学技術とダイバーシティの新しい関係
—「第6期科学技術・イノベーション基本計画」に盛り込まれる
「ジェンダード・イノベーション」の視点とは—」

藤岡 伸子 氏（名古屋工業大学 学長特別補佐（ダイバーシティ推進担当）、大学院教授（工学研究科社会工学専攻建築・デザイン分野））

男女共同参画推進室では、男女共同参画推進における啓発活動の一環として教職員を対象としたトップセミナーを毎年開催いたしております。
今年度の「教職員のためのトップセミナー2020」では、名古屋工業大学 学長特別補佐（ダイバーシティ推進担当）、大学院教授（工学研究科社会工学専攻建築・デザイン分野）の藤岡 伸子氏をお招きし、「科学技術とダイバーシティの新しい関係 —「第6期科学技術・イノベーション基本計画」に盛り込まれる「ジェンダード・イノベーション」の視点とは—」と題してご講演いただきます。

日　時：令和2年11月2日（月）13:00～14:30
場　所：室蘭工業大学 本部棟3階 大会議室

詳細は以下のページをご覧ください。
https://www.muroran-it.ac.jp/ge_ufr/upcomingevent201102.html

ダイバーシティ通信　第12号（2020年11月）
国立大学法人 室蘭工業大学　男女共同参画推進室 女性研究者支援ユニット（UFR）
〒050-8585 北海道室蘭市水元町27番1号　TEL：[illegible] / FAX：[illegible]
E-mail：ufr@mmm.muroran-it.ac.jp　URL：https://www.muroran-it.ac.jp/ge_ufr/

本学の男女共同参画推進を応援してくださる個人・企業からのご寄付を受け付けております。
詳しい手続きは下記URLをご覧ください。
https://www.muroran-it.ac.jp/ge_ufr/kifu.html
ぜひご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

本誌および本学の男女共同参画等についてのご意見・ご要望をUFRまでぜひお寄せください。

女性研究者支援ユニット

・ダイバーシティ通信第 13 号（2021 年 3 月発行予定）

帯広畜産大学の取組

セミナー開催

●名　　称　令和 2 年度男女共同参画講演会　オンラインセミナー「畜大型子育てサポート制度」
●日　　時　2020 年 12 月 2 日　13：30 ～ 14：30
●対 象 者　帯広畜産大学教職員および KNIT 連携機関の事前登録者
●場　　所　帯広畜産大学総合研究棟 1 号館 E2503 会議室より zoom 配信
●参加者数　45 名
●講　　師　上川昭博　氏（帯広畜産大学・獣医学研究部門　准教授）
　　中馬いづみ　氏（帯広畜産大学・人間科学研究部門　准教授）
●実施主体名　帯広畜産大学男女共同参画推進室

活動内容・報告

毎年実施している帯広畜産大学男女共同参画推進室セミナーを 2020 度は meetup week に合わせて開催した。今回は、畜大のサポート制度の中の一つ、「研究支援員制度」を利用されている 2 名の先生に研究内容やご家族のことを含めてご講演頂いた。上川先生は、研究の遂行には妊娠マウスを維持することが必要不可欠で、研究支援員にその管理をしてもらい、研究がスムーズに行えるようになった一方で、研究者としてライフを優先してしまうことへの不安や、ワークを優先して家族に申し訳ない気持ちが芽生えるという葛藤についてお話しいただいた。中馬先生は、同じく子育て世代の研究支援員に研究だけでなく精神的にも支えられていることや、本学着任のためにご家族が離れ離れになり、お子さんと 2 人で来られたこと、その時のサポート制度の不十分さを踏まえ、今後大学が取り組むべき方向性について語られた。本講演は本学のサポート制度の周知や改善のきっかけとなった。

研究支援員制度

本支援は、妊娠・育児中の教員を対象に公募を行い、研究の計画的遂行のため、研究支援員による一時的な業務支援を実施し、ワークライフバランスの向上に寄与する支援制度である。

●対 象 者　帯広畜産大学のライフイベント期にある教員（女性教員優先）

実施内容・報告

2020 年度は男性教員 6 名、女性教員 2 名、延べ 2077 時間（令和 2 年 12 月現在）の支援を実施した。

在宅勤務制度

●対 象 者　帯広畜産大学の以下に該当する教職員

実施内容・報告

本学教職員の新たな働き方の実現の一環として、また、新型コロナウイルス感染症拡大防止等に資するため、在宅勤務制度の整備に着手した。本制度は妊娠、育児又は介護等と仕事の両立（ワークライフバランス）のため、在宅勤務を希望する教職員も対象とする。

北見工業大学の取組

ダイバーシティ推進に関する講演会

学内の意識改革を図ることを目的とし、ダイバーシティ推進や男女共同参画推進に係るFD講演会を実施した。

●日　　時　2020年8月28日　10：30～12：00
●対 象 者　北見工業大学所属教職員、等
●場　　所　オンライン：Webex
●参加者数　105名
●講　　師　森　勇介　氏（大阪大学大学院工学研究科　教授）
●実施主体名　北見工業大学ダイバーシティ推進室

活動内容・報告

昨年度に続き、第2回目となる講演会をオンラインで開催した。講師の森勇介氏は、窒化物半導体結晶育成技術を基にベンチャー企業も複数立ち上げる等の活躍に加え、心理学的アプローチによるプロジェクト活性化について多数講演している。本講演会においては、自身のトラウマをPOMR法というカウンセリングによって解消した経験に基づいて、所属機関の教員・研究者・学生に対してもカウンセリングを導入した結果、心理的な壁を突破し、活躍している研究者の例が紹介された。質疑応答では、自分自身でトラウマを取り除くことができるのか、教員として学生にトラウマを与えないためにはどうすればよいか、等の質問が寄せられた。また、アンケート結果から、カウンセリングの効果に対する関心の高さが伺え、今後も関連テーマでの講演が望ましいと思われた。

日東電工株式会社の取組

従業員エンゲージメントサーベイ「Seeds」

●日　　時　　2020 年度
●対 象 者　　国内主要 Nitto グループの従業員
●活動内容・報告

2019 年度に実施したエンゲージメントサーベイ「Seeds」を受け、各執行体、各事業所でエンゲージメント向上に向け、くるま座（小集団議論）を行い、施策を検討した。

2021 年度には、海外グループ会社を含む Nitto グループ全体を対象に調査を予定しており、以後隔年で実施していく。

働き方改革（育児休業、在宅勤務）

●日　　時　　2020 年度
●活動内容・報告

働き方改革の観点では、コロナ禍の影響や、今後、在宅勤務を中心とした働き方など、新たな制度への展開を見据え、トライアルを実施した。2021 年度以降の制度導入に向け、労使間で協議を進めている。

また、2020 年 4 月からは、男性の育児休業取得の向上を図ることを目的に 5 日間の有給の育児休業を新設した。男性社員を含め、育児休業取得率 100%を目指し、育児を夫婦で取り組むことで女性活躍の更なる環境整備を行った。

Ⅱ-2-3　研究力向上・リーダー育成のための取組

連携機関全体の取組

2020 年度 KNIT 共同研究助成

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークでは、女性研究者の研究力の向上やリーダースキルの強化、北海道の研究ネットワークの拡大を目的として、連携機関関係者と優れた共同研究を行う計画（KNIT 共同研究）を持つ女性研究者を代表と、その研究課題に参加するメンバーに対して研究費助成を行った。

●**実施機関**　北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク
●**公募期間**　2020 年 4 月上旬※～ 5 月 18 日　正午

〈2020 年度 KNIT 共同研究助成採択結果〉
応　　募：13 件　採択：13 件
採択決定：2020 年 6 月 25 日　KNIT 推進会議（メール審議）にて議決
　　助成対象、助成金額等詳細は別掲募集要項を参照。
※連携機関ごと募集要項を作成・公開のため公募開始時期は各機関により異なる。

KNIT web サイトでの告知

募集ポスター（北海道大学版）

2020 年度　KNIT 共同研究審査結果一覧

研　究　課　題	研究代表者	共同研究者
糸状菌を用いた化学的および生物工学的なスクアレン高産生システムの構築	崎浜　靖子　講師 北海道大学大学院農学研究院	山下　慎司　帯広畜産大学
コルチゾールが卵巣機能に与える影響～糖脂質組成の変化に注目して	小林　純子　講師 北海道大学大学院医学研究院	手塚　雅文　帯広畜産大学 比能　洋　北海道大学 工藤　正尊　北海道大学
知識と実践を融合する保健師教育 e ラーニングシステムの開発	平野　美千代　准教授 北海道大学大学院保健科学研究院	須藤　秀紹　室蘭工業大学 大西　竜太　北海道大学
外国人材育成に向けて大学の日本語教育は何ができるか―「日本語教育推進法」の成立を受けて―	鄭　惠先　教授 北海道大学高等教育推進機構	山路　奈保子　室蘭工業大学
ベトナムにおける農業保険の導入と農家所得安定への寄与	齋藤　陽子　講師 北海道大学大学院農学研究院	窪田　さと子　帯広畜産大学
授乳期の高脂肪食給餌が母乳成分と仔の脂肪組織幹細胞に与える影響の解明	岡松　優子　准教授 北海道大学大学院獣医学研究院	上川　昭博　帯広畜産大学
感染モデルを用いた免疫難病の発症・増悪に関わるメカニズムの解明	外丸　詩野　准教授 北海道大学大学院医学研究院	武田　洋平　帯広畜産大学 福井　理　北海道大学
親と子どもを対象としたヘルスリテラシーの向上と科学コミュニケーションシステムの構築	寺岡　友里　学術研究員 北海道大学 環境健康科学研究教育センター	須藤　秀紹　室蘭工業大学 高原　まどか　室蘭工業大学 宮下　ちひろ　北海道大学 山﨑　圭子　北海道大学
発信型と表現型を融合した科学技術コミュニケーションの試み～ 2020 札幌国際芸術祭との関連展示で考える地球温暖化～	朴　炫貞　特任助教 北海道大学高等教育推進機構	舘山　一孝　北見工業大学
母子同品種のホルスタイン種、黒毛和種および短角種における分娩直後の母牛および産子の血液性状の差異	川島　千帆　准教授 帯広畜産大学 畜産フィールド科学センター	河合　正人　北海道大学 草場　信之　帯広畜産大学
ヘムタンパク質におけるポケット形状とヘムの歪みの相関解析に対する畳み込みニューラルネットワークの最適化	近藤　寛子　助教 北見工業大学工学部 地域未来デザイン工学科	飯塚　博幸　北海道大学 舛本　現　理化学研究所
ナノ構造酸化ニッケル薄膜の電気化学的耐久性の向上による高機能化	金　敬鎬　准教授 北見工業大学工学部 地球環境工学科	藤井　翔　北海道大学
シアル酸転移酵素の阻害作用を有する化合物の合成研究	庭山　聡美　教授 室蘭工業大学しくみ解明系領域	比能　洋　北海道大学

● 2020 年度　KNIT 共同研究助成　募集要項【北海道大学】

【北海道大学】

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2020 年度　KNIT 共同研究助成　募集要項

【趣旨】

科学技術人材育成費補助事業（文部科学省）「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」（2019 年度～2024 年度）の一環として、北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）の連携機関である北海道大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社における女性研究者の研究力の向上やリーダースキルの強化、また北海道の研究ネットワークの拡大を目的とし、連携機関研究者と優れた共同研究を行う計画（KNIT 共同研究）を持つ本学の女性の研究代表者に対して研究費助成を行います。

【応募要件】

・本学に所属する女性研究者（特任教員、博士研究員を含む）が研究代表者となり、他の連携機関に所属する研究者が共同研究者として 1 人以上参画する共同研究であること。
・共同研究者の性別は問わないが、女性研究者を含むことが望ましい。
・研究代表者が他の KNIT 共同研究の共同研究者になることを妨げない。
・共同研究者の職位は問わず、博士研究員等※を含めることができる。共同研究者に連携機関以外の研究者を含めることもできる。
・同じテーマで他の研究費助成を受けていないこと。
・一人の研究者が研究代表となることができる KNIT 共同研究は 1 件に限る。

※博士研究員、教育研究職の短時間勤務職員、日本学術振興会の各種 PD、専門研究員

【研究助成の額】

A. 研究代表者である本学の女性研究者に対し 1 件あたり最大 100 万円
B. KNIT 共同研究にて研究代表以外の共同研究者として参画する本学研究者 1 人あたり最大 20 万円（他の連携機関所属研究者が研究代表となる場合も含むが、当該共同研究の参画者に本学女性研究者を含む場合に限る）

・共同研究 1 件あたり、本学において上記 A+B が 100 万円を超えないこと
・1 人が複数の KNIT 共同研究の共同研究者となることは妨げず、B の上限額は共同研究毎に適用される。ただし、その実行妥当性については審査時に考慮される。
・助成金執行期間は、採択決定後から 2020 年度 2 月末までとする。
・他の連携機関所属研究者に対する助成については機関毎に定める。

【助成対象研究経費】

設備備品費（50 万円以上の購入経費）、消耗品費、旅費（当該研究成果の発表に係る学会参加、当該研究に係る打合せ等、但し外国旅費は不可。）、その他必要な経費（諸謝金、通信運搬費、借損料、雑役務費）

上記対象経費に含まれる場合でも他機関所属の共同研究者に対する支出はできない。

【申請方法】

・研究代表者は、所定の申請書をダイバーシティ研究環境推進室宛に電子メールにて提出する。
・連携機関に所属する共同研究者は、研究代表者が提出した申請書のコピーを、共同研究者の所属機関の KNIT 事業担当部署宛に電子メールにて提出する。

申請期限　2020 年 5 月 18 日（月）正午

【選考について】

・北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク審査委員会により選考し、助成額を決定する。
・選考は、本支援の趣旨の適合性、発展性等の観点から行う。

【結果通知】

2020 年 6 月上旬予定。申請者すべてに通知します。

【その他】

・採択された場合、本事業において実施する研修やシンポジウム等に、積極的に参加すること。
・研究代表者は当該年度の実施期間終了後に、指定様式の実施報告書（収支報告含む）をダイバーシティ研究環境推進室に提出すること。
・採択された申請については、研究タイトルと申請者所属、共同研究者所属名がダイバーシティ研究環境推進室の発行物等に掲載される。その他の事項については申請者の許可を得た上で掲載されることがある。

申請書等の提出先・お問合せ先：
北海道大学人材育成本部　ダイバーシティ研究環境推進室
電話：011-706-3625
メール：reed@synfoster.hokudai.ac.jp

● 2020 年度　KNIT 共同研究助成　募集要項【室蘭工業大学】

【室蘭工業大学】

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2020 年度　KNIT 共同研究助成　募集要項

【趣旨】

科学技術人材育成費補助事業（文部科学省）「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」（2019年度～2024年度）の一環として、北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）の連携機関である北海道大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社における女性研究者の研究力の向上やリーダースキルの強化、また北海道の研究ネットワークの拡大を目的とし、連携機関研究者と優れた共同研究を行う計画（KNIT 共同研究）を持つ本学の女性研究代表者及び共同研究者に対して研究費助成を行う。

【助成対象】

A. 研究代表者に対する助成
本学に所属する女性研究者（特任教員、博士研究員を含む。）が研究代表者となり、他の連携機関に所属する研究者が共同研究者として1人以上参画する共同研究について、研究代表者に対する助成を行う。
B. 共同研究者に対する助成
KNIT連携機関（本学を含む。）に所属する女性研究者が研究代表者（特任教員、博士研究員を含む。）となり、研究代表者と異なるKNIT連携機関に所属する研究者が共同研究者として1人以上参画する共同研究について、本学に所属する共同研究者（性別問わない。特任教員、博士研究員を含む。）に対する助成を行う。

【応募要件】

1）A、Bいずれも、研究代表者は2020年3月4日開催「研究交流会『超異分野meetup』」に参加申し込みした者に限る。
2）KNIT共同研究の研究代表者及び共同研究者は、他のKNIT共同研究の共同研究者となることができる。ただし、複数のKNIT共同研究の研究代表者となることはできない。
3）共同研究者にKNIT連携機関以外の研究者を含めることができる。
4）研究助成の目的上、申請日時点において同一の研究者メンバーや同一のテーマにより、他の補助金等を受けていないこと。

【助成額】

A. 上限100万円
B. 上限20万円

【助成金執行期間】

採択決定後から2020年度末まで

【助成対象研究経費】

設備備品費（50 万円以上の購入経費）消耗品費、国内旅費（当該研究成果の発表に係る学会参加、当該研究に係る打合せ等、但し外国旅費は助成対象とならない。）その他必要な経費（諸謝金、通信運搬費、借損料、雑役務費）

上記対象経費に含まれる場合であっても他機関所属の共同研究者に対する支出はできない。

【申請方法】

・研究代表者は、所定の申請書を男女共同参画推進室宛にリシコム又は電子メールにて提出する。
・他機関に所属する研究代表者の共同研究に共同研究者として参画する本学の研究者は、研究代表者が提出したものと同じ共同研究申請書を男女共同参画推進室に提出する。

申請期限：2020 年 5月18 日

【選考について】

・北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク審査委員会により選考し、助成額を決定する。
・選考は、本支援の趣旨の適合性、発展性等の観点から行う。

【結果通知】

2020 年6月上旬予定。申請者すべてに通知する。

【その他】

・採択された場合、本事業において実施する研修やシンポジウム等に、積極的に参加すること。
・研究代表者は当該年度の実施期間終了後に、指定様式の実施報告書（収支報告含む）を男女共同参画推進室に提出すること。
・採択された申請については、研究タイトルと申請者所属、共同研究者所属名が本学及び共同実施機関の発行物等に掲載される。その他の事項については申請者の許可を得た上で掲載されることがある。

＜申請書等の提出先・問い合わせ先＞
室蘭工業大学男女共同参画推進室
電　話：0143-46-5018
メール：ufr@mmm.muroran-it.ac.jp

● 2020 年度　KNIT 共同研究助成　募集要項【帯広畜産大学】

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」
2020 年度 KNIT 共同研究助成【帯広畜産大学】
募集要項

【趣旨】
科学技術人材育成費補助事業（文部科学省）「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」（2019 年度～2024 年度）の一環として、北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）の連携機関である北海道大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社における女性研究者の研究力の向上やリーダースキルの強化、また北海道の研究ネットワークの拡大を目的とし、連携機関研究者と優れた共同研究を行う計画（KNIT 共同研究）を持つ本学の女性の研究代表者及び共同研究者（性別不問）に対して研究費助成を行うものとします。

【応募要件】
- 本学に所属する女性研究者（特任教員、特任獣医師を含む）が研究代表者となり、他の連携機関に所属する研究者が共同研究者として 1 人以上参画する共同研究であること。
- 共同研究者の性別は問いません。
- 共同研究者の職位は問わず、博士研究員等を含めることができます。
- 他の助成金を受けていない研究に限ります。

【研究助成の額】
A. 研究代表者である本学の女性研究者に上限 40 万円
B. 共同研究者である本学の研究者に上限 20 万円
※助成金執行期間は、採択決定後から 2020 年度末までとします。
※他の連携機関所属研究者に対する助成については機関毎に定めます。

【助成対象研究経費】
消耗品費、旅費（当該研究成果の発表に係る学会参加、当該研究に係る打合せ等、但し外国旅費は不可。）、その他必要な経費（諸謝金、通信運搬費、借損料、雑役務費）。
※上記対象経費に含まれる場合でも他機関所属の共同研究者に対する支出はできません。

【申請方法】
- 研究代表者は、所定の申請書を総務課人事・労務係（zinzi@obihiro.ac.jp）に電子メールにて提出してください。
- 他機関に所属する研究代表者の共同研究に共同研究者として参画する場合は、研究代表者が提出したものと同じ共同研究申請書を総務課人事・労務係に提出してください。
- 申請期限は 2020 年 5 月 15 日（金）とします。

【選考について】
- 北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク審査委員会により選考し、助成額を決定します。
- 選考は、本支援の趣旨の適合性、発展性等の観点から行います。

【結果通知】
2020 年 6 月上旬予定。申請者すべてに通知します。
※採択された研究課題は男女共同参画推進室から産学連携センターへ連絡します。
必要に応じて共同研究に対する学内手続きを行ってください。

【その他】
- 採択された場合、本事業において実施する研修やシンポジウム等に、積極的に参加してください。
- 研究代表者は当該年度の実施期間終了後に、指定様式の実施報告書（収支報告含む）を総務課人事・労務係（zinzi@obihiro.ac.jp）に電子メールにて提出してください。
- 採択された課題については、研究タイトルと申請者所属、共同研究者所属名が本事業の発行物等に掲載されます。その他の事項については申請者の許可を得た上で掲載されることがあります。

【申請書等の提出先・お問合せ先】
総務課人事・労務係　生田
メール；zinzi@obihiro.ac.jp
内　線；5221

● 2020 年度　KNIT 共同研究助成　募集要項【北見工業大学】

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」
2020年度 KNIT共同研究助成【北見工業大学】
募集要項

【趣旨】
科学技術人材育成費補助事業（文部科学省）「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」（2019年度～2024年度）の一環として、北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）の連携機関である北海道大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社における女性研究者の研究力の向上やリーダースキルの強化、また北海道の研究ネットワークの拡大を目的とし、連携機関研究者と優れた共同研究（KNIT共同研究）を行う計画を持つ本学の女性の研究代表者及び共同研究者に対して研究費助成を行います。

【応募要件】
・本学に所属する女性研究者（特任教員及び研究員等を含む）が研究代表者となり、他の連携機関に所属する研究者が共同研究者として1人以上参画する共同研究であること。
・共同研究者の性別は問わないが、女性研究者を含むことが望ましい。
・研究代表者が他のKNIT共同研究の共同研究者になることを妨げない。ただし、複数のKNIT共同研究の研究代表者となることはできない。
・共同研究者の職位は問わず、特任教員及び研究員等を含めることができる。共同研究者に連携機関以外の研究者を含めることもできる。
・同じテーマで他の研究費助成を受けていないこと。

【研究助成の額】
A. 研究代表者である本学の女性研究者に上限150万円
B. KNIT共同研究にて共同研究者となる本学研究者1人あたり上限20万円（他の連携機関所属研究者が研究代表となる場合も含む。）

・助成金執行期間は、採択決定後から2020年度末までとする。
・他の連携機関所属研究者に対する助成については機関毎に定める。

【助成対象研究経費】
設備備品費（50万円以上の購入経費）、消耗品費、旅費（当該研究成果の発表に係る学会参加、当該研究に係る打合せ等、但し外国旅費は不可。）、その他必要な経費（諸謝金、通信運搬費、借損料、雑役務費）
上記対象経費に含まれる場合でも他機関所属の共同研究者に対する支出はできない。

【申請方法】
・研究代表者は、所定の申請書を総務課人事担当宛に電子メールにて提出する。
・他機関に所属する研究代表者の共同研究に共同研究者として参画する本学の研究者は、研究代表者が提出したものと同じ共同研究申請書を総務課人事担当宛に提出する。
・最終申請期限 2020年5月13日

【選考について】
・北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク審査委員会により選考し、助成額を決定する。
・選考は、本支援の趣旨の適合性、発展性等の観点から行う。

【結果通知】
2020年6月上旬予定。申請者すべてに通知する。

【その他】
・採択された場合、本事業において実施する研修やシンポジウム等に、積極的に参加すること。
・研究代表者は当該年度の実施期間終了後に、指定様式の実施報告書（収支報告含む）を総務課人事担当宛に提出すること。
・採択された申請については、研究タイトルと申請者所属、共同研究者所属名等が本事業で発行する広報物等に掲載される場合があります。また、その他の事項についても申請者の許可を得た上で掲載されることがあります。

申請書等の提出・お問合せ先
北見工業大学総務課人事担当
電話：0157-26-9115
メール：soumu06@desk.kitami-it.ac.jp

KNIT 研究交流発表会「異分野 meetup week2020」開催

●名　　称　KNIT 研究交流発表会
「異分野 meetup week2020」
●日　　時　2020 年 11 月 30 日～ 12 月 4 日
●対 象 者　KNIT 連携機関の他、大学、研究機関、企業等に所属する研究者・技術者・大学院生、テーマに関心のある方
●場　　所　オンライン
●参加者数　126 名(“異分野 meetup week2020”参加登録者数)
●主　　催　北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク(KNIT)
(北海道大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社)
●後援・協力　公益財団法人　北海道科学技術総合振興センター(ノーステック財団)
NPO 法人　butukura
●特別協力　北海道大学　大学力強化推進本部 URA ステーション、人材育成本部　研究人材育成推進室(L-Station)、産学・地域協働推進機構

活動内容・報告

異分野の研究者との交流を促進し、多様な視点や専門が融合するコミュニティや共同研究の発芽を目的として、2019 年より引き続き KNIT 研究交流発表会“異分野 meetup week2020”を開催した。昨年度から続く新型コロナウィルス感染症対策のため開催方法は完全オンラインとし、研究交流 WEB サイトの構築から準備が始まった。オンライン開催にすることで、昨年度の振り返りでいただいた“隙間時間で気軽にポスターを閲覧したい”という声を実現しやすくなり、開催期間は 5 日間とし、24 時間いつでもどこでもポスターを閲覧できるよう企画した。ポスターは今年も研究紹介を簡潔に用意できる「研究ノボリ」型テンプレートを用い、計 91 件のポスターが WEB サイトの画面を彩った。研究交流 WEB サイトからは、ポスターへのコメントや出展者へ直接メッセージを送ることができる機能を実装した。また、今年はポスターによる研究交流だけでなく、KNIT 連携機関それぞれが主催するセミナー（計 6 件）や、研究者交流サロンとしてじっくり語り合いたい研究者を募集してオンラインコミュニケーション企画（計 3 件）も行った。セミナーと研究者交流サロンには、延べ 200 名の方に参加いただいた。また、この期間中に KNIT 協力機関※ミーティングを開催して協力機関の皆様それぞれが感じているダイバーシティ研究環境に関する課題や状況の共有をした。

※ KNIT 協力機関：KNIT が目指すことに賛同いただいている企業・機関

〈異分野 meetup week2020　セミナー・サロン一覧〉

・セミナー　『産学官連携のための情報デザイン＆コミュニケーション』
開催日時：11 月 30 日　15：00 ～ 16：30
主　　催：北海道大学
ゲ ス ト：株式会社クレメンティア代表取締役　荒尾　裕子氏、株式会社 OWLS 代表取締役　横山　理佳氏

・サ ロ ン　「多様〈性〉のネットワーキング：セックス・ジェンダー・セクシュアリティ研究・教育が紡ぐ私たちの未来」
開催日時：12 月 1 日　11：30 ～ 13：30
主催研究者：北海道大学　大学院文学研究院　欧米文学研究室教授（英米文学）
応用倫理・応用哲学研究教育センター員
瀬名波　栄潤氏

・セミナー　『研究者のススメ、室蘭のススメ』
開催日時：12 月 2 日　12：10 ～ 12：45
主　　催：室蘭工業大学
司　　会：男女共同参画推進室長　山路　奈保子氏
ゲ ス ト：もの創造系領域　准教授　内海　佐和子氏
しくみ解明系領域　准教授　太田　香氏
ひと文化系領域　准教授　清末　愛砂氏
ひと文化系領域准教授　曲　明氏
しくみ解明系領域　助教　澤田　紋佳氏

・セミナー　「畜大型子育てサポート制度」
開催日時：12 月 2 日　13：30 ～ 14：30
主　　催：帯広畜産大学
ゲ ス ト：人間科学研究部門　准教授　中馬　いづみ氏
　　獣医学研究部門　准教授　上川　昭博氏

・サ ロ ン　『糖鎖研究について語ろう！』
開催日時：12 月 2 日　15：00 ～ 16：00
主催研究者：北海道大学大学院　医学研究院　講師
　　小林　純子氏

・セミナー　「地域と歩む冬季スポーツ支援工学」
開催日時：12 月 3 日　10：30 ～ 11：30
主　　催：北見工業大学
ゲ ス ト：冬季スポーツ科学研究推進センター　センター長
　　桝井　文人氏

・セミナー　KNIT a Network ！研究者交流会：ロールモデル座談会
開催日時：12 月 3 日　12：20 ～ 12：50
主　　催：北海道大学
ゲ ス ト：北海道大学高等教育推進機構 CoSTEP　特任助教　朴　炫貞（パク　ヒョンジョン）氏

・サ ロ ン　「アーティストが北大で働くということについて」
開催日時：12 月 3 日　13：10 ～ 14：00
主催研究者：北海道大学高等教育推進機構 CoSTEP　特任助教　朴　炫貞（パク　ヒョンジョン）氏、北海道大学人材育成本部　ダイバーシティ研究環境推進室　学術研究員　藤井　真知子氏

・セミナー　「北海道発・大学発の研究開発型ベンチャー立ち上げの方法論」
開催日時：12 月 3 日　16：30 ～ 17：30
主　　催：北海道大学
ゲ ス ト：メタジェンセラピューティクス株式会社　代表取締役社長、遠友ファーマ株式会社　取締役、株式会社ファストトラックイニシアティブ　ベンチャーパートナー　中原　拓氏

・セミナー　「みんなで摸るあなたの異分野～筑波大 100 人論文を踏まえたワークショップ～」
開催日時：12 月 4 日　10：30 ～ 12：00
主　　催：北海道大学
ゲ ス ト：筑波大学 URA 研究戦略推進室
リサーチ・アドミニストレーター　新道　真代氏

研究力向上・リーダー育成セミナー（教員向けセミナー、大学院生向けセミナー）

●名　　称　全 5 回シリーズ「PI を目指す女性研究者のための Leadership Development Training Program」
●日　　付　2020 年 9 月 15 日、10 月 13 日、11 月 17 日、2021 年 1 月 19 日、2 月 9 日
●対 象 者　KNIT 連携機関に所属する女性研究者（PD 含む）
●開催方法　オンライン（Zoom）
●参加者数　各回 12 名
●講　　師　Dr. Iris WIECZOREK
（IRIS Science Management Inc. 代表）

活動内容・報告

本セミナーは、女性研究者の研究力、リーダーシップ・マネジメント力向上を目的とし、2020 年 9 月から 2021 年 2 月まで、ほぼ月 1 回、全 5 回シリーズで開催した。

参加者は基本的に全ての回に参加することとし、それぞれリーダーシップとマネジメント、効果的なコミュニケーションのスキル、チームの構築・管理といったテーマに基づき Iris 氏のレクチャーを受けた。

参加者からは、セミナーの内容が非常に充実しており、科学的なキャリアを積む上で有益なアドバイスを得ることができた、インタラクティブなスタイルにより他の参加者から有益な解決策を学ぶことができたり、異なる視点から問題を見ることができるなど、参考になる点が多かった等といった感想が聞かれた。

女性研究者の研究力向上セミナー

研究者の情報発信力（研究ポスター、ポンチ絵、パネル、HP、プレスリリース作成等）を向上させることを目的に、効果的なポスター作りのノウハウを学ぶセミナーを開催した。

●名　　称　「ストーリー作りから始めるコミュニケーションデザイン」
●日　　時　2019 年 9 月 4 日　13：30 ～ 16：30
●対 象 者　KNIT 連携機関、協力機関に所属する女性研究者
●開催方法　対面（北海道大学人材育成本部会議室）／オンライン（Zoom）
●参加者数　16 名
●講　　師　株式会社スペースタイム
　　代表取締役　中村景子　氏

活動内容・報告

テンプレート型資料に、各自発信したい情報をひとつずつ記入していくと、最後のページには作成したい書類の概要が出来上がる不思議なテンプレートを使用した。また、出来上がった概要を元にルールに基づき、情報を配置し、ポスターを作成するという一連の流れを講師の座学を交え、学んだ。実際に作業したものに講師からのコメントをいただいたり、具体例も多く見ることができ、わかりやすかったとの声があった。

北海道大学の取組

女性研究者による研究会等開催支援

本支援では、本学の女性研究者が研究会等の開催を通じてリーダースキルを強化すること、また共同研究創出機会の増加を目的とし、本学の女性研究者が中心となって企画するシンポジウムや研究会等の実施にかかる経費等を支援する。2020 年度は 4 件の支援を行った。

●名　　称　フィールド言語学とフィールド言語学者のダイバーシティ
●開催日時　2020 年 9 月 22 日　9：45 ～ 17：45
●場　　所　オンライン開催
●参加者数　60 名
●講 演 者　（講演順）
吉岡乾　氏（国立民族学博物館）
ブガエワ・アンナ　氏（東京理科大学）
江畑冬生　氏（新潟大学）
伊藤雄馬　氏（東京外国語大学）
落合いずみ　氏（北海道大学）
●実施責任者　アイヌ・先住民研究センター　博士研究員

支援報告書より抜粋

本シンポジウムは講演者 5 名と司会者 4 名、計 9 名が主要なメンバーであったが、内訳は男性 5 名、女性 4 名であった。質疑応答では男性女性どちらの参加者からも活発な意見が寄せられた。男女比のバランスの取れたシンポジウムを届けられた。

言語学についてのシンポジウムであったが、人類学、考古学、生態学など異なる分野の専門家にご参加いただき、活発な意見交換が見らえた。異なる分野が交流するきっかけを作ることができた。

●名　　称　法獣医学研究会シンポジウム：動物虐待をめぐる現状と課題
●開催日時　2020 年 10 月 24 日　13：00 ～ 16：30
●場　　所　北海道大学獣医学研究院講堂／オンライン配信
●参加者数　150 名（オンライン 134 名を含む）
●講 演 者　（講演順）
田中亜紀　氏（日本獣医生命科学大学　講師）
三上正隆　氏（愛知学院大学法学部　教授）
高橋真吾　氏（東京都動物愛護相談センター多摩支所　支所長）
滝口満喜　氏（北海道大学大学院獣医学研究院　教授）

●実施責任者　　大学院獣医学研究院　教授

支援報告書より抜粋

本シンポジウムでは国内でこの分野に意欲的に取り組む女性研究者を招聘し、講演を行ったほか、獣医学系のシンポジウムに法学に関する講演も組み込み、あまりこれまでの開催の例のない、異分野連携のシンポジウムとなっている。シンポジウム後のアンケートでもこの点に非常に高い評価を得た。

今回のシンポジウムのテーマとなる法獣医学は、獣医学分野において国内ではまだ取り組んでいる大学が極めて少ないテーマであることから、アンケートにおいても本分野の展望への期待や、企画自体が貴重な機会であったことなどを指摘する意見が多かった。今後もこの分野におけるリーダーシップを持った推進が必要であることを改めて示している。

また、本シンポジウムは産官学が協働しており、情報交換会時には新たな共同研究を推進することが決まり、臨床と基礎のトランスレーショナルリサーチを新たに発出する機会となった。

●名　　称　INTERNATIONAL SYMPOSIUM, Energy Strategies for Sustainable Societies, Materials Discovery and Design

●開催日時　2020 年 12 月 10 日～ 12 月 11 日

●場　　所　オンライン開催

●参加者数　65 名

●講 演 者　（講演順）

Dr. Sinéad Griffin,
Lawrence Berkeley National Laboratory, USA.
Dr. Marcela Calpa,
Faculty of Engineering, Hokkaido University, Japan.
Professor Rosa Palacin,
Institut de Ciència de Materials de Barcelona, Spain.

●実施責任者　Laboratory of Inorganic Synthesis Chemistry, Division of Applied Chemistry, Faculty of Engineering Assistant Professor

支援報告書より抜粋

The webinar was an excellent opportunity to share and meet people from different places. Even hard schedule for some of the attendees, the webinar received students and researchers from Spain, the United States, Colombia, Turkish, India, Filipinas, and Japan. The webinar had 2 speakers from outside, female researchers with impressive achievements

being of great inspiration for the students and audience. Moreover, the participation of the postdoctoral researcher from our laboratory was a unique opportunity to disseminate our results and show the research conducting at Hokkaido University. In the discussion time, we have the intervention of professors and students of our faculty and students over the world. Without a doubt, this was a great opportunity to share impressions and receive feedback on this important topic. Strengthening of collaboration with the group of both professors is expected soon. This activity contributes positively to the leadership skills of the applicant's career.

●名　　称　土壌微生物×物質循環：ワークショップ
●開催日時　2021 年 1 月 28 日～ 1 月 29 日
●場　　所　オンライン開催
●参加者数　60 名
●講 演 者　（講演順）
　多胡香奈子　氏（農研機構・上級研究員）
　中岡慎治　氏（北海道大学・准教授）
●実施責任者　大学院農学研究院　特別研究員

支援報告書より抜粋

本ワークショップでは、男性 4 名･女性 4 名に講演してもらい、また、ポスター発表参加者も 21 名中 12 名が女性など、非常にダイバーシティの高いメンバーで行うことができた。

また、WS の準備から当日に至るまで、すべて申請者が取り仕切り、リーダースキルを強化できたことを確信している。Slack を通して等、情報交換も盛んに行われ、個人的にも多くの人と話す機会もあり、共同研究創出機会の増加にも貢献できたと思われる。

●女性研究者による研究会等開催支援募集要項

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2020 年度　女性研究者による研究会等開催支援　募集要項
（前期申請分）

本学は２０１９年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択され、全学的なダイバーシティ研究環境の推進とともに、研究リーダーや大学マネジメントを担う女性研究者の増加を目指しています。

そこで、本学の女性研究者が研究会等の開催を通じてリーダースキルを強化すること、また共同研究創出機会の増加を目的とし、下記の支援を実施いたします。なお、本支援は 2021 年度まで継続する見込みです。

【概要】

本支援は、本学の女性研究者が中心となって企画するシンポジウムや研究会等の実施に必要な経費の一部と、イベント運営に関するツールを支援します。

【主な支援内容】

研究会等の開催に必要な経費のうち、1 企画あたり 50 万円を上限として支援します。

【支援要件】

取組について、以下の条件を全て満たす必要があります。

- 本学に所属する女性研究者（特任教員・研究員を含む）が主宰する学術的企画である
- シンポジウム、フォーラム、ワークショップ、研究会のいずれかに類する
- 講師、企画者以外に 10 名以上の参加が見込まれる
- 2021 年 1 月 31 日までに開催する

【支援対象となる経費】

次の経費に限り、本学規定に沿って支出することができます

費目	
人件費	当日の運営を補助する短期支援員の人件費 ただし、短期支援員の募集や雇用手続きを各部局等で行う場合に限り支援対象とする
国内旅費	講師等※の国内旅費
外国人招聘旅費	講師等の海外招聘旅費
謝金	講師等への謝金
印刷費	取組の広報のためのポスター、チラシ、配布資料の印刷費
委託費	会場設営、広報物デザイン、当日の参加者に対する一時保育サービス、あるいはダイバーシティ研究環境推進室が個別に認めた業務を外部委託する際の委託費
消耗品費	企画を実施する上で必要不可欠であり、参加者（受益者）が負担することが適当ではない消耗品 ただし、いかなる場合も飲食物は支援対象外

※講師等：シンポジウム、研究会の基調講演者あるいはセミナーまたはワークショップの主講師に限る

【その他の支援】

- 参加申し込みフォーム設置
- 企画開催に必要な基本物品の貸出
- 大判プリンター出力
- 研究会等の動画配信支援※
- その他、企画に関する相談

※コロナ感染症の拡大防止と研究活動との両立のため、オンラインミーティングやウェブセミナー（Webinar）による研究会等の開催を積極的に支援します。Ree-D の担当者が以下のような全面的なサポートを行います。

- Zoom meeting（有料版）の利用
- Zoom meeting ウェビナーの利用
- Youtube Live による動画配信
- 配信機材の貸出と当日オペレーション
- その他動画配信に関する相談　など

まずはご相談ください。

【支援を受けた場合の義務】

- 広報物を作成する場合、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業の文言を入れること
- ダイバーシティ研究環境推進室を共催とすること
- 取組終了後 30 日以内に指定書式の実施報告書（収支報告含む）及び作成した広報物を提出すること

【申請方法】

所定の申請書をダイバーシティ研究環境推進室宛に電子メールにて提出

前期申請締め切り　2020 年 8 月 31 日

ただし、採択された取組の支援経費合計が予算額に達した場合は申請期限前に申請を締め切る。

【支援件数】

前期申請分については 2 件程度

なお、後期申請分については 1 件の採択を予定している

【審査方法】

申請者より提出された書類に基づき、ダイバーシティ研究環境推進室にて審査を行い、支援金額を決定します。申請書の受理連絡後、2 週間以内に採択可否を連絡します。

【経費執行方法】

基本的に部局等へ申請額の予算振替を行い、経費を執行していただきます。

ダイバーシティ研究環境推進室から直接経費を執行することもできますので、希望される場合はご相談ください。

お問合せ先：
北海道大学人材育成本部　ダイバーシティ研究環境推進室
電話：011-706-3625
メール：reed@synfoster.hokudai.ac.jp

Ⅱ-2-4　上位職への積極登用に向けた取組

北海道大学の取組

2020 年度　監事と語る会

北海道大学人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室では、2020 年 8 月末まで北海道大学監事を務められた竹谷千里前監事と協働し、教職員の方々と直接意見交換を行う「監事と語る会」を 2019 年より引き続き開催した。

2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為オンラインミーティングにて計 4 回実施した。

2019 年度の開催※と同様に、2017 年と 2018 年に実施した意識アンケートの結果をもとに、男女共同参画やダイバーシティ研究環境の視点から意見交換を実施した。職務、性別、職位など異なる様々な構成員に協力をいただいた。意見交換では、研究環境や就業環境の実態や認識について、多様な視点から様々な意見を聞くことができた。

※ 2019 年度開催については、2019 年度監事と語る会を参照（35 ページ）

〈開催履歴〉

※各 1 時間半程度にて実施

第 3 回　「女性教員の回」
開催日時：2020 年 4 月 23 日
参 加 者：本学女性教員（外国人教員含む）

第 4 回　「男性教員の回」
開催日時：2020 年 4 月 23 日
参 加 者：本学男性教員

第 5 回　「男性職員の回」
開催日時：2020 年 5 月 26 日
参 加 者：本学男性職員

第 6 回　「女性職員の回」
開催日時：2020 年 5 月 26 日
参 加 者：本学女性職員

上位職を目指す女性研究者のためのメンタリング・シャドウイング研修支援事業 SP

本事業は、キャリアアップを目指す女性研究者が、研究活動や業務のマネジメントについて学ぶために上位職の教員（以下「メンター」という）とのメンタリング※1 やジョブシャドウイング※2 を行う自主的な研修を支援するものである。

この研修を通じて上位職や組織運営を行う管理職の実態を知り、新たな視野・知見・意欲を獲得し、女性上位職研究者及び女性管理職の拡大につなげることを目的としている。2020 年度は 1 件の支援を行った。

※1　メンタリングとは

教育研究活動やキャリア形成についてメンターから直接指導を受けること

※2　シャドウイングとは

メンターの日々の仕事に同行し、様々なレベルでのコミュニケーションや意思決定を間近に見ることで、上位職研究者としての仕事のスキルや行動規範を学ぶもの

●支援対象者　北海道大学病院・講師
●メンター　旭川医科大学・教授
●実施期間　2020 年 11 月 4 日～ 11 月 6 日

●上位職を目指す女性研究者のためのメンタリング・シャドウイング研修支援事業 SP　募集要項

ダイバーシティ研究環境推進イニシアティブ（牽引型）

上位職を目指す女性研究者のための
メンタリング・シャドウイング研修支援事業 SP　募集要項

【概要】

本事業は、キャリアアップを目指す女性研究者が、研究活動や業務のマネジメントについて学ぶために上位職の教員（以下「メンター」という）とのメンタリングやジョブシャドウイングを行う自主的な研修を支援するものです。

この研修を通じて上位職や組織運営を行う管理職の実態を知り、新たな視野・知見・意欲を獲得し、女性上位職研究者及び女性管理職の拡大につなげることを目的としています。

メンタリングとは

メンタリングとは教育研究活動やキャリア形成についてメンターから直接指導を受けることです。

シャドウイングとは

シャドウイングとはメンターの日々の仕事に同行し、様々なレベルでのコミュニケーションや意思決定を間近に見ることで、上位職研究者としての仕事のスキルや行動規範を学ぶものです。

【期待される研修の効果】

この研修により、以下のような知見の獲得や効果が期待されます。

- 学生への指導、他の構成員やスタッフとのコミュニケーション能力
- 大学運営や管理的業務に関する知識
- 共同研究の立ち上げ、推進、発展の実際
- 研究プロジェクトの運営方法
- 時間管理や優先順位の付け方等、上位職者のセルフマネジメント
- 計画作成・研修実施・成果報告のプロセスによる自己啓発力の向上
- キャリア形成に関するアドバイス
- 講義の構成

また、メンターを通じたネットワーク拡大も期待されます。

【シャドウイング実践機会の例】

- メンターが参加する会議、ミーティング
- ラボマネジメント全般
- メンターと学生との研究ディスカッション、論文紹介指導
- 共同研究打ち合わせ
- 博士論文発表練習会
- 授業・ゼミなどの運営
- 研究室に滞在し、様々な場面でのセルフマネジメントやコミュニケーションを観察
- 時間管理、優先順位の付け方等のスキル
- 事務対応、研究室スタッフとのコミュニケーション方法
- 1 対 1 での直接指導（メンタリングセッション）

【研修計画における条件ならびに対象者】

研修は

1. 研修計画の作成
2. 計画に沿い、メンターによるシャドウイング研修あるいはメンタリング研修を実施
3. 研修効果について報告書作成

という 3 段階で構成され、これらを通しで実施することで高い研修効果が期待できます。

A. 希望するメンターが学内の研究者の場合

対象：本学に所属する女性のポスドク等の研究員、助教、講師、准教授（特任教員でこれらの職層の者も含む）

内容：1 時間以上のシャドウイングもしくは 1 時間以上の直接指導を、合計 2 時間以上行います。研修終了後に、ダイバーシティ研究環境推進室宛に研修報告書（様式あり）を提出します。

B. 希望するメンターが学外の研究者の場合

対象：本学に所属する女性の助教・講師・准教授（特任教員でこれらの職層の者も含む）

内容：滞在期間中に、シャドウイングと直接指導（メンタリング）を合計 8 時間以上実施します。

制限：研修先は国内に限ります。

※直接指導：研修者とメンターが研修内容に沿ったテーマで議論を行うこと

【支援内容】

A.　学内メンターの場合

- メンターリストの提供、及びリスト外のメンター候補者への趣旨説明
- 異なるキャンパスの学内メンターの下で研修を行う場合、研修に必要な旅費（上限 10 万円）

B.　学外メンターの場合

- メンターへの謝金（上限 5 万円）ただし、メンターが Knit 連携機関※に所属する場合は支出不可です
- 研修に必要な旅費（上限 15 万円まで）

※Knit 連携機関：北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークの共同実施機関である室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、日東電工株式会社、株式会社アミノアップ

【メンター】

研究者は、希望する研修内容にふさわしいメンターにあらかじめ内諾を得た上で、本事業への申請をしてください。必要に応じて、ダイバーシティ研究環境推進室からメンター候補者に対して研修の趣旨・意義などを説明し、希望するメンターの下で研修できるよう支援することも可能です。また、メンターの性別は問いません。

【研修可能期間】

2020 年 6 月 1 日～2021 年 2 月 28 日

【申請方法】

申請書に必要事項を記入し、希望する研修開始日の 6 週間前（最終期限：2020 年 12 月 10 日）までにメールでダイバーシティ研究環境推進室（reed@synfoster.hokudai.ac.jp）まで送付してください。
＊採択金額が予算額の上限に達した場合には、その時点で募集を終了します。

【事前相談】

メール、電話または事前予約の上での対面相談はいつでも受け付けています。

【審査】

ダイバーシティ研究環境推進室にて提出いただいた申請書により選考をします。選考の過程で追加の書類提出や面接を求めることがあります。

【主な審査の観点】

上位職への興味、意欲
研修目的の明確さ

【成果報告】

研修者は研修終了後 1 か月以内に、研修の成果を所定の書式で報告していただきます。また、学内の女性研究者に広く成果を波及するために、女性研究者交流会を兼ねた報告会にて研修の内容を報告していただく予定です。

【その他】

学外のメンターによる研修の研修者には、研修実施に際して秘密保持に係る誓約書へ記名押印いただきます。

また、本事業は、科学技術人材育成費補助金「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の一環として実施しているため、必要に応じて書類の提出等を依頼することがあります。

申請書等の提出先・お問合せ先：
北海道大学人材育成本部　ダイバーシティ研究環境推進室
電話：011-706-3625
メール：reed@synfoster.hokudai.ac.jp

室蘭工業大学の取組

教職員のためのトップセミナー 2020

教職員のダイバーシティに対する意識向上をめざすトップセミナーの 2020 年度開催状況は以下の通りである。

●日　　時　2020 年 11 月 2 日　13：00 ～ 14：30
●対 象 者　室蘭工業大学教職員
●場　　所　室蘭工業大学本部棟 3 階大会議室（Web 同時配信実施）
●参加者数　24 名
●講　　師　名古屋工業大学　学長特別補佐（ダイバーシティ推進担当）
　　大学院教授　（工学研究科社会工学専攻建築・デザイン分野）
　　藤岡　伸子　氏
●実施主体名　室蘭工業大学男女共同参画推進室

活動内容・報告

名古屋工業大学　学長特別補佐（ダイバーシティ推進担当）の藤岡　伸子先生をお招きし、『科学技術とダイバーシティの新しい関係　―「第 6 期科学技術・イノベーション基本計画」に盛り込まれる「ジェンダード・イノベーション」の視点とは―』と題してご講演いただいた。

これまでの名古屋工業大学における男女共同参画の取り組みについてご紹介いただいた他、後半ではジェンダード・イノベーション（Gendered Innovations）について、その視点の科学技術分野（STEM）における必要性について具体例を用いて解説いただいた。参加者からは積極的な意見交換がなされ、関心の高さが伺えた。さらに、当日は北海道大学や北見工業大学、北陸先端科学技術大学院大学、名古屋工業大学への web 配信を実施し、連携機関との情報共有を図ることができた。

北見工業大学の取組

役員と女性教員等の懇談会

女性教員の大学運営やマネジメントの視点の獲得を目指し、学長・理事と女性教員等の懇談会を実施した。

●日　　時　2020 年 9 月 29 日　10：30 ～ 12：00
●対 象 者　北見工業大学所属女性教員及びダイバーシティ推進室員
●場　　所　北見工業大学～第 1 会議室
●参加者数　14 名
●実施主体名　北見工業大学ダイバーシティ推進室

活動内容・報告

まず、総務担当理事から本学のダイバーシティに関する取組について説明があり、昨年 9 月に設置されたダイバーシティ推進室を中心として取り組んできた内容について紹介があった。引き続き研究担当理事より本学の研究戦略に関する説明がなされた。特に研究推進センターを中心とした重点研究分野の説明及び、2022 年 4 月に経営統合を目指している帯広畜産大学小樽商科大学との三大学連携の研究プロジェクトについても現時点での構想の説明がなされた。その後は学長とも質疑応答を行い、研究プロジェクトに関する質問や、2021 年度までに女性教員比率 10％を目指すという目標に関しての質問、育児期の研究者への支援制度が活用されていない点について、利用しやすい制度に修正が必要ではないかとの意見も出された。

株式会社アミノアップの取組

女性研究員と会社トップ（社長）との個別面談

当社では半年に 1 度、社長と女性研究員による個別面談が実施されている。面談ではキャリア形成やその実現について話し合い自律的な成長を促す機会となっている。また、女性研究員の活躍をサポートするための相談窓口としての役割も果たしている。

●名　　称　2020 年度　上期　社長面談
●日　　時　2020 年 11 月 25 日、11 月 30 日、12 月 1 日
●対 象 者　株式会社アミノアップ　研究部在籍の女性研究員
●場　　所　株式会社アミノアップ～ 1 階会議室
●参加者数　5 名

活動内容・報告

2020 年度 1 回目となる今回の個人面談は 3 日間かけて実施された。例年、面談時間は 1 名当たり 20 分設けられていたが、新型コロナウイルス感染予防の観点から 10 分に短縮して行われた。今回の面談では各研究員がどのように成長していくのかについて話し合われ、中長期的なキャリア形成について考える機会となった。また新型コロナウイルス感染予防のためテレワークや時差出勤制度の利用者が増え、それに伴い「仕事と育児の両立」や「ワークライフバランス」がどのように変化したのか意見を聴くことができた。

Ⅱ-2-5　女性研究者の裾野拡大に向けた取組・その他

北海道大学の取組

大学進学相談会参加

女子生徒の理系進学選択を促進するために、高等学校等で開催された進学相談会に参加した。

〈参加履歴〉

2020 年 7 月 30 日　北海道名寄高等学校　2・3 年生
2020 年 8 月 4 日　北海高等学校　1・2・3 年生
2020 年 8 月 20 日　株式会社れんせい（学習塾の学生対象）
2021 年 1 月 29 日　北海道科学大学高等学校　1 年生

室蘭工業大学の取組

キャリア形成のためのランチタイムセミナー

女性研究者の裾野拡大をめざし学生を対象に行うランチタイムセミナーの 2020 年度開催状況は以下の通りである。

●名　　称　キャリア形成のためのランチタイムセミナー　第 14 回
●日　　時　2020 年 12 月 2 日　12：10 ～ 12：45
●対 象 者　室蘭工業大学学生・教職員・若手研究者　等
●場　　所　ZOOM によるオンラインセミナー
●参加者数　31 名
●司　　会　男女共同参画推進室長　山路　奈保子　氏
●ゲ ス ト
◇もの創造系領域　准教授（都市計画・建築計画）　内海　佐和子　氏
◇しくみ解明系領域　准教授（情報ネットワーク）　太田　香　氏
◇ひと文化系領域　准教授（憲法・家族法・ジェンダー法）　清末　愛砂　氏
◇ひと文化系領域　准教授（中国語教育・異文化コミュニケーション）　曲　明　氏
◇しくみ解明系領域　助教（媒体化学・反応工学）　澤田　紋佳　氏

●実施主体名　室蘭工業大学男女共同参画推進室

活動内容・報告

「異分野 meetup week2020」の一環として、「キャリア形成のためのランチタイムセミナー拡大版：研究者のススメ、室蘭のススメ」と題して本学女性教員によるオンラインでの公開座談会を行い、研究者になって良かったと思うこと、研究という仕事の大変なところやつらいところ、室蘭工業大学や室蘭の良いところ等を語った。本学学生・教職員・若手研究者の他、異分野 meetup week 2020 専用 web サイトを通じた視聴申し込みによる他大学の学生・教職員等の参加もあった。

北見工業大学の取組

次世代研究者のための講演会

企業等で活躍する若手研究者に自身の体験を交えて研究者という職業の選択及び実際の研究生活について語っていただくことで、本学学生及び周辺高校の生徒に研究及び研究職の魅力を理解してもらうための講演会を開催した。

●日　　時　2020 年 8 月 3 日　13：00 ～ 14：15
●対 象 者　北見工業大学学生・教職員、オホーツク管内高校生
●場　　所　オンライン：Webex
●参加者数　135 名
●講　　師　株式会社アミノアップ　研究部　小川瑛利子氏
●実施主体名　北見工業大学ダイバーシティ推進室

活動内容・報告

講師はダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）連携機関の一つである株式会社アミノアップに所属している若手研究者である。自身の研究者となるまでの道のり、及び企業での研究者生活について具体的に説明していただいた。博士後期課程への進学においては、農学系ということで周囲に女性の先輩が複数いたそうで、その点が工学系の環境とは大きく異なると思われた。講演後、学生から多数の質問が寄せられた。博士課程進学に際して一番悩んだ点や、実験に追われる生活の中でのメンタルコントロールについて等、一つ一つに丁寧に回答していただいた。アンケートの結果から、「研究者を目指したい」、「また同様の講演会を企画して欲しい」という声が多数寄せられた。

今回、管内の高校にも開催通知を行ったが、コロナ禍で高校の授業編成も厳しい状況であったため、参加者はなかった。

大学院進学に向けた女子学生懇談会

女性研究者裾野拡大には、大学院への進学者を増加させることが必要不可欠である。分野によっては身近に女子大学院生がいない環境の学部生もいるため、進学に対する不安解消及び大学院生活について周知するため、学部女子学生と大学院女子学生との懇談会を実施した。

●日　　時　2020 年 11 月 5 日　16：30 ～ 18：00
●対 象 者　北見工業大学学生
●場　　所　北見工業大学～ A207 講義室
●参加者数　学生 8 名及び教職員 6 名
●実施主体名　北見工業大学ダイバーシティ推進室

活動内容・報告

博士前期課程 2 年に在籍している学生から、自身の研究生活や就職活動の経験等を話してもらった。大学院進学を決めた時期は学生によってさまざまで、学部入学時から希望していた人もいれば、4 年生になって決めた人もいた。研究室選択についてもどのような観点で選んだかを具体的に説明してくれたので、学部学生に参考になったと思われる。大学院での生活の中で、実験・講義対応の忙しさに加えてアルバイトも両立させるために時間管理を工夫する必要があったという話も参考になったと思う。学部学生からの就職活動や研究室選択についての質問に対して、自身の経験から具体的な助言をしてくれたので、参加者には参考になったと思う。より多くの学部学生が参加できるように、次年度は開催時期を再検討したい。

株式会社アミノアップの取組

北見工業大学主催「次世代研究者のための講演会※」(※97ページと同一企画)における弊社研究員の講演

大学院に進学して研究を続ける学生や研究者を目指す学生を対象とした講演会が実施され、弊社女性研究員が企業における働き方、女性研究者や博士人材の活躍の場などについて講演した。

●名　　称　次世代研究者のための講演会
●日　　時　2020年8月3日　13：00～14：15
●対 象 者　北見工業大学の学生等
●場　　所　北見工業大学　オンライン：Webex even
　　株式会社アミノアップ　オンライン：Webex even
●講　　師　株式会社アミノアップ　小川瑛利子　氏
●実施主体名　北見工業大学

活動内容・報告

弊社の入社3年目の女性研究員が講師となり、「研究職の魅力～企業で働く若手研究者のキャリア」というタイトルで講演を行った。講演の前半では自身の経歴や弊社概要の紹介後、研究者を目指すこととなったきっかけや大学院での研究内容について発表した。博士人材の就職活動について紹介し、大切なことは「自分は研究者としてどんな仕事をしたいのか？」を詳細まで具体化することであると博士課程における経験談を交えて説明していた。講演の後半では企業研究員の業務イメージとして、一日のスケジュールや入社してから具体的な業務について紹介した。大学院で学んだことが企業でどのように役立っているのかを伝えると共に、企業が博士人材に求めているものについて自身の考えを述べた。最後に学生へのメッセージとして「大学卒業後の人生の理想形について考えてみてください。学生時代は自分の可能性を広げるチャンスが多いのでその理想形は変化するかもしれません。変化する理想形を楽しみながら真の理想な人生の構想を練ってみてください。」という言葉で講演を締めくくった。

日東電工株式会社の取組

インターンシップ

●日　　時　　2020年度

活動内容・報告

2019年度に引き続き、グローバル人財の採用を目指す中で、学生が様々な体験を通じて成長できる場を提供することを目的としたインターンシップ「Nitto Internship Academy」を実施した。

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」
2019～2020年度

活動報告書

発　行：2021年3月
発行者：北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク
（北海道大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社）
https://knit.synfoster.hokudai.ac.jp/
お問い合わせ：knit@synfoster.hokudai.ac.jp
印刷所：株式会社 アイワード

Knit a network
for diversity and inclusion toward innovation